

官報

號外

大正十年三月十一日 金曜日

印刷局

第四十四回衆議院議事速記録第二十五號

大正十年三月十日(水曜日)午後一時十八分開議

議事日程 第二十四號 大正十年三月十日

午後一時開議

- 第一 産業組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 住宅組合法案(政府提出) 第一讀會
- 第三 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第四 朝鮮私設鐵道補助法案(政府提出) 第一讀會
- 第五 樺太地方鐵道補助法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 明治四十一年法律第三十五號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 水道條例中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十 大正九年法律第十號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十一 憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 地方鐵道法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十三 地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 刑法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 刑法中改正法律案(宮古啓三郎君外七名提出) 第一讀會
- 第十七 未成年者飲酒禁止法案(根本正君外五名提出) 第一讀會
- 第十八 非役壯丁稅法案(荒川五郎君外六名提出) 第一讀會
- 第十九 辯護士法改正法律案(鶴澤總明君外九名提出) 第一讀會

- 第二十 所得稅法中改正法律案(岩本義君外九名提出) 第一讀會
- 第二十一 明治三十四年法律第三十號中改正法律案(齋藤啓太郎君外六名提出) 第一讀會
- 第二十二 地方學事通則中改正法律案(竹上藤次郎君提出) 第一讀會
- 第二十三 沒祿者給與法案(齋谷直太君外八名提出) 第一讀會
- 第二十四 營業稅法中改正法律案(荒川五郎君提出) 第一讀會
- 第二十五 民法中改正法律案(奧村安太郎君提出) 第一讀會
- 第二十六 地租條例中改正法律案(下田勘次君外二名提出) 第一讀會
- 第二十七 刑事略式手續法廢止法律案(永屋茂君外四名提出) 第一讀會
- 第二十八 埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案(粕谷義三君外七名提出) 第一讀會
- 第二十九 佐賀監獄移轉ニ關スル建議案(川原茂輔君外三名提出) 第一讀會
- 第三十 川內川改修ニ關スル建議案(荻亮君外五名提出) 第一讀會
- 第三十一 航空事業ノ擴張及其ノ行政機關ノ統一ニ關スル建議案(三善清之君外五名提出) (委員長報告)
- 第三十二 徵兵令事務施行細則改正ニ關スル建議案(植原悅二郎君提出)
- 第三十三 産業組合法及重要物產同業組合法改正並同組合振興ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第三十四 成年調查ニ關スル建議案(奧村安太郎君外一名提出)
- 第三十五 石油政策ニ對スル燃料調查會設立ニ關スル建議案(高野毅君提出)
- 第三十六 特別市制促進ニ關スル建議案(作間耕遠君外五名提出)
- 第三十七 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(秋本喜七君外二名提出)
- 第三十八 多摩川改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案(高木正年君外六名提出)
- 第三十九 免因差別待遇撤廢ニ關スル建議案(鮎川盛貞君提出)
- 第四十 救世軍補助ニ關スル建議案(橫山勝太郎君提出)
- 第四十一 科學知識普及ニ關スル建議案(鈴木健藏君提出)
- 第四十二 遠東鐵道速成ニ關スル建議案(松浦五兵衛君外五名提出)
- 第四十三 大垣、大野、金澤間鐵道速成ニ關スル建議案(西村正則君外八名提出)
- 第四十四 熱海線完成ニ關スル建議案(森格君提出)
- 第四十五 米穀專賣法制定ニ關スル建議案(小曾劍之助君外三名提出)
- 第四十六 商務省及工務省設置ニ關スル建議案(奧村安太郎君外一名提出)
- 第四十七 癲狂院增設ニ關スル建議案(中馬典九君外三名提出)
- 第四十八 傳染病豫防法改正ニ關スル建議案(松下禎二君外三名提出)
- 第四十九 中央線淺川驛鹽山驛間電力速成ニ關スル建議案(三枝孝太郎君提出)
- 第五十 賣藥營業稅廢止ニ關スル建議案(高見之通君外二名提出)
- 第五十一 大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案(山口義一君外四名提出)
- 第五十二 國分岩川間鐵道敷設ニ關スル建議案(日野辰次君外一名提出)
- 第五十三 櫻井松坂間鐵道速成ニ關スル建議案(津野田是重君外九名提出)
- 第五十四 勢江鐵道速成ニ關スル建議案(天春文衛君外七名提出)
- 第五十五 西條松山間鐵道豫定線一部變更ニ關スル建議案(成田榮信君外五名提出)
- 第五十六 溫泉政策ニ關スル建議案(成田榮信君外一名提出)
- 第五十七 港灣行政ニ關スル建議案(三善清之君外四名提出)

第五十八 鹿兒島縣各離島航海補助増額ニ關スル建議案(鷗苗代君外七名提出)

第五十九 三原吳間鐵道敷設速成ニ關スル建議案(井上角五郎君外三名提出)

第六十 酒造税法中改正ニ關スル建議案(中村清造君外四名提出)

第六十一 農產物收穫調査及農家經濟調査確立ニ關スル建議案(土井權大君提出)

第六十二 軍人恩給法中改正ニ關スル建議案(近藤達見君提出)

第六十三 清酒ノ滓引及貯藏減量控除額増加ニ關スル建議案(山邑太三郎君外二名提出)

第六十四 相可町大口港間鐵道敷設ニ關スル建議案(伊坂秀五郎君外四名提出)

第六十五 野岩羽鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)

第六十六 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案(八田宗吉君外三名提出)

第六十七 濃飛鐵道速成ニ關スル建議案(西田銳吉君外三名提出)

第六十八 僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權附與ニ關スル建議案(安藤正純君提出)

第六十九 東京外國語學校修業年限延長ニ關スル建議案(菅原傳君外三名提出)

第七十 北海道本州連絡完成ニ關スル建議案(伊藤廣發君外四名提出)

第七十一 本州三次間鐵道建設ニ關スル建議案(原夫次郎君外五名提出)

第七十二 落合本水間鐵道起工年度繰上ニ關スル建議案(佐野正雄君外五名提出)

第七十三 日向沿岸國庫補助港設定ニ關スル建議案(長峰與一君外二名提出)

第七十四 恩給法規ノ根本改正ニ關スル建議案(高木正年君外二名提出)

第七十五 福山三次間鐵道速成ニ關スル建議案(永屋茂君外三名提出)

第七十六 吉野縱貫鐵道建設ニ關スル建議案(岩本平藏君外三名提出)

第七十七 瘡癰防關係法規改正ニ關スル建議案(中馬典九君外二名提出)

第七十八 山田川ニ河川法適用ニ關スル建議案(原田藤次郎君外五名提出)

第七十九 鴨綠江岸道路修築ニ關スル建議案(高見之通君外五名提出)

第八十 京都監獄移轉ニ關スル建議案(竹上藤次郎君外三名提出)

第八十一 六大都市特別市制速施ニ關スル建議案(奧村安太郎君外三名提出)

第八十二 國幣大社大山祇神社昇格ニ關スル建議案(深見寅之助君外五名提出)

第八十三 國幣大社大山祇神社國寶殿建築ニ關スル建議案(深見寅之助君外五名提出)

第八十四 山田豐岡間鐵道速成ニ關スル建議案(山田桃藏君外二名提出)

第八十五 富山伏木間鐵道建設ニ關スル建議案(高見之通君外三名提出)

第八十六 松江隱岐間海底電線増設速成ニ關スル建議案(若林德懋君外五名提出)

第八十七 金融機關整備ニ關スル建議案(河上哲太君外十一名提出)

第八十八 思想問題審議機關設置ニ關スル建議案(星島二郎君提出)

○議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

(原田書記官朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君 松本孫右衛門君

提出者 鐸木三郎兵衛君 川口誠三郎君

提出者 堀切善兵衛君 白井 博之君

提出者 石川 淳君

信越東線鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 武田德三郎君 丸山嵯峨一郎君

敦賀今津間輕便鐵道豫定線追加ニ關スル建議案

提出者 安原仁兵衛君 阿崎 清君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

提出者 早川 龍介君

○議長(奧繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

(原田書記官朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

阿武隈川阿賀川改修工事費國庫補助増額ニ關スル建議案

提出者 八田 宗吉君 松本孫右衛門君

提出者 鐸木三郎兵衛君 川口誠三郎君

提出者 堀切善兵衛君 白井 博之君

提出者 石川 淳君

信越東線鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 武田德三郎君 丸山嵯峨一郎君

敦賀今津間輕便鐵道豫定線追加ニ關スル建議案

提出者 安原仁兵衛君 阿崎 清君

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

提出者 早川 龍介君

○議長(奧繁三郎君) 會議ヲ開キマス、諮問事項ガアリマス

議員松島榮君病氣ニ付、三月十日ヨリ十日間請假ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(奧繁三郎君) 御異議ガ無イト認メマス、仍テ許可致シマス、次ニ第五部選出決算委員鎌田三郎兵衛君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス、昨日春日君ヨリ議長ニ御尋ノ事ガゴザイマス、之ニ對シテ御答致シマス、速記録ヲ見マス、木下謙次郎君ハ諸君ガ御異議ガアリマスナラバ少シ脱線ノ氣味アリマスケレドモ、證據ヲ舉ゲテ諸君ノ反省ヲ促サウト思ヒマス、ト云フ演說ガアリマス、其際ニ於ケル副議長——議長席ニ若カレテ居リマシテ、當時ノ考ヲ聽キマス、少シ脱線ノ氣味ガアルト云フ前提アリマシタ、如何ナル事ヲ演說サレルカ之ヲ聽イタ上、果シテ脱線ナラバ注意シヤウト云フ考デア、ト云フコトデス、當議長ニ於キマシテモ同様ノ考ヲ懷キマス、ノデ、脱線シテ餘計ナ事ヲ言ハレルノハ、之ヲ差止メルカ注意スル考デゴザイマス、左様御承知ヲ——日程第一第二ハ便宜上一括議題ト致シマス、日程第一、產業組合法中改正法律案、日程第二、住宅組合法案ヲ一括シテ議題ニ供シマス、其第一讀會ヲ開キマス、岡本政府委員

第一 產業組合法中改正法律案(政府提出)

產業組合法中左ノ通改正ス

第一條中「生計」ヲ「經濟」ニ、「購買」シ之ニ加工シ又ハ加工セシテ「買入」レ之ニ加工シ若ハ加工セシテ又ハ之ヲ生産シテ「組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ」ヲ「組合員ヲシテ産業又ハ經濟ニ」、「(生産組合)ヲ(利用組合)ニ」、「出資一口ヲ「出資一口ノ金額及出資一口ニ付定款ノ定ムル所ニ依リ加入ニ關シ拂込ムヘキ金額ノ合計額」ニ、第四項ノ規定ニ依リ貯

金ヲ取扱フヲ第四項ノ規定ニ依リ手形ノ割引又ハ貯金ノ取扱フ爲スニ改ム

第十六條ノ六第一項但書ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

組合原簿ニ記載シタル事項ノ變更ノ届出又ハ組合原簿ノ提出ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ事業年度ノ終

ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ組合員ノ脱退又ハ保證金額ノ減少ニ付テハ總組合員ノ同意ヲ以テ

定款ニ之ヲ定メタル場合ニ限ル

第三十四條ノ二 理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ

理事カ第二十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲

ササルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ

第四十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ配當スヘキ剩餘金ノ計算ニ付テハ計算上不便ナル拂込金ノ端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

第六十條ノ二 理事ノ缺ケタル爲損害ヲ生スル虞アルトキハ地方長官ハ假ニ理事ヲ選任スルコトヲ得

第七十六條 産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合聯合會)

二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セシメテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合聯合會)

三 所屬組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セシメ又ハ之ヲ生産シテ所屬組合ニ賣却スルコト(購買組合聯合會)

四 所屬組合ヲシテ必要ナル設備ヲ利用セシムルコト(利用組合聯合會)

産業組合聯合會ハ産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス但シ信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行フ聯合會ヲ以テ、販賣組合聯合會及購買組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行ハサル産業組合又ハ産業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得ス

第九十三條ノ三 第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル

第九十四條中「前條ヲ」前二條ニ改ム

第一百六條中「伊豆七島ニ於テハ東京府知事」ヲ削リ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ設立シタル生産組合又ハ生産組合聯合

會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル利用組合又ハ利用組合聯合會ト看做ス

第一 住宅組合法案(政府提出) 第一讀會

住宅組合法案

住宅組合

第一條 住宅組合ハ組合員ニ住宅ヲ供給スルヲ以テ目的トス

住宅組合ハ法人トス

第二條 住宅組合ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一 住宅用地ノ取得、造成若ハ借受又ハ組合員ニ對スル貸付若ハ譲渡

二 住宅ノ建設又ハ購入

第三條 本法ニ於テ住宅ト稱スルハ住居ノ用ニ供スル家屋及其ノ附屬設備ヲ謂フ

前項ノ附屬設備ノ種類及範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 組合ノ供給スル組合員ノ住宅ハ一組合員ニ付一戸ニ限ル

第五條 住宅組合ノ供給スル住宅ニ關スル坪數其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 組合員ノ持分ハ之ヲ相續スルコトヲ得

第七條 組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコトヲ請求スルコトヲ得

一 出資拂込ノ義務ヲ怠リタルトキ

二 組合ノ定ムル住宅使用條件ニ違反シタルトキ

第八條 組合員ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ住宅ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ組合ヲ脱退ス

第九條 組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權ヲ取得シタルトキハ組合ハ組合員ヲシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定セシムルコトヲ得

第十條 住宅ハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ火災保險ニ付スヘシ

第十一條 住宅組合ノ住宅ノ建設、購入若ハ住宅用地ノ取得又ハ組合員組合員トノ間ニ於ケル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十二條 北海道地方費府縣又ハ市町村ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ住宅組合ニ對シ住宅資金ヲ貸付スルコトヲ得

第十三條 國、北海道地方費、府縣、郡又ハ市町村ノ所

有ニ屬スル土地ハ隨意契約ニ依リ住宅組合ニ之ヲ賣拂又ハ貸付スルコトヲ得

第十四條 住宅組合ハ主務大臣、地方長官、郡長及市長之ヲ監督ス

第十五條 本法中郡、郡長トアルハ郡長ヲ置カサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトシ市町村、市長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第十六條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條乃至第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ同法第四十五條第三項及第四十八條第一項中期間ニ關スル規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

産業組合法ハ第一條、第五條、第十六條、第三十二條、第三十四條、第三十八條、第四十三條、第四十四條、第四十六條乃至第四十六條ノ三、第五十九條、第六十九條、第七十五條、第七十六條乃至第九十二條及第六十六條ノ規定ヲ除クノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(政府委員岡本英太郎君登壇、拍手起ル)

○政府委員(岡本英太郎君) 産業組合法改正ノ理由ヲ説明申上ゲマス、産業組合法ハ明治三十三年ノ制定ニ係ッテ居ルノデゴザイマシテ、其後時勢ノ必要ニ迫ラレマシテ三回改正ヲシ來リマシテ、産業組合ノ發達ニ資シテ居ルノデアリマスガ、尙ホ時運ノ進展ニ件ヒマシテ、組合經營ノ事業、並ニ聯合會ノ構成者ノ範圍ヲ擴張致シマス、又組合管理上ノ不便不利ノ點ヲ改メマス、又登記手續ノ簡捷ヲ圖リマシテ、以テ益、産業組合ノ發展ニ資セント致スノデアリマス、是レ本案ヲ提出致シマシテ理由デゴザイマス、願クバ御審議ノ上、御賛成アラントラ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 日程第一ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス、土井權大君

○土井權大君 住宅法モ共ニヤリタイノデスガ、マダ出テ居ラスノ二構ハスノデスカ

○議長(與繁三郎君) ソレデハ住宅組合法ノ説明ヲ聽イタ上デアリマス、日程第二ハ內務大臣ヨリ説明ガアリマス、床次內務大臣

〔國務大臣床次竹二郎君登壇、拍手起立〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 住宅法案ニ就テ大體ノ說明ヲ申上ゲマス、時局以來住宅難ノ聲ガ段々起リテ參リマシタノミナラス、此問題ハ國民生活上、申スモナク緊切ナル事柄デゴザイマス、之ガ解決ニ就テハ少カラズ注意ヲ要スルコト、考ヘルノデアリマス、御承知ノ如ク昨年來或ハ建築資金ノ低利融通ノ如キ、建築用材廉價拂下ノ如キ、又ハ用材ノ鐵道運賃ヲ減免致スト云フヤウナコトノ如キ、種々便宜ヲ計テ參リマシタノデアリマス、今日迄此爲メニ低利資金ヲ融通致シマシタ額ハ約二千三百萬圓ニ上テ居リマシテ、其資金ニ依テ建築サレトスル家屋ノ數ハ、一万五千有餘ニ上テ居ルノデアリマス、サリナガラ此住宅ノ問題ハ時勢ノ進捗ニ伴レテ、益々其必要ヲ感ズルニ至ルデアラウト考ヘルノデアリマス、仍テ茲ニ住宅ニ關スル法制ヲ今日ニ於テ整備ヘテ置キマス云フコトハ、極メテ相當ナリト考ヘルノデアリマス、ソレニ就キマシテハ小住宅ノ貸付ヲ目的トスル所ノ住宅會社法、若クハ互助的ニ住宅ノ供給ヲ仰ギ得ル所ノ所謂住宅組合法ノ如キモノヲ制定致スト云フコトガ宜シカラウト考ヘルノデアリマス、其中此住宅會社法ノ如キハ審查ニ手數ヲ要シマス、今調査中デアリマス、到底此議會ニ提出スル運ビニハ參リマセズ、幸ヒ住宅法ダケハ爰ニ成案ヲ得テ御協賛ヲ仰グニ至ラズ大デアリマス、此法案ノ趣意ハ、組合員互ニ出資スル、十人以上ノ人ガ組合ヲ組織致シマシテ、以テ互ニ小住宅ノ供給ヲ受ケル便利ヲ得ル途ヲ開クト云フノデアリマス、ソレガ爲メニ此組合ニ對シテハ、或ハ課税ノ免除、若クハ資金貸付ノ便宜ヲ開キ、若クハ官公有地賣却貸付等ニ就テ特ニ組合ノ爲メニ便利ヲ與ヘマシテ、以テ此小住宅ノ供給ヲ出來ルガ都合好ク致サウト云フ趣意デゴザイマス、今日ノ時勢ニ於テ極メテ必要ナリト考ヘマス次第デアリマス、何卒御審議ヲ願ヒマス(拍手起立)

○議長(奥繁三郎君) 土井權大君

〔土井權大君登壇、拍手起立〕

○土井權大君 只今提案サレマシタル產業組合法ノ改正案、並ニ住宅組合法案ハ、共ニ重要ナル法案デアリマシテ、社會政策實行ノ上ニ極メテ緊要ナル法案デアリマス、併ナガラ爰ニ二三不満足ナ點アリ、又不徹底ナル點アリト考ヘマスルガ故ニ、疑ヲ質シタイノデアリマス、第一ハ產業組合及聯合會ノ事業ヲ擴張シテ、國民生活及經濟ノ安定ヲ圖ルト斯ウ云フ御説デアリマス、尤モ產業組合ト致シマシテ斯ノ如キ事業ノ擴張ト云フコトモ必要デアリマセウガ、ソレヨリモ今日日用品ガ高イ、小賣價值ガ高イト云フノハ、ドノ邊カラ原因致シテ居ルカト研究致シテ見マス、彼ノ小賣商ガ重要物產同業組合法ノ蔭ニ隱レマシテ、卸賣ノ値段

ガ廉クナテ居ルニモ拘ラズ、小賣價值ノ價格ヲ協定シテ、此日用品ノ小賣價值段ヲ下ゲナイコトニ致シテ居ル、所謂低落ヲ阻止致シテ居ル現狀デアリマシマス、米ニ致シマシテモ、酒ニ致シマシテモ、薪炭ニ致シマシテモ、政府モ御承知デアラウト思ヒマス、故ニ國民生活安定ヲ圖ルト致シマスルニハ、一方ニ產業組合ノ獎勵ヲスルト同時ニ、一方ニ同業組合ノ改正ヲ致シマシテ、彼ノ小賣商ナドニハ同業組合ヲ許サナイト斯ウ改正ヲ致シテ、小賣商ノ惡弊ト云フモノヲ打破スルニ非ザレバ、折角ノ產業組合ノ改正モ其效ナシト私ハ考ヘルノデアリマス、政府ニ於テ此點ニ就テ如何ニ御考ナサレテ居ルカ、ソレカラ第二ハ現行ノ產業組合法、並ニ此改正サレタル所ノ產業組合法ノ案ニ依リマシテモ、其等ノ運用ニ依テ、十分ニ此住宅問題ハ解決出來ルモノナリト私ハ信ジテ居ル、更ニ此產業組合ハ、其資金ノ授受ト云フ點ニ於テモ便利ガアルデアラウ、更メテ此住宅問題ノ解決ヲ爲スト云フコトガ便利デアリ、又政務統一ノ上ニ必要デハナイカト斯ウ私ハ考ヘルノデアリマス、此點ニ就テ政府ハ如何ニ御考ナサレテ居ルノデアリマス、ソレカラ第三ハ此產業組合法中、信用組合聯合會ヲ何故ニ此系統の組織ニナサナカッタノデアルカ、言葉ヲ換ヘテ申シマスレバ、信用組合聯合會ニ他ノ信用組合聯合會ノ加入ヲ、何故ニ認メナカッタノデアルカ、此事ガ承リタイノデアリマス、御承知ノ通り農村ニ低利資金ノ融通ト云フコトニ就テハ、隨分ハ簽シク昨今問題トナテ居リマス、其低利資金ガ完全ニ融通シ能ハザル原因ハ、農村ニ於ケル經濟ノ組織ガ不完全デアル此一點デアリマス、ソレ故ニ普遍的ニ徹底的ニ農村ニ資金ヲ融通致サウト致シマスレバ、一ツ村一產業組合ハ、更ニ一郡ヲ區域トスルカ、若クハ便利ナ地區ヲ一區域トスル所ノ聯合會ヲ造リ、其聯合會ハ更ニ進シテ、大ナル一縣一區域トスル所ノ信用組合ヲ造リ、其信用組合ハ更ニ一國ヲ一國家ヲ本位トシ中心トスル所ノ信用組合、假リニ謂フ所ノ庶民金融機關ニ云フモノヲ設置シテ、始メテ此中產階級並ニ小サイ所ノ農民、水吞百姓五段百姓ニ對シテ、徹底的ニ普遍的ニ金融ノ途ヲ付クノデアル、然ルニ此改正案ヲ見マスルト「信用組合聯合會ハ同種ノ事業ヲ行ハサル產業組合又ハ產業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得ス」即チ更ニ系統のデナイ信用組合ハ——信用組合ノ聯合會ハ、進ンデ上級ノ聯合會ヲ作ルコトガ出來ナイ、ト斯ウ云フコトニナテ居ル、是ハ如何ナル理由デアルカ、私ヲシテ言ハシメタラバ、資本家ニ味方ヲシ、或ハ銀行業者ニ味方ヲシテ、中產階級ニ味方ヲセザル所ノ條文デハナイカト、斯ウ考

ヘルノデアリマス、產業組合中ニ於テ、最モ必要ナ點ハ此點デアラウト思フノデアリマス、政府ニ於テ何故ニ改正ヲ爲サナカッタノデアルカ、之ヲ承リタイノデアリマス、ソレカラ第四トシテ承リタイノハ、此住宅解決問題ニ就キマシテ、產業組合法ニ依テモ宜シイ、私ノ説トシテハ、產業組合法ニ依ルガ宜イト申スノデアリマス、假リニ依ラストスルモ、假リニ此住宅組合法ヲ實行スルト致シマスモ、其住宅解決ニ最モ必要ナルモノハ何デアルカト、申シマスルト云フコト宅デアラウト私ハ考ヘルノデアリマス、其宅地ニ要タル所ノ土地ヲ如何ニシテ供給ヲ受ケルカ、此法案ヲ拜見致シマス、何等其強制徵收ナドノ方法モ無ケレバ、或ハ土地收用法ノ適用モ無イカノ如ク見ユルノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ヒマシタナラバ、住宅ニ必要ナル所ノ宅地——宅地ノ供給ヲ受ケルノニハ、必ズヤ強制徵收カ若クハ其他ノ收用方法ヲ講ズルニ非ザレバ、此住宅問題ト云フモノカ、徹底的ニ解決出來ナイト斯ウ考ヘルノデアリマス、此四ツノ點ニ就キマシテ、御答辯ヲ要求スル次第デアリマス(拍手)

○議長(奥繁三郎君) 岡本政府委員

〔府政委員岡本英太郎君登壇、拍手〕

○政府委員(岡本英太郎君) 御答申上ゲマス、土井君ノ第一ノ御質問ハ、產業組合ノ殊ニ購買組合デゴザイマセウ——發達セザルノハ、小賣業者ガ其同業組合ニ依テ規定ヲ設ケテ、物資ノ價格ヲ定メテソレ以下ニ賣ラスト、即チ不當ナ利益ヲ貪ルト云フヤウナ規定ヲ設ケテ、居ルカラシテ之ニ對抗シテ產業組合ト云フモノハ發達セネバナラス、而シテ是等ノ弊ヲ防グニハ、同業組合法ヲ改正スル意志アリヤ否ヤト云フ御質問デアラウト思ヒマス、成程一般商人ガ同業組合法ニ依リマシテ、組合規約ヲ設ケマシテ其中ニ小賣業ナラバ小賣ノ價格ヲ定メテ居リマス、是ハ標準ヲ定メテ居ル、是ハ一面カラ申シマスレバ、其標準相場ト云フモノニ依テ商ヲ致シマシテ、無暗ニ不當ナ利益ヲ組合員ノ間ニ於テ貪ラナイト云フ趣意モアルノデアリマス、而シテ農商務省ガ其標準ヲ認可致シマス場合、ソレヨリ廉ク賣ルノハ一向差支ナイコトニ致シテ居リマス、廉ク賣ルコトハ構ヘマスト云フ趣意デ認メ可ク致シタイノデアリマス、同業組合法ノ改正ト云フコトニ就キマシテハ、此點ニ於テハ無カラウト思ヒマス、ソレカラ第二ノ御質問ハ、住宅組合法ニ依ル組合ト、產業組合法ニ依ル組合トノ關係ハドウナテ居ルカ、斯ウ云フ御質問ノヤウニ伺ヒマス、產業組合ニ依リマスル組合、譬ヘテ申シマスレバ住宅關係ノ組合ハ、是ハ信用組合ニ依リマシテモ、資金ノ供給ヲ得ル途モアリマス、又購買組合ニ依リマシテ、住宅ヲ供給スルト云フヤウナ途モアリマス、又本改正案ニ依リマシテ、利用組合ト致シマシテ組合ガ家屋ヲ持ヘマシテ、組

合員ニ借家ヲセシメテ其家ヲ利用セシメルト云フコトモ出
來ルノデアリマス、是等ハ一般産業組合ニ依テ、勿論出
來ルノデアリマス、此度ノ住宅組合法ト云フモノハ主
トシテ住宅ヲ供給スルノガ目的デアリマス、唯ダ一時貸家
ト云フヤウナコトモヤルノデアリマス、目的ハ組合
員ニ速ニ住宅ノ所有權ヲ得セシメルト云フ趣旨デアリマシ
テ、所謂住宅難ヲ救フト云フ趣旨カラ來テ居ルノデアリマス、
是ハ各、特長ガアルノデアリマス、其好ム所ニ依テ兩々
相併立シテ一向差支ナイノデアリマス、第三ノ信用組合聯
合會ガ、更ニ聯合會ヲ作ルト云フ途ヲ開カヌハドウ云フ
譯デアリカ、信用組合聯合會ノ聯合會ヲ認メナイ理由如何
ト云フ御質問デアリマス、御承知ノ通り信用組合ハ、土
井君ノ所謂庶民銀行トモ申スベキモノデアリマス、金融
機關デアリマス、是ハ産業組合法ニ於テモ、金融機關タル
性質上初メカラ區域ヲ大キクシテ得ルモノデアリマス、
又サウ云フモノハ望マシ、其上ニ聯合會ノ又聯合會ヲ認メ
マスト云フコトハ、段階ガ多クナリマシテ金利ノ關係カラ申
シマシテ、モ利鞘ガ詰リ多クナテ、結局金利ノ借入人ガララシ
マシテハ餘リ必要ニ迫テ居リマセヌ、是ハ向ハ研究スベキ餘
地モゴザイマス、今日ノ所ハサウ云フ趣旨ヲ以テ、信用
組合ノ聯合會ノ聯合會ハ認メナイノデアリマス、第四ノ御質
問ニ對シテハ、內務省ノ政府委員カラ御答辯申上デマス

○議長(奥繁三郎君) 田子政府委員

〔政府委員田子一民君登壇〕

○政府委員(田子一民君) 第四點ニ就キマシテ私ヨリ御
答ヲ申上デマス、只今ノ御質問ハ本法案ト住宅用地トノ
關係ト拜承致シマシタガ、住宅問題解決ノ爲メニハ、住宅
用地ノ重大ナリト云フコトニ就キマシテハ、質問者ト同意見
デアリマス、而シテ本法案ニ就キマシテ住宅用地ノ取得ニ關
シマシテハ、特ニ意ヲ用キテ居ルノデアリマス、即チ官公有地
ニ就キマシテハ、約爭入札ノ方法ニ依ラズシテ、組合ニ對シ
テハ特ニ隨意契約ノ方法ニ依リマシテ、拂下若クハ貸付シ
得ル途ヲ開イテ居ルノデアリマス、而シテ御尋ノ四點ト考ヘ
ラレマス、所ノ公用徵收ノ點ニ就キマシテハ、所有權ノ制限
若クハ使用權ノ制限ニ就テ、特ニ研究ヲ重ネタノデアリマス
ルケレドモ、多數人ノ組合ニ於キマシテハ、一個人ノ所有權
ヲ、強制的手段ニ依ル所ノ土地收用法ノ力ニ依テ制限ス
ルハ、現下ノ我國ノ情勢ニ鑑ミマシテ行過ギルモノナリト考
ヘタノデアリマス、故ニ是ハ特ニ本案ニハ載セズシテ、官公有
地ハ隨意契約ニ依テ、拂下若クハ貸渡ノ方法デ足レリト
信ジマシタ次第デアリマス

○議長(奥繁三郎君) 右兩案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ
選舉ヲ議題ニ供シマス

第三 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ
選舉

○岩崎勳君 兩案ヲ一括シテ、委員ノ數ハ十八名トシ、議
長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ
如ク決シマシタ、日程第四第五ハ、同種ノ議案ナルニ依リ一
括議題ニ供シマス、日程第四、朝鮮私設鐵道補助法案、日
程第五、樺太地方鐵道補助法案ノ第一讀會ヲ開キマ
ス―水野政府委員

第四 朝鮮私設鐵道補助法案(政府提出)

第一讀會

朝鮮私設鐵道補助法案

朝鮮私設鐵道補助法

第一條 朝鮮ニ於テ鐵道ヲ經營スル株式會社ノ每營
業年度ニ於ケル益金カ鐵道ノ經營ニ要スル拂込資本
金額ニ對シ年八分ノ割合ニ達セサルトキハ朝鮮總督
ハ會社ニ對シ設立登記ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足
額ヲ補給スルコトヲ得但シ補助金ハ鐵道ノ經營ニ要
スル拂込資本金額ニ對シ年八分ニ相當スル金額ヲ超
ユルコトヲ得ス

第二條 社債又ハ借入金ニシテ鐵道ノ建設費ニ充ツル
モノニ對シテハ社債ノ登記又ハ借入金ヲ爲シタル日ヨ
リ十年ヲ限リ年八分ニ相當スル金額ヲ限度トシ社債
又ハ借入金ノ利息ヲ補給スルコトヲ得但シ其ノ社債又
ハ借入金ヲ以テ建設シタル鐵道ヨリ生スル益金アルト
キハ之ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三條 朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ一會社ノ
經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付前二條ノ規定ニ
準シ補助ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ會社カ資本
又ハ拂込資本金額ヲ増加シ一區又ハ數區ノ鐵道ヲ
經營スルトキハ當該區ノ鐵道ニ對スル補助ノ期間ハ
資本増加又ハ拂込資本金額變更ノ登記ノ日ヨリ之
ヲ起算スルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ニ依ル益金、拂込資本金額、社
債及借入金ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ算出シタル
金額ニ依ル

第五條 補助金ノ年總額ハ最高二百五十萬圓トス

第六條 補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年
度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 補助ヲ受クル會社カ法令、法令ニ基キテ爲ス命
令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益
ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ補助ヲ
停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條 補助ヲ受クル會社カ補助期間中左ノ各號ノ
一ニ該當スルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ既ニ交
付シタル補助金ヲ償還セシム

一 免許ヲ取消サレタルトキ

二 期限內ニ工事施行ノ認可ヲ申請セス若ハ工事
ニ著手セス又ハ工事施行ノ認可ヲ得サルニ因リ
免許其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

三 合併以外ノ事由ニ因リ營業開始前解散シタル
トキ

第九條 詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ
利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第十條 前二條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分
ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權
ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五 樺太地方鐵道補助法案(政府提出)

第一讀會

樺太地方鐵道補助法案

樺太地方鐵道補助法

第一條 樺太ニ於テ鐵道ヲ經營スル株式會社ノ每營
業年度ニ於ケル益金カ鐵道ノ經營ニ要スル拂込資本
金額ニ對シ年八分ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ會
社ニ對シ設立登記ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ
補給スルコトヲ得但シ補助金ハ鐵道ノ經營ニ要スル
拂込資本金額ニ對シ年八分ニ相當スル金額ヲ超ユル
コトヲ得ス

第二條 社債又ハ借入金ニシテ鐵道ノ建設費ニ充ツルモノ
ニ對シテハ社債ノ登記又ハ借入金ヲ爲シタル日ヨリ十
年ヲ限リ年八分ニ相當スル金額ヲ限度トシ社債又ハ
借入金ノ利息ヲ補給スルコトヲ得但シ其ノ社債又ハ
借入金ヲ以テ建設シタル鐵道ヨリ生スル益金アルトキ
ハ之ニ相當スル金額ヲ控除ス

第三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ一會社ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付前二條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ會社資本又ハ拂込資本金額ヲ増加シ一區又ハ數區ノ鐵道ヲ經營スルトキハ當該區ノ鐵道ニ對シ補助ノ期間ハ資本增加又ハ拂込資本金額變更ノ登記ノ日ヨリ之ヲ起算スルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ニ依ル益金、拂込資本金額、社債及借入金ハ政府ノ定ムル所ニ依リ算出シタル金額ニ依ル

第五條 補助金ノ年總額ハ最高五十萬圓トス

第六條 補助金ノ毎年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 補助ヲ受クル會社法令、法令ニ基キテ爲ス命令、免許若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條 補助ヲ受クル會社補助期間中左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ政府ノ定ムル所ニ依リ既ニ交付シタル補助金ヲ償還セシム

- 一 免許ヲ取消サレタルトキ
- 二 期限內ニ工事施行ノ認可ヲ申請セス若ハ工事ニ著手セス又ハ工事施行ノ認可ヲ得サルニ因リ免許其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 三 合併以外ノ事由ニ因リ營業開始前解散シタルトキ

第九條 詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第十條 前二條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員水野鍊太郎君登壇、拍手起ル〕

○政府委員(水野鍊太郎君) 只今日程ニ上リマシタ、朝鮮私設鐵道補助法案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、朝鮮ニ於キマスル土地ノ開發ヲ圖リ、産業ノ進歩ヲ促シマスルノニハ、交通機關ノ普及ニ待タナケレバナラヌハ勿論デアリマス、此趣旨ニ於キマシテ、朝鮮ニ於キマシテハ、官設鐵道ノ普及ニ意ヲ致シテ居ルノデアリマスレドモ、獨リ官設ノ鐵道ノミヲ以テ此目的ヲ達スルコトガ出來マセヌノデ、私設鐵道ニ對シマシテモ、相當ノ便宜ト相當ノ援助ヲ與ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、而シテ朝鮮ニ於ケル私設鐵道

ハ從來相當ノ企業者モ、タノデアリマスルガ、之ニ對シマシテハ、今日マデハ豫算ノ範圍內ニ於テ補助ヲ爲シ來タ人デアリマス、併ナガラ企業者ノ便利ヲ圖リ其安全ヲ期シマスルニハ、法律ヲ以テ之ヲ確定スルコトヲ適當ト思フノデアリマス、此趣旨ニ基キマシテ、本法案ニ於キマシテ規定シテアリマスルガ如クニ、朝鮮ニ於キマシテ私設鐵道ヲ經營スル會社ニ對シマシテ、毎事業年度ニ於ケル益金ガ拂込資本額ノ八分ニ達シマセヌトキニハ、其不足額ヲ會社設立ノ日ヨリ十年間之ヲ補助スルコトヲ趣旨デ此法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審査ノ上、御協賛アラント切望致シマス

○議長(奧繁三郎君) 永井樺太長官

〔政府委員永井金次郎君登壇〕

○政府委員(永井金次郎君) 本案ニ對シマシテ説明ヲ致シマス、本案ハ朝鮮ノ私設鐵道補助法案ト略、同性質ノモデアリマシテ、隨テ理由モ略、同一ナノデゴザイマス、樺太ノ開發ヲ圖リマス上ニ於キマシテハ、交通機關ノ完備ニ待タナケレバナラヌコトハ、申スマデモナイノデアリマスガ、殊ニ就中鐵道ノ普及ヲ圖リマスルコトガ、目下ノ急務ニナラ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ此國營政策ニ依リマシテ、即チ官營ノ方法ニ依テ、今日マデ樺太ノ交通機關ノ完備ヲ圖リツ、アリマシタケレドモ、財源ニ限ガリマスル故ニ、官營ヲ以テシテハ十分ニ目的ヲ達スルコトガ出來マセヌシ、遺憾ノ點ガ少クナイノデアリマス、就キマシテハ之ヲ官營ニ加フルニ民營ヲ獎勵致シマシテ私設會社ヲ起シマシテ鐵道ノ普及ヲ圖ルト云フコトガ、今日ノ時代ニ於テ最モ必要ナル事ト考ヘルノデアリマシテ、此度私設會社ニ補助金ヲ給與致シマシテ、私設會社ニ依テ企業ヲ圖リタイト考ヘルノデアリマス、其内容ニ就キマシテハ、失張年八分ニ相當スル金額ヲ限度トシテ、補助ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、其他ハ朝鮮私設鐵道補助法案ト略、内容ガ似テ居リマスカラ説明ヲ省略致シマス、右様ノ理由デアリマスカラ、何卒御審議ノ上御協賛アラムコトヲ望ミマス

○議長(奧繁三郎君) 山邊常重君——質問ノ通告ガアリマス

〔山邊常重君登壇、拍手起ル〕

○山邊常重君 只今提案ニナリマシタ朝鮮私設鐵道補助法案、及樺太私設鐵道補助法案ニ就キマシテ、政府ニ質問ヲ致シマシテ其御答辯ヲ得タイト思ヒマス、勿論土地ノ開發、及産業ノ發達、工業ノ獎勵ヲ圖ルニハ、鐵道ヲ敷設スルコト云フコトハ最モ必要ノ事デアリマス、殊ニ朝鮮ノ如キ未開ノ地ニハ尙更其必要ヲ感ズルノデアリマス、併シ今マデハ確カ朝鮮總督ノ下ニ於テ、拂込資本ニ對シテ年六朱ノ補

給ヲ致シマシタケレドモ、此法案ニ依リマス云フト、二朱上ゲマシテ年八朱ニナラ居リマス、私ノ憂慮シマスル點ハ、若シ朝鮮ニ私設鐵道ノ認可ヲ受ケマシテ、其線路ガ假リニ百哩アル其中拂込資本ニ依リテ十哩ダケ營業開始ヲシテ、殘リノ九十哩ハ容易ニ其營業ヲ開始シナイ、サウ云フ場合ニモ、尙且ツ政府トシテ之ニ八朱ノ補助ヲスルト云フコトナリマス、ソレニ依テ大變ナ利益ヲ得ルノ株主デアリマスケレドモ、政府トシテハ殘リ九十哩ニ對シテ拂込資本ヲ、一方ハ銀行ニ預金シテ置ク、尙ホソレニ對シテモ八朱ノ補助ヲスルト云フコトニナリマス、折角ハ八朱補助シテ鐵道ノ速成ヲ圖リ、産業ノ獎勵、工業ノ發達ヲ圖ルト云フ趣旨ガ、或ハ没却セラレハシナイカト云フ虞ガアルノデアリマス、尙ホ實例デアリマスケレドモ、一昨年ノ十一月朝鮮ニ或ル私設會社ガ出來マシテ、資本金ハ一十萬圓昨年ノ一月十五日ニ四分ノ一ノ拂込ヲ致シマシテ、東京ニ本社ガアテ、京城ニ支店ハアルサウデスケレドモ、唯ダ株券ヲ發行シテ會社ガ出來タダケデ、未ダ何等鐵道ノ事業ニ著手シテ居リマセヌケレドモ、尙且ツ既ニ六朱ノ補助ヲ受ケテ居ルト聞キマス、斯ウ云フ會社ガ澤山出來マスルコト云フト、唯ダ徒ラニ一部資本家ヲ擁護スルコト云フヤウナコトニナリマシテ、此鐵道ヲ敷設スル所ノ趣意ニ反スルノデアルト私ハ思フノデアリマス、此點ニ就キマシテ政府ノ御考ハ如何デアルカ、之ヲ承リタイノデアリマス、ソレカラ此法律ニ依リマス云フト、十年間ダケ年八朱ノ補助ヲシテ、十年後ハ補助ハヤラスト云フコトデアリマスガ、若シ假リニ朝鮮ニ於ケル鐵道會社ガ八朱ノ補助ヲ受ケルガ爲メニ、十年マデハ立派ニ營業スルコトガ出來ルケレドモ、若シ十年後政府カラ八朱ノ補助ヲ受ケナイ爲メニ、其會社ノ株券ガ非常ニ暴落シ、金融ガ思フヤウニ行カナイデ、ソレカラ後此鐵道會社ガ事業ヲ繼續スルト云フコトノ出來ナイヤウナ場合ニハ、政府ハ果シテドウ云フ御處置ヲ御執リニナリマス、例令サウ云フ會社ガアテモ、十箇年ダケ八朱ノ補助ヲシテソレカラ以後ハ補助ハヤスト云ウテ、之ヲ御引離シニナルカドウカ、此點ヲ私ハ御伺ヒシタイト思ヒマス、以上二點ニ就キマシテ、政府ノ御深切ナル答辯ヲ得タイノデアリマス——(拍手)

○議長(奧繁三郎君) 大塚政府委員

〔政府委員大塚常三郎君登壇〕

○政府委員(大塚常三郎君) 只今御質問ニ御答ヲ致シマス、朝鮮ニ於キマシテハ、從來年八分ノ補助ヲ與ヘテ居リマシタノデアリマス、今回更メテ之ヲ八分ニ直シタ次第デアリマス、ソレカラ本案ノ補助ノ方法ニ依リマス、株式拂込金額ニ對シテ補助スルガ爲メニ、敷設ヲシナイ資本ニ對シテモ、無用ノ補助ヲスル場合ガアルデハナイカト云

フヤウナ御質問ノヤウニ承リマシタガ、實際ニ於テハ鐵道ノ建設資金ハ、一度ニ拂込ムト云フヤウナ場合ハ無イノデアリマス、建設ノ必要ニ應ジテ、順次拂込ムヲ以テ例ト致シテ居リマス、ミナラス、政府ト致シマシテハ、此補助會社ノ株式ノ拂込ニ就キマシテハ、拂込ノ時期ノ承認ヲ受ケシメルコトニナラデ居ルノデアリマス、ソレデアリマス、實際ニ於キマシテハ、使用シタル建設費ニ對スル補助ヲ爲スト、稍、同様に結果ヲ生ズルノデアリマス、會社ガ補助ヲ受ケテ居リナガラ、鐵道ヲ敷設セズシテ會社ヲ解散スル、又ハ營業ヲ開始セヌト云フヤウナ場合ヲ御心配ニナリマシタヤウニ拜聴致シマシタノデアリマス、其様ナ場合ニ於キマシテハ、此法案ノ八條ニ依リマシテ、鐵道會社ガ免許ノ效力ヲ失フカ、或ハ免許ヲ取消サルカ、或ハ事業開始前ニ解散スルコト云フヤウナ場合ニ相當スルノデアリマス、總テ是等ノ場合ニ於キマシテハ、補助金ノ返還ヲ命ズルノデアリマス、左様ナ次第デアリマシテ、實際ニ無用ナル國費ヲ補助ノ爲メニ濫費スルト云フヤウナ虞ハ無イト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ第二點ノ鐵道會社ガ十年以後ニナリマシテ、尙ホ八分ノ配當ガ出來ナカッタ場合ニハ、ドウスル積リデアアルコト云フヤウナ御尋デアリマシタガ、此場合ニ於キマシテハ、政府ト致シマシテハ、鐵道ノ建設ヲ許可スル當時ニ方リマシテ、大體將來ノ見込ヲ立テマシテ、十年間程補助ヲ致シマス、少クトモ八分以上位ノ利益ヲ舉ゲルコトガ出來ルト云フ鐵道デナケレバ、之ヲ許可セヌ積リデアリマス、又朝鮮ノ實際ノ事情カラ見マシテモ、八分位ノ利益ヲ十年間ニ舉ゲルコトハ出來ルヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス

○議長(與繁三郎君) 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第六 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 兩案ヲ一括シテ、政府提出地方鐵道法中改正法律案外二件ノ委員ニ、併セテ付託セラシムコトヲ望ミマス

〔贊成(贊成)ノ聲起ル〕

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第七明治四十一年法律第三十五號中改正法律案第一讀會ヲ開キマス永井樺太長官

第七 明治四十一年法律第三十五號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

明治四十一年法律第三十五號中改正法律案
明治四十一年法律第三十五號中左ノ通改正ス

官報號外 大正十年三月十一日

衆議院議事速記第二十五號

右各案ノ審査付託委員ノ選舉 明治四十一年法律第三十五號中改正法律案 第一讀會ノ續

六〇三

第一條中「樺太廳立小學校教員」ノ下ニ「樺太公立小學校教員」ヲ加フ

第三條及第五條中「樺太廳立小學校正教員」ノ下ニ「及樺太公立小學校正教員」ヲ加フ

第四條中「市町村立小學校正教員」ノ在職年月數樺太廳立小學校正教員「市町村立小學校正教員、樺太廳立小學校正教員及樺太公立小學校正教員」ニ、小學校ノ正教員ト樺太廳立小學校正教員トノ間ヲ小學校正教員、樺太廳立小學校正教員及樺太公立小學校正教員相互間ニ改ム

附則

本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ大正九年八月二十八日以後大正十年三月三十一日迄ニ轉職、退職又ハ死亡シタル樺太公立小學校教員及其ノ遺族ニ付亦之ヲ適用ス

本法施行ノ際現ニ樺太廳立小學校又ハ樺太公立小學校ノ教員ノ職ニ在ル者ノ大正九年勅令第三百四十三號ニ依リ樺太公立小學校ニ指定セラレタル小學校ニ小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有シテ在職シタル期間ハ其ノ二分ノ一ヲ樺太公立小學校ノ在職期間ト看做ス但シ學校職員ノ退職料ヲ受クル者ノ當該在職期間ハ此ノ限ニ在ラス

〔政府委員永井金次郎君登壇〕

○政府委員(永井金次郎君) 本案ニ對シマシテ説明ヲ致シマス、本案ハ樺太公立小學校ノ正教員ニ對シマシテ、退職料及遺族扶助料給與ノ途ヲ開キタイ爲メニ、本案ヲ改正シタイト云フノデゴザイマス、其理由ヲ聊カ申上ゲマス、現今樺太ノ小學校ノ制度ニ於キマシテハ、國立即チ國費ヲ以テ設置致シテ居リマス廳立小學校ト、部落共同ノ費用ヲ以テ設置致シタル所ノ公立小學校ト、二種アルノデアリマス、而シテ前者ニ在職スル正教員ニ對シテハ、内地ノ小學校ノ教員退職料ヲ適用致シテ居リマス、此公立小學校ニ奉職シテ居リマス正教員ニ對シマシテハ、退職料ノ恩典ガ無イノデアリマシテ、斯ノ如ク同ジク國民ノ義務教育ヲ擔任シテ居ル者ニ差別の待遇ヲ致スト云フコトハ、甚ダ不公平ノ極デアルト考ヘマス、今同此法律ヲ改正致シマシテ、公立小學校教員ニ對シテモ、同ジク其恩典ニ浴セシメタイト云フノデアリマス、其意味ヲ以テマシテ、本案ヲ改正致シタイノデアリマス、ドウゾ御審議ノ上御協賛アラシムコトヲ願ヒマス

○議長(與繁三郎君) 日程第八、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ便宜土政府提出地方鐵道法中改正法律案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラシムコトヲ望ミマス

〔贊成(贊成)ノ聲起ル〕

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ガ無イト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ日程第九水道條例中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス委員長ノ報告ヲ求メマス、麓純義君

第九 水道條例中改正法律案(政府提出) 第一讀會(續委員長報告)

報告書

一 水道條例中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月九日

水道條例中改正法律案委員長

衆議院議長與繁三郎殿

〔麓純義君登壇、拍手〕

○麓純義君 只今日程ニ上リマシタル所ノ水道條例中改正法律案ノ委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、御承知ノ通り本案ハ、內務大臣ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルノ途ヲ開キタイト云フノガ、骨子デアリマス、デゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ審議ヲ盡シマシテ、全會一致可決致シマシタノデゴザイマス、質疑應答ノ點ハ速記録ニ譲リマシテ安ニ省略スルコトニ致シマス、此段御報告致シマス

○議長(與繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ諮リマス

〔異議ナシ(異議ナシ)ト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議ガナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定アラシムコトヲ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ(異議ナシ)ト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

水道條例中改正法律案 第二讀會(確定讀)

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告通り可決確定致シマシタ、日程第十、第十一ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ、一括議題ニ供シマス、大正九年法律第十號中改正法律案、憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案、之ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス 委員長山本条太郎君

第十 大正九年法律第十號中改正法律案

(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一大正九年法律第十號中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月九日

大正九年法律第十號中改正法律案

委員長 山本条太郎

衆議院議長與繁三郎殿

第十一 憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案

(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月九日

憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案委員長

山本条太郎

衆議院議長與繁三郎殿

〔山本条太郎君登壇、拍手〕

○山本条太郎君 大正九年法律第十號中改正法律案ノ趣旨ハ、現行法ニ依ルトキハ學校教員、職員、巡查、及看守等ノ退職者ノ一部ニ對シマシテ、昨年改正増額セラレマシタル、恩給金ノ恩典ヲ與フルコトガ出來ヌコトニナリテ居リマス、ソレ故ニ特別ノ規定ヲ設ケマシテ一般恩給ヲ受ケツ、アル人ニト平等ノ待遇ヲ與ヘントスルノガ、此案ノ趣旨デゴザイマス、委員會ハ審議ノ上、全會一致ヲ以テ此案ヲ可決致シマシタ、又朝鮮ノ憲兵補ニ對スル恩給令ノ延長ハ委員會ニ於キマシテハ、其人ノ現在ノ職務及待遇等ニ就キ質問應答ヲ重ネマシテ、政府ノ提案ヲ相當ト認メマシテ、是亦全會一致ヲ以テ可決致シマシタノデアリマス、兩

問題ノ委員會ノ報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔二讀會ヲ開クニ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 日程第十第十一ノ二案ハ、一括シテ直チニ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ右兩案ノ第二讀會ヲ開キマス

大正九年法律第十號中改正法律案

第二讀會(確定讀)

憲兵補ノ恩給ニ關スル法律案

第二讀會(確定讀)

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ右兩案ハ委員長報告通り可決確定致シマシタ、日程第十二、第十三ニハ共ニ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ、一括シテ議題ニ供シマス、即チ地方鐵道法中改正法律案、地方鐵道補助法中改正法律案、兩案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス 委員長米田穰君

第十二 地方鐵道法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一地方鐵道法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月九日

地方鐵道法中改正法律案委員長

米田 穰

衆議院議長與繁三郎殿

第十三 地方鐵道補助法中改正法律案

(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月九日

地方鐵道補助法中改正法律案委員長

米田 穰

衆議院議長與繁三郎殿

地方鐵道補助法中改正法律案中左ノ通修正ス
附則中但書ヲ削ル

〔米田穰君登壇、拍手〕

○米田穰君 御報告致シマス、只今議題ニナリテ居リマスル地方鐵道法中改正法律案、及地方鐵道補助法中改正法律案、此二案ニ就テ委員會ノ經過及結果ヲ申上ゲタイト存ジマス、委員會ハ種々ナル質問應答ヲ重ネマシタ末、此地方鐵道法中改正法律案、是ハ慎重審議ノ末、全會一致ヲ以テ、政府ノ提出セラレタル案通り決定致シタ次第デアリマス、次ノ地方鐵道補助法中改正法律案、此但書ニ至リマシテ、種々ナル御意見ノ交換モアリマシタガ、匹田銳吉君ノ御意見デ、但書ヲ削除スル、其但書ハ「但シ本法施行ノ前免許ヲ受ケタル地方鐵道ニ對スル補給金額ニ關シテハ、仍從前ノ例ニ依ル」此項ヲ削除スルニ御意見ヲ提出サレタノデアリマス、其理由ハ大正十年四月一日ヨリ此改正法律案ニ依ルト云フコトノ政府案デアリマス、サウ致シマス、既成鐵道並ニ最近認可ヲ受ケタル鐵道ニ對シテ、矢張現行法通り五ノ補助シカ出來ナイト云フコトニナルノデアリマス、故ニ斯クナッテハ、既設鐵道中デモ餘程困難ナ鐵道モアル隨テ改良スルコトモ出來ナイ、甚スキニ至ッテハ、提灯ヲブラ下ゲテ進行シテ居ルト云フ鐵道モアルサウデアリマス、是等ヲ如何ニ政府ガ監督シ、又其改良ヲ命ジテモ、命ジ得ルコトガ出來ナイト云フ状態ノモノガ多クアルト云フノデアリマス、又終ニ既ニ認可ヲ得タケレドモ、今日漸クニ株ヲ募集ニ掛ッテ居ルモノモアリ、又株ノ募集ニ至ラヌト云フモノモアルノデアリ、又其等ニ對シテモ現行法即チ五ノ補助ヲ、改正法ニ依ルコトガ出來ナイト云フコトハ、全ク當ヲ得ナイ事デアルカラ、此但書ヲ削除スルノガ穩當デアルト云フ御意見ガ出タノデアリマス、其修正意見ニ對シマシテハ、憲政會ヲ代表シテ鶴澤宇八君、又國民黨ヲ代表シテ湯淺凡平君、庚申俱樂部ヲ代表シテ佐々木平次郎君、此三君ガ何レモ修正案ニ贊成ノ理由ヲ述ベテ、匹田君ノ此修正案ニ御贊成ニナッタ次第デアリマス、仍テ委員會ハ斯ノ如キ次第デ、一人ノ異議者ナク修正案ヲ全會一致ヲ以テ可決致シタ次第デアリマス、故ニ本會ニ於カセラレテモ、何卒委員會ノ如ク全會一致ヲ以テ可決アラント望ミマス(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 兩案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 第三讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 日程第十二及第十三ニ掲ケタル兩案ヲ一括シテ、直ニ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り、即チ日程第十三ニ地方鐵道補助法中改正法律案ハ、委員會ニ於テ修正議決ノ通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ニ賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセズカ

〔異議ナシ〕〔異議ナシノ聲起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ右兩案ノ第二讀會ヲ開キマス

地方鐵道法中改正法律案

第二讀會(確定議)

地方鐵道補助法中改正法律案

第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕〔異議ナシノ聲起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ此兩案ハ委員會長報告ノ通り可決確定致シマシタ——日程第十四第十五ノ議案ハ、提出者同一ナルニ依リ一括議題ニ供シマス、日程第十四、刑事訴訟法中改正法律案、第十五刑法中改正法律案ヲ一括シテ其第一讀會ヲ開キマス、禰苗代君

第十四 刑事訴訟法中改正法律案(禰苗代君提出)

第一讀會

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第九十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但檢察官又ハ司法警察官ノ作リタル文書ハ法令ニ特別ノ規定アルモノ、外犯罪ノ證據ト爲スコトヲ得ス

第九十四條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

證人、鑑定人及ヒ被告人ノ訊問ハ裁判長之ヲ爲スモノトス

陪席判事、辯護人ハ裁判長ニ告ケテ證人、鑑定人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

第二百八條中第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ〔第六號〕ヲ〔第七號〕ニ改ム

第六 檢事及ヒ訴訟關係人カ必要ナリシテ記入ヲ求メタル事項

第二百八十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

刑ノ執行猶豫ヲ爲スヲ相當ナリトスルキ亦同シ

第二百九十二條第一項中「其判決確定シタルトキハ」ノ下ニ「被告人又ハ辯護人若クハ」ヲ加フ

第十五 刑法中改正法律案(禰苗代君提出)

第一讀會

刑法中改正法律案

刑法中左ノ通改正ス

第九十五條第一項中「三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」ヲ「三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第二百五十三條中「一年以上ヲ削ル

〔禰苗代君登壇、拍手起ル〕

○禰苗代君 本案提出ノ理由ヲ簡單ニ陳述致シマス、本案ノ一部ハ昨年七月ノ特別議會ニ於キマシテ、滿場一致ヲ以テ可決セラレタ案デアリマスルガ、會期切迫ノ爲メニ、貴族院ニ於テ審議未了ノ儘法律トシテ成立致シマセナカ

タガ故ニ、更メテ本議會ニ於テ提出ヲシ、尙ホ數箇條ノ緊要缺クベカラザル箇條ヲ加ヘテ、改正ヲ加ヘントスル案デアリマス、本案ノ改正ノ要旨ハ、人權蹂躪問題ノ惹起ヲ未然ニ防止ヲ致シ、サウシテ此時弊ノ救済ヲ爲シ、尙ホ時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ個人ノ權利ヲ擴張シテ人權ヲ擁護セントスルノ

ガ目的デアリマス、此目的ヲ達スル爲メニ最モ急ヲ要スル點ヲ選擇致シマシテ、刑事訴訟法ニ於テ五箇條ノ改正案ヲ提出致シテ居ルデアリマス、即チ刑事訴訟法ノ九十條ニ檢事司法警察官ノ作製シタル所ノ聽取書ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得スト云フコトノ但書ヲ加ヘマシテ、從來ノ搜查機關ガ名ヲ搜查ニ藉リテ、被告其他ノ訴訟關係人ノ訊問ヲ爲シテ、聽取書ナルモノヲ作製シテ居リマスガ、聽取書ヲ證據トスルコト云フ所ノ弊風ガアリマス故ニ、此弊風即チ聽取書ヲ證據ニスルコト云フコトハ、刑法訴訟ノ本旨ニモ反シ、且

ツ人權蹂躪問題ヲ惹起スル所ノ虞ガアリマスカラシテ、此弊風ヲ根絶セントシテ、刑事訴訟法九十條ニ只今申シマシタ如キ但書ヲ加ヘントスルデアリマス、第二ニハ刑事訴訟法ノ百九十四條ニ於テ、陪席判事ハ裁判長ニ告ゲテ、被告人其他ノ訴訟關係人ヲ訊問スルコトガ出來マステドモ、辯護人ニ對シテハ、其權利ガ附與セラレテ居ナイデアリマス、ソレデアリマスルカラ此百九十四條ニ於テ、辯護人モ陪席判事ト同様ニ、其被告人ヲ直接訊問スルコトガ出來ルト云

フ箇條ニ訂正致シタイノデアリマス、尙ホ二百八條ニ於テ、公判始末書ニ檢事及訴訟關係人ガ記載ヲ求メタル所ノ事項ヲ書記ニ録記セシメテ、サウシテ事實ノ真相ヲ明確ニシテ辯護權ヲ確實ニスルコト同時ニ、其訴訟ノ進行ト證據方法ヲ明カニスル必要ガアリマスノデ、此二箇條ニ只今申上デマシタヤウナ文句ヲ加ヘタイト存スルデアリマス、次ニ第三ニハ刑事訴訟法ノ二百八十七條第二項トシテ、大審院ニ於テモ刑ノ執行猶豫ヲ相當ナリト認メタ時分ニハ、擬律ノ錯誤、若クハ法律ニ反イテ公訴ヲ受理シタルニ依リテ、判決ヲ破棄シタルト同様ニ、大審院自ラ此執行猶豫ヲ爲サシメントスルノガ、刑事訴訟法二百八十七條第二項ヲ設ケマシタ所以デアリマス、其理由ハ大審院ハ是ハ破棄スル理由ガアル場合ニ限リテ、刑法施行法ノ五十五條ノ第二項ニ依リテ、新場合ニ於キマシテハ、下級裁判所ニ於キマシテ、常識ノ無イ慘刑酷罰ガアッタト云テモ、執行猶豫ノ言渡ヲ爲サナイノデアリマスガ故ニ、國民ハ其裁判所ノ異ルニ依リテ、非常ナ不公平ナル裁判ヲ受ケツ、アルデアリマス、乃チ吾々ノ取扱ヒマシタ事件ニ就テ其一例ヲ舉ゲマスレバ、十二錢ニ相當スル所ノ或財物ヲ盜ミタルガ故ニ、懲役四箇月ニ處スル、是ガ而モ初犯デアルト、斯ノ如キ事ハ餘リ人權ヲ詰リ人ノ自由ト云フモノヲ廉ク見積タト云フ、斯様ナ判決ガアリマシテモ、大審院其他ニ於テ法律ニ違背シテ居ナイ、其手續ニ違背シテ居ナイト云フコトデアリマシタナラバ、之ヲ破棄スルコトモ出來ナケレバ、之ニ對シテ執行猶豫ヲ與ヘルト云フヤウナコトガ出來ナイデアリマス、デ斯様ニ此改正案ヲ設ケナケレバ、只今申上ゲタヤウナ都合ガ生ジマスガ故ニ、サウシテ一面ニ於テハ又裁判所ガ、裁判所ニ依リテハ其事情ヲ見、其境遇ヲ考ヘテ、各、相當ナル裁判ヲ受ケテ居リマスノデアリマスルガ故ニ、斯ノ如キ不權衡ヲ矯正致シテ、此慘刑酷罰ヲ緩和ヲシテ、所謂之ヲ導クニ德ヲ以テシ、之ニ調停ルニ禮ヲ以テシタナラバ、耻アテ且ツ至レリデ、惡事ヲ再ビセズ

ガ即チ二百七十八條ノ此第二項トシテ、大審院ニ於テモ刑ノ執行猶豫ヲ破棄スル場合デアッテモ、刑ノ執行ヲ破棄スル理由ガ無カッタ場合デアッテモ、其權能ヲ與ヘントスルノガ本案改正ノ理由デアリマス、次ニハ刑事訴訟法ノ二百九十二條ノ第一項ニ於テ被告人、ソレカラ辯護人ニ對シテモ、非常上告申立期限ヲ認メントスルデアリマス、從來ハ罪ナクシテ罰セラレ、若クハ相當ノ刑ヨリモ重ク罰セラレマシテモ、判決ガ確定シタ以上ハ如何トモスルコトガ出來ナイ、唯ダ非常上告裁判所ノ檢事ニ、其非常上告ノ申立權ガアルノミデアリマスガ、是其直接ニ利害關係及苦痛ヲ感ズル者ハ其檢

事ヨリモ即チ被告人、及ソレニ關係シテ居ル辯護人ト云フモ
ノガ感ズルノデアリマス故ニ、此被告人、辯護人ニモ、即
チ非常上告權ヲ認メヤウトスルノデアリマス、此二百九十二
條ノ第一項ニ此簡條ヲ加ヘント欲スルノデアリマス、以上ハ
刑事訴訟法ノ改正ノ極々簡單ナル理由デアリマス、我ガ刑
法ハ刑ノ量定ノ範圍ヲ頗ル廣クシテアリマス、又選擇刑ヲ
多クシテ置キマシテ、假令罪ガアリマシテモ、其境遇心事情
ムベキ者ハ成ルベク之ヲ輕ク科シ、又其動機ニ於テハ情狀
ニ依テ自由刑ヲ科スルヨリモ、財產刑ヲ科シテ、一面ニ於
テハ改過遷善ヲ圖リ、又一面ニ於テハ勸善懲惡ノ目的ヲ圖
明シテ刑ヲ無クシ、又刑ヲ少クセントスル所ノ、進歩シテ居
ル所ノ主義主義ヲ執テ居ルノデアリマス、然ルニ改正案ト
シテ提案シテ居リマスル所ノ刑法第九十五條ハ、公務員職
務執行ノ妨害ノ場合、此場合ハ如何ニ其情狀憫ムベキデ
アデモ、酌量スベキモノデアデモ、自由刑ノミデアテ財產刑
ヲ設ケテ居リマセヌ、是ハ他ノ場合ト頗ル權衡ヲ失シテ居リ
マスガ故ニ、此場合ニモ矢張自由刑ト同時ニ財產刑ヲモ設
ケテ、其情狀憫ムベク、其動機ニ於テ酌量スベキ場合デアリマ
シクナラバ、矢張自由刑ヲ科シテ方適當デアルト信ジマス
ガ故ニ、此改正案ヲ提出致シマシタ、次ニ二百五十三條ノ
業務上横領ノ場合デアリマス、此場合ハ業務横領デアタ
ナラバ、一年以上十年以下ノ懲役ヲ科スルト云フコトデア
リマスガ、シテ見ルト小僧ガ主人ノ金ヲ一圓盜ンデモ、尙ホ
之ヲ一年以上十年以下ノ懲役ヲ科セナクシテバナラヌト云
フコトデアリマシテ、曩ニ申シマシタ我ガ刑法ノ輕ク——寧ロ
事情憫ムベキ境遇ニ於テ、頗ル憫諒スベキ場合ニ於テモ、其
條規ニ當嵌ラナクシテバナラヌト云フコトニナリマシテ、一般
即チ刑法ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ事柄ガ、往々アルノ
デアリマスカラ、此條ヲ改正シテ、漸次先刻申上ゲマシタ所
ノ刑法ノ目的ヲ達スル爲メニ、此改正ヲ加ヘル必要ガアル
ト信ジマシタガ故ニ、以上ノ改正案ヲ提出シタ次第デアリマ
ス、ドウゾ御審議ヲ願ヒマス(拍手)

○岩崎勳君 兩案ヲ一括シテ戸水寛人君外三名提出ノ
刑事訴訟法中改正案外二件ノ委員ニ、付託セラレンコト
ヲ望ミマス
〔賛成ト下呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十六刑法中改正
法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者宮古啓三郎君

第十六 刑法中改正法律案(宮古啓三郎

君外七名提出)

第一讀會

刑法中改正法律案
刑法中左ノ通改正ス

第一百九十六條ノ二 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ
之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他
ノ者ニ對シ恐嚇又ハ詐言ヲ用ヒテ陳述ヲ爲サシメタル
トキハ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
〔宮古啓三郎君登壇、拍手〕

○宮古啓三郎君 極メテ簡單ニ提案ノ理由ヲ申上ゲマ
ス、此案ハ人權蹂躪ヲ豫防致シマシテ、犯罪ヲ生ゼシメナイ
ト云フコトヲ目的ト致シマスルモノデ、前議會ニ提出致シマ
シタモノト大同小異デアリマス、要スルニ司法官憲ガ被告人
其他ニ對シマシテ、恐嚇詐言ヲ用井ルト云フコトヲ防ガウト
スルノデアリマス、而シテ又其恐嚇詐言ニ依テ調書ヲ作り
之ヲ證據トスルト云フヤウナコトノ無イヤウニ致サウトノ趣
意デゴザイマス、爰ニ一言附加ヘテ置キマスル事柄ハ、前議
會ニ於キマシテ、委員會ニ於テ政府モ之ニ對シテ同意ヲ表
セラレタノデアリマスガ、唯少シク範圍ガ狹キニ失スルト云フ
コトデゴザイマシタカラ、委員會ニ於テハ範圍ヲ擴メマシテ、
官吏吏員處罰ニ關スル法律案ト云フコトニ直シマシタ、サ
ウシテ委員會デ之ヲ可決致シマシテ、本院ニ於テモ亦之ヲ可
決シテ貴族院ニ送ツタノデアリマス、然ル所「官吏吏員處罰
ニ關スル法律案」ト云フコトニシテ爲メニ、大分議論ガ起リ
マシタガ、此法案ハ目下焦眉ノ急トスル所ノモノニ對シテ、
當嵌メタイト云フ趣意デアアルノデアリマシテ、其最モ焦眉ノ
急トスル所ノモノハ、即チ司法官憲ニ對シテ恐嚇詐言ヲ防
ガウト云フノデアリマス、他ノ官吏吏員ニ對シマシテモ、全ク必
要ガ無イト云フ譯デアバゴザイマセヌガ、併ナガラ比較的焦眉
ノ急デハナイノデアリマス、ソレデアリマスカラ、成ベク議論ノ
無イヤウニシタイト云フ考カラ致シマシテ、此度ハ官吏吏員
處罰ニ關スルト云フヤウニ廣ク致シマセヌデ、矢張司法官憲
ニ對スルダケニ止メルコトニ致シマシテ、提案ヲ致シマシタノ
デゴザイマスカラ、何卒御賛成ヲ願ヒマス
○岩崎勳君 本案ハ戸水寛人君外三名提出ノ、刑事訴
訟法改正法律案外四件ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
〔賛成ト下呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十七未成年者飲
酒禁止法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者根本正君

第十七 未成年者飲酒禁止法案(根本正

君外五名提出)

第一讀會

未成年者飲酒禁止法案
未成年者飲酒禁止法

第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス
未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ
之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルトキハ之
ヲ制止スヘシ
營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者
ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣
又ハ供與スルコトヲ得ス
第二條 未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所
有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ
之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシ
ムルコトヲ得
第三條 第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者
ハ科料ニ處ス
第四條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ
本法ニ依リテ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ
適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有
スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ
他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタル
トキハ自己ノ指揮ニ出デサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルル
コトヲ得ス
明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ
之ヲ準用ス
附則
本法ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
〔根本正君登壇、拍手〕
○根本正君 諸君、本案ハ明治三十三年第十四帝國議
會ヨリ提出セラレマシテ、既ニ帝國議會ヲ經ルコト三十回、
本院ニ提出セラレマシテ、此度第十八回デアリマス、而シテ衆議
院ヲ通過シマシタコトハ十一回ニナクテ居リマス、併ナガラ貴
族院ニ於テ其調査ヲ終了スルコトガ出來ズ、或ハ否決サレ
タコトモアリマシテ、今日ニ及ンダ歴史アル法案デアリマス、
元來未成年者禁酒法案ヲ出ス前ニ、私ハ此國家ノ基礎ト
シテ最重要ナル國民徵兵ノ實ヲ舉ゲ、又國民教育ヲ完成
スルコトニ就テ、本案ハ最善必要ノ法律デアルト信ジマス、
我ガ帝國ニ於テハ早ク此徵兵令ト云フモノガ行レマシタケ
レドモ、國民教育ノ制度ト云フモノハ、漸ク近來完成スルノ
氣運ニ際シテ譯デアッテ、明治三十一年マデハ、全國ノ小學
校ニ於テ授業料ト云フモノヲ取ツテ居ラタノデアリマス、併ナ
ガラ立憲政治ノ最モ大切ナルモノハ、國民ノ徵兵、又國民
ノ教育デアラカシテ、私ハ明治三十二年ニ於キマシテ、小
學校授業料全廢ト云フ建議ヲ出シタノデアリマス、此建議
案ガ通過ヲ致シマシタノデ、其當時明治三十二年二月十

五日ニ於テ、小學校教育費國庫補助法案ト云フモノヲ提出シマシタ所ガ、幸ニ此法律案ガ通過シマシタ。爾來二百萬圓ツ、國庫ヨリ支辨スルコトニナリタリマス、デ此教育費國庫補助ト云フコトハ何ノ爲メアルカト云フナラバ、即チ國民徵兵ト云フモノノ實ヲ舉ゲル爲メニ、我が七千萬ノ子弟、即チ徵兵ニ出ルベキ者ガ同ジヤルニ教育ノ大切ナルコトヲ覺エ、又同ジヤルナル教育ヲ受ケナケレバナラヌ、單ニ金持ノ子供バカリデナク、一般國民ノ子弟ガ徵兵ニ出ル以上ニハ、同ジヤルニ國民ノ教育ヲ受ケナケレバナラヌ、ソレニハ月謝ヲ取テハ宜シクナイ、所謂歐米先進國ニ倣テ、教育ノ授業料ト云フモノハ全廢シナケレバナラヌト云フ結果ヨリ乃チ明治三十三年ヨリ、日本ニ於テ此授業料ト云フモノガ廢サレタノデアリマス、之ガ廢セラレタ以上ハデス、ドウ云フ風ナ事ニ此稅ヲ取ルカト云フナラバ、御承知ノ通り子供ガ有テモ無クテモ、地方稅ナリ又國稅ナリニ於テ、此小學校ノ授業料ト云フモノハ、即チ今ヲ去ルコト二十二年前に於テハ、二千萬圓デ足りタノデアリマス、然ルニ是ガ爲メ、其費用ガ増加スルニ從テ、ドウシテモ此小學校ノ子供ヲ養ヒテ、無月謝學費バシメルト云フ法律ガ出來タ以上ニハ、子ガ無クテモ租稅ヲ出シテ隣ノ子供ヲ教育スルノデアルカラシテ、其子弟ガ完全ナ教育ヲ受ケ、又酒ナドヲ飲マナイデ立派ニ學ブコトガ出來ルナラバ、此租稅ト云フモノハ有效ニナルノデアル、併ナガラ若シ此未成年者ニ於キマシテ、即チ中學校或ハ其他ノ學校ノ子弟ガ酒ヲ飲ンダ爲メニ、自分ノ健康ヲ害シ、又學ブベキ所ノ學問ヲ遠グルコトガ出來ナカッタラバ、即チ吾ミカラ出ス所ノ租稅、其他二千萬ト云フヤウナモノハ、無駄ニナルト云フ結果ニナリマスカラシテ、此小學校授業料ノ全廢ト云フモノヲ本員ガ提出シテ通過シタ以上ハ、是非トモ本法案ト云フモノハ無クテハナラヌノデアリマス、(ヒヤー) 若シ之ガ無クッタラバ、即チ籠デ水ヲ汲ムヤウナ譯デアッ、其租稅ノ有效ナルコトヲ失フ譯デアリマスカラ、私ハ此法案ヲ提出シタノデアッ、何カ世間デハ此未成年者禁酒法案ハ、私ガ突然ニ或ハ道德上或ハ宗教上カラ提出スルモノデアルカノ如ク、思フデ御在デニナル方モ或ハアルカモ知レマセヌガ、決シテサウ云フ譯デアハナイ、則チ國民教育ト云フモノハ租稅ヲ以テシナケレバナラヌト云フ原則ヲ立テマシタ故ニ、其子弟ヲ取締ルト云フコトガ、當然デアルト云フ所ノ所謂理由アル下ヨリ、之ヲ提出シタモノデアリマス、我國ニ於キマシテハ、其結果貧富ノ別ナク授業料ト云フモノヲ取りマセヌ故ニ、國民教育ヲ興シ得ルコトニナリタノデアリマスカラシテ、即チ立憲政治ノ下ニ於テ特ニ注意スベキ一大問題デアルト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、斯ノ如ク此教育ノ方計ガ、即チ無月謝ヲ以テ學バシメルト云フ法律ガ出

來マシタ故ニ、年々二百萬圓ツ、國庫ヨリ出スヤウニナリマシタケレトモ、二百萬圓デハ足りナイト云ッ、此授業料ヲ廢シタ結果、年々歳々地方費ガ殖エテ來ルカラ、國庫ガ支辨ヲシナケレバナラヌト云フ建議ガ段々議會ニ出タ、則チ其結果大正六年ニ至リテ天下ノ輿論ヲナッ、諸君ガデス、我が政友會ヲ首メ其他ノ政黨ニ於キマシテモ、滿場一致ヲ以テ一千萬圓ノ國費ヲ支辨スルコトニナリタノデアリマス、斯ノ如ク二十二年前にハ僅ニ二千萬圓ノ少數ノ費用デアリマシタガ、今日ハ如何デアルカト云フハ、諸君、御承知ノ通り小學校、中學校、師範學校ヲ集メマスト、一億八千萬圓ノ巨額ニ達スルノデアリマス、一躍シテ二十有餘年ノ間ニ殆ト八倍九倍ノ巨額ナル稅ヲ、諸君ヨリ御出シニナルコトニナリタ居ルノデアル、シテ見マサルト云フコト、子供ノ無イ人デモ考ヘテ出サナケレバナラヌデアルカラシテ、租稅ヲ出シテ教育ヲスル以上ニハ、即チ是ハ法律ヲ以テ取締ルト云フコトハ、當前ノ事デアルノデアリマス、故ニ此法律ハ二十年前ニ私ガ提出シタ時ヨリモ、尙ホ今日ハ國家ニ必要ナルモノト認メルコトガ出來ルノデアリマス、何トナレバ一億八千萬圓ノ巨額ノ租稅ヲ以テ、今日養フ所ノ此國民教育デアリマスルカラシテ、益此法律ノ必要ナルコトハ判テ居ル、又此教育費一億八千萬圓バカリデアハナイ、此教育ヲ受ケタ子弟ガデス、國民徵兵ガアル、即チ海陸軍ノ爲メニハ、此間モ度々御演說ニナリテ居ル通り、吾ミ國民ハ七億萬圓ノ大金ヲ租稅ヲ以テ之ニ充テテ居ルノデアリマス、シテ見レハ此國民徵兵、即チ海陸軍ト云フモノヲ有效ニセシムルノニハ、此普通教育ト云フモノヲ洵ニ有利有效ナルモノニシテ、始メテ國民徵兵ノ實ヲ舉ゲルコトニナルノデアリマスカラシテ、此法案ハ益、諸君ノ重要ナル一ノ問題トシテ、之ヲセナケレバナラヌト云フコトニナルノデアリマス、(贊成) 實ニ青年タル者ハ、酒ヲ飲ンダドウ云フ結果ヲ見ルカト云フナラバ、サウ云フ事ハ今日ハ申上ゲマセヌ、(分リマシタ) 呼フ者アリ、此事ハ諸君御承知デアリマスルカラシテ、申上ゲマセヌデアリマスルケレドモ、我國ニ於キマシテ、非常ニ此青年ノ風教ト云フモノガ近頃ハ紊レタ、私ガ聞ク所ニ依リマスレバ、地方ニ青年會ト云フモノガアル、隨分地方ニ民力涵養ナドト云ッ、内務省或ハ文部省ヨリ派遣シテ演說ガアリマスルケレドモ、其民力涵養ノ御演說ノ後デ青年ガ酒ヲ飲ムト云フヤウナ事ガアルノデアリマシテ、之ヲ取締リマスルノニハ、ドウシテモ失張此法律ト云フモノガ無クレバナラヌト云フコトニナリマスカラシテ、是非此法律ト云フモノハ、此度ハ成立スルヤウニ御願シタイノデアリマス、(贊成々々) 又世界ノ大勢ハ今日ハ最モ吾ミ國民トシテ注意スベキモノハ、時間ト能率デアリマス、若シ此時間ト能率ト云フモノヲ閑却スル所ノ人、閑却スル所ノ國ト云フモノ

ノハ必ズ衰微スルト云フ、亞米利加ノ紐育「コロンビヤ」大學「リ」博士ガ申スコトニ、後來世界人類ニ幸福ヲ與ヘルモノハ、時間ト能率ト云フモノヲ能ク研究ヲシテ、之ヲ利用スル所ノ人、之ヲ利用スル所ノ國デアルト申シマシタノデアリマス、此時間ト能率ト云フモノヲ閑却シ、或ハ忘レル、是ハ何人ガスルカト云フナラバ、即チ此酒ノ害デアリマス、之ヲ未成年者ノ時分ヨリ、時間ト云フモノハ大切ナモノデアル、酒ト云フモノハ飲ムベカラザルモノデアルト云フコトヲ、法律ヲ以テ之ニ教ヘマシタナラバ、向フ數年ノ内ニハ、格別ノ事モアリマスマイケレドモ、必ズ三十年五十年ノ内ニハ、偉大ナル幸福ノ結果ヲ來スト云フコトヲ、私ハ確信シテ疑ハザルモノデアリマス、(ヒヤー) 實ニ此酒ノ害ト云フモノハ、吾ミノ健康ヲ害シ、吾ミノ財產ヲ害シ、遂ニ國家ニ納メル所ノ租稅ヲ納ムルコトノ能ハザルヤウナ結果ヲ來スモノハ、何人デアアルカト云ヘバ、主ニ酒ヲ飲ンダ自分ノ妻モ子供モ顧ミザル所ノ者ガ多イノデアリマス、是等ノ所ノ者ヲ矯正シ、又近來殊ニ此思想問題ト云フコトガ起リマシタケレドモ、思想問題ヲ解決スルノニハ、何ヨリモ此未成年者ニ酒ヲ禁ズルト云フノガ、宜シイノデ、亞米利加ニ於テ酒ヲ禁ズルノハ何ガ因デアアルカト云フナラバ、此惡イ危險思想、即チ今日一家ノ財產十分ニ造ルコトノ出來ナイノハ何ノ爲メデアアルカト云フナラバ、即チ此勞働者デアル、其勞働者ノ中デ酒ヲ飲ム所ノ者ガ一番危險思想ヲ抱ク、(ノウ) 笑聲起ル、其故ニ酒ヲ禁ズルト云フコトヲ申シタノデアリマス、(簡單々々) 呼フ者アリ、斯様ナ譯デアリマスルカラシテ、諸君ノ御贊成ヲ得テ是非今年ハ通シタイト思ヒマス、終リニ臨ンデ一言申上ゲテ置キタイ事ガアルノデアリマス、此酒ヲ禁ズルマストナラバ、非常ナル貯金ガ出來ルノデアリマス、是ハ未成年者ニハ限ラナイ、總デアリマスルガ、亞米利加ノ紐育市デゲ、一兩日前ニ國勢院カラ諸君——私ニ配付サレタ所ノ彼ノ小サナ本ノ中ニ紐育市ハ四百七十萬人ノ人口デアルト云フコトガ書イテアル、既ニ今日ハ世界ノ大勢ハ、昔ハ倫敦ガ世界ノ大ナル市デアッタガ、一昨日國勢院カラ渡サレタ所ノ物ヲ見マサルト、世界ノ大ナル市ハ紐育デアアル、倫敦ヨリ人口ノ多キコト三十萬人デアル、其市ガデス、昨年此一箇年ノ間ニ郵便使金ガ増加シタ、全體ハ減ラナケレバナラヌ、何故ナラバ戰ノ後デアルカラシテ、勞働者ガ勞働ヲスルノニモ口ガ無イト云フ場合デアアルカラ、貯金杯ハ減ルベキモノト思ッ所ガ、豈ニ圖ランヤ四億二千二百萬圓ノ増加デアルト云フコトヲ新聞ニ書イテアル、僅ニ一箇年ノ間ノ單ニ紐育市デゲデ以テ、四億二千二百萬圓ノ貯金ノ増加ト云フモノハ何ヨリ出タカト云フナラバ、亞米利加ノ國ハ五十年前ニ未成年者禁酒法案ヲ制定サレテ、其結果ガ昨年全國ノ禁酒トナッ、金持トナッテ證據

ヲ爰ニ舉ゲルコトガ出來ルノデアリマス、(拍手起ル)又盜賊ノ數ガ減タト云フコトガアル、是ハ「クレイブランド」ト云フ諸君ノ御承知ノ通り「オハイオ州」デアリマス、此「クレイブランド」ト云フ所ハ、神戸ト同シヤウナ人口ガアル、七十万人ノ人口デアリマス、昨年酒ヲ飲マナイト云フ所ノ結果ト云フモ、ハドウ云フ事デアアルカト云フナラバ、盜賊ガ三百二十八人減タ、又夜ノ泥棒ガ五百八十三人減タ、拘捕ガドレ程減タ、タカト云フト四百六十五人減タ、殺人罪ガドレ程減タ、タカト云フト十三人減タ、斯ノ如ク僅ニ一年ノ間ノ禁酒ト云フモノハ、唯ダ一ツノ市デサヘモ、殆ド日本全國ノ三分ノ一位キ増加シタト云フ風ニナルノデアリマス、カラシテ、諸君、此未成年禁酒法案ト云フモノガ通過シタナラバ、我日本國ニ於キマシテモ、必ズ此大ナル利益ヲ得ルト云フコトヲ確信スルモノデアリマス、カラシテ、本年ハ是非滿場一致ヲ以テ通過スルヤウニ御配慮ヲ願ヒマス、(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 提案者ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——奧村安太郎君

〔奧村安太郎君登壇〕「簡單ニ願ヒマス」ト呼フ者アリ

○奧村安太郎君 諸君、酒ノ今日ノ問題ハ、殆ド世界的ノ大問題デアリマス、私ハ矢張禁酒論者ノ一人デアリマシテ、酒ヲ禁ジテ居ルノデヤナイガ、能ク飲マナイノデス、(笑聲起ル)所ガ只今ノ根本君ノ御話ニ依リマス、獨リ未成年者ノミニ禁酒ヲ命ズルト云フコトハ、私ハ餘リ殘酷デハナカラウカト思フノデアリマス、(ヒヤ)「酒ニ依テ世界ノ統計ガ是ノ犯罪人ガ減リ、是ノ病氣ガ減タト云フコトハ、洵ニ結構ナ事デアリマス、是ハ成年者ノ飲酒家ノ例デアルト考ヘルノデアリマス、若シ未成年者ガ酒ヲ飲ムト假定シマシテモ、是ハ僅ニ十七八歳以上ノ少數未成年者デアリマス、如何ニ大人ガ自由スルト雖モ、未成年ノ代議士ガ居ラヌト雖モ、未成年者ノ一人ヲ壓迫スルト云フコトハ、餘リニ殘酷デアラウト考ヘマス、是ハ煙草トハ大ニ其趣ヲ異ニスルノデアリマス、煙草ハ飲食物デハナイノデアリマス、所ガ之ニ反シテ酒ハ飲食物デアリマス、之ヲ未成年者獨リニ禁ズルト云フコトハ、到底私ハ不可能ノ事デハナカラウカト思ヒマス、一ニ之ニ就テ質問致シタイト思ヒマス、其故ニ若シモ禁ズルナラバ、何故ニ成年者ノ飲酒ヲ禁ズルマデニ、徹底ノ御提案ニナラヌノカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、第二ニ西洋ノ例ガ御提案ノ理由ニ書イテアリマシタガ、西洋ノ子供ガ酒ヲ飲マナイコトニシテアル國モアルサウデスケレドモ、西洋ノ食卓ト日本ノ宴會トハ、自ラ趣ヲ異ニシテ居リマス、殊ニ況ヤ日本ニ強制シテ飲酒スルト云フ習慣ガゴザイマス、此強制飲酒ノ弊ヲ以テ、尙ホ未成年者ノミヲ禁ズルト云フ

コトハ、出來ナイ事デハナカラウカト思フニモ拘ラズ、茲ニ未成年者ノミヲ強制シテ之ヲ止メルト云フコトハ、孟子ノ所謂民ヲ網ニスルモノデハナカラウカト思フノデアリマス、(ノウ)「強テ犯罪人ヲ作ルモノデハナカラウカト思ヒマス、ソレカラ第三ニ伺ヒタイノハ、未成年者ノ身體ニ中風ガ起ルト云フコトガ書イテアリマス、御提案ノ理由ノ中ニ：「是ハ寧ロ大人ノ方ニ起ル事デアアル、未成年者ノ中風ト云フコトハ、餘リ澤山ナイ事デアリマス、(笑聲起ル)其次ニモウ一ツ第四ニ伺ヒタイノハ、日本ハ昔カラ儀式ニ酒ヲ用井ルノ風ガゴザイマス、是ハ未成年者ノミニ廢スルノデアリマス、若シ之ヲ廢スルトスレバ、洵ニ大事ナル日本ノ禮儀ヲ廢スルコトナリマス、(水盃デヤ)ト呼フ者アリ」簡單ニ一寸伺ヒマス

〔根本正君登壇〕

○根本正君 諸君、只今ノ御質問ニナリマシタ名譽アル紳士ハ、私ノ承知シテ居ル所デハ、大阪朝日新聞ノ記者ヲモ遊バサレテ居ルヤウナコトニ承知致シテ居ルノデアリマス、(ウー)「間違テ居リマス」ト呼フ者アリ「サウデナイノデスカ——サウデナケレバ取消シマス、彼ノ出來テ居ル小サナ本ニハサウ書イテアル、(名ガ違フ)ト呼フ者アリ」違テ居リマスカ：「(笑聲起ル)ソレダケハ取消シマス、併ナガラ洵ニ時勢後レノ御質問何故ナレバデス、子供ニ酒ヲ飲マセナイデハ可哀想デハナイカト云フコトデアリマス、可哀想デアルカラ飲マセナイノデ、是ガ即チ違テ居ルノデアリマス、可哀想デアルカラ飲マセナイノデ、立派ニシテ大學ヲ卒業シテ、貴方ニ親孝行ヲスル所ノ子供ヲ拵ヘルノデアリマス、貴方ノ御議論ニ依タナラバ、可哀想デアルカラ飲メト言ウト、家カラ送ル所ノ爲替貯金モ、皆ナ此神田ノ下宿屋デ使ッテシマルノデアリマス、ソレドウドデアリマス、是ハ眞ニ子供ヲ愛セル所ノ途デアリマセウカ、之ニ依テ私ノ最初ノ答辯ハ盡キテ居ルト思フ、大人ニ之ヲセスカト云フコトデアリマス、是ハ物ニハ順序ガアル、即チ吾等政友會ハ今日普通選舉ヲ唱ヘナイノハ其譯デアアル、順序ガアルケレドモ、此度級別廢止ニ賛成シタノデアリマス、今日中學校ヲ卒業サセナイデ、大學校ニ入レヤウト云フノハ、卵ノ木登リデ出來ナイ相談デアアル今日私ハ成ベク日本帝國ノ七千餘萬ノ諸君殊ニ只今ノ御質問ノ御方ニ對シテモ、御酒ヲ飲マセナイヤウニ願ヒタイケレドモ、是ハ出來ナイ相談デアアル、出來ナイ相談ヲシテ此議場ヲ假リニ騒ガセタ所デア、所謂氣狂ト云フコトニナッテシマウ、私ハ此氣狂ハ自ラ嫌ヒデアリマス、左様ナ法律案ヲ出サナイデ、成ベク我が日本帝國ニ適當スル所ノ未成年者ニ止メタノデ、是デサヘモ實行ガ出來ナイノデ、之ニ就テサヘモ貴族院ハ御反對ニナルノデゴザイマス、デアリマス、先ヅ以テ貯金ヲスルニモ、一圓二圓溜メテ百万圓ニスルノデアリマス、

只今御質問ノ御方ハ、急ニ百万圓ノ金持ニナリタイト言ハレルヤウナモノデ、ソレハ泥棒デモシナケレバ出來ナイ相談デアリマス、左様ナ事ハ出來マセウカ、物ニハ順序ガアル、小學校ヲ通シテ中學校、高等學校、大學ト行カケレバナラヌソレガ今未成年者ノ禁酒デサヘ出來ナイ前ニ、大人ニ飲マセナイヤウニシヤウト云フコトハ、成程一方カラ申セバ道理アル、相談デアアル道理アル相談デアリマス、唯タ時間ト能率トヲ知ラナイ御方ノ論デアリマス、(ヒヤ)「拍手」デアリマス、カラ之ヲ以テ私ガ亦御答辯ガ出來ルト思フ、又此日本ノ風デ色マア御質問ノ趣旨ハ、御神酒トカ、御祝儀トカ云フヤウナ時分ニ酒ヲ飲マナイデ祝儀ガ出來ルト云フコトデアリマス、是ハ所謂常識ガアレバ解ルノデ、此法律ヲ能ク御覽ニナレバ、酒ヲ賣ッデハナラヌト云フノデアリマス、デ儀式ナドデモ無論ハ飲マナイ方ガ宜シイノデアルケレドモ、儀式ニ飲ムト飲マナイトハ、其人ノマア工合デアッテ、(笑聲起ル)此法律ニ於テハソコマデハ關係ヲシナイノデアリマス、此法律ヲ能ク御覽ニナレバ判ルノデアアル、是ハ即チ賣ル人ヲ罰シテ、子供ヲ罰シナイノデアリマス、貴方ノ御子サンニ飲マセタカラト云フデ、是ハ法律デア、家ガ飲マセテモ、或ハ罰シナイカモ知レマセウケレドモ、德義上所謂祖先ニ重キヲ置キ、國家ニ重キヲ置キ、忠君愛國ノ所謂紳士タル者ハ、此法律ヲ歡迎セネバナラヌト思フノデアリマス、又此終リニ御質問ニナタ所ノ事デアリマス、是ハ能ク江原素六君ガ答ヘタノデアリマス、此法律ヲ明治四十二年ニ江原素六君ガ此所デ演説ヲシテ、爾來通過シタ法律案デ、酒ヲ儀式ノ時ニ飲ムノハ或ルハ國體デア、云フガ、ソレハ國風デア、國體ト云フモノハ決シテ崩スベカラザルモノデアルケレドモ、國風ハ所謂風俗デアリマス、ソレハ即チ明治天皇モ仰セラレタ、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシト云フノモ、即チ祝儀ノ時ニ酒ヲ飲マナイトカ、或ハ色々ノ儀式ノ時ニ飲マナイト云フヤウナ事ハ、或ハ舊來ノ陋習ヲ破ッテシマッテ、天地ノ公道ニ基クノデアリマス、是ハ酒ヲ飲ムノハ決シテ國體デア、舊來ノ陋習デアリマス、カラ決シテ是ハ關係ノ無イ問題デア、私ハ答辯スル、是デ御判リニナタラウカラドウカ、之ニ御賛成ニナッテ、貴方ノ御子サンモ御酒ヲ飲マナイヤウニ願ヒマス

○岩崎勳君 本案ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ハナイト認メマス、仍デ動議

ノ如ク決シマシタリ日程第十八非役壯丁税法案ノ第一
讀會ヲ開キマス提出者荒川五郎君

第十八 非役壯丁税法案(荒川五郎君外 六名提出)

第一讀會

非役壯丁税法案

非役壯丁税法

第一條 帝國臣民ニシテ常備兵役ニ服セサル男子ハ本
法ニ依リ非役壯丁稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 非役壯丁稅ハ第一種第二種ノ二トス
第一種非役壯丁稅ハ左ノ稅率ニ依ル

一 第三種所得稅ヲ納ムル者ハ其ノ稅額ノ百分ノ
三十

二 前號以外ノ者ハ二圓トス

第三條 前條第二項第一號ノ課稅標準ト爲スヘキ第
三種所得稅額ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ算定ス

一 納稅義務者カ戸主ナル場合ニ於テハ本人ノ納ム
ル第三種所得稅ノ金額ニ依ル

二 納稅義務者カ家族ナル場合ニ於テハ本人ノ納ム
ル第三種所得稅ノ金額ト戸主ノ納ムル第三種所
得稅ノ半額トヲ合算シタル金額ニ依ル

前項ノ第三種所得稅額ハ納稅義務發生ノ年一月一
日現在ノ前年度稅額ニ依ル

第四條 徵兵身體檢査ニ合格セサル者及補充兵役又
ハ國民兵役ニ編入セラレタル者若ハ徵集ヲ延期セラ
レタル者ニシテ其ノ現役ニ服セサルコト又ハ教育召集
ニ應ゼサルコトノ確定シタル者ハ其ノ翌年ヨリ七箇年
間第一種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ

第五條 現役ニ服シタル者又ハ教育召集ニ應ジタル者
ニシテ故意ニ免除ノ事故ヲ生セシメタル者ハ其ノ翌年
ヨリ七箇年間第一種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ

第六條 補充兵ノ教育召集ニ應ジタル者ハ召集解除
ノ翌年ヨリ六箇年間第二種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ

第七條 左ニ掲クル者ハ徵兵適齡ニ達シタル翌年ヨリ
起算シ七箇年ニ達セサルトキハ其ノ殘期間第二種非
役壯丁稅ヲ納付スヘシ但シ徵集ヲ延期セラレタル後
兵籍ニ入リタル者ニ在リテハ其ノ服役ノ翌年ヨリ起
算ス

一 現役中六箇月ニ滿タスシテ補充兵役若ハ國民
兵役ニ編入セラレタル者

二 第二十二條ニ掲クル者ニシテ兵籍ヲ離レ又ハ前

號ニ該當スル者

前項ノ殘期間ハ補充兵役又ハ國民兵役ニ編入セラ
レ若ハ兵役ヲ免セラレ又ハ兵籍ヲ離レ若ハ現役ニ服
セサルコトノ確定シタル年ヲ算入セス

第八條 現役中又ハ補充兵部隊編入中公務ノ爲傷病
ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ役ヲ免セラレタル者ニハ命
令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁稅ヲ課セス

第九條 納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爾
後ノ納期ニ屬スル分ヨリ非役壯丁稅ヲ免除ス

一 戰時又ハ事變ニ際シ召集ニ應ジタルトキ
二 死亡シタルトキ

第十條 納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ命
令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁稅ヲ免除ス

一 癯疾不具ノ者
二 貧民トシテ公ノ救助ヲ受クル者

第十一條 一家二人以上同時ニ納稅義務者ナルトキ
ハ一人ヲ除クノ外他ノ者ハ其ノ半額ヲ免除ス

第十二條 納稅ノ義務アル者ハ納稅義務發生ノ年一
月中ニ其ノ本籍住所及兵役關係ヲ列記シテ政府ニ
申告スヘシ戸主ニ非サルトキハ戸主ノ氏名及住所ヲ
モ併セテ申告スヘシ

納稅義務者又ハ其ノ戸主第三種所得稅ヲ納ムル者
ナルトキハ前項ノ外毎年一月中ニ第三條第二項ノ規
定ニ依リ所得稅額及其ノ他課稅ノ算定ニ必要ナル事
項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 第八條乃至第十一條ニ該當スル者ハ本人
又ハ其ノ戸主ヨリ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

第十四條 政府ハ毎年四月中ニ各納稅義務者ノ納稅
額ヲ査定シ之ヲ本人又ハ其ノ戸主ニ通告スヘシ

第十五條 納稅義務者前條ノ納稅額ニ對シ異議アル
トキハ其ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服
ノ事由ヲ具シ政府ニ申出テ其ノ審査ヲ請求スルコト
ヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セ
ス

第十六條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ審査委員
會ノ審査ニ付シ其ノ決定ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ
但シ政府ニ於テ該請求ヲ理由アリトスルトキハ審査委
員會ノ議ニ付セスシテ直ニ第十四條ノ通告ヲ訂正ス
ヘシ

審査委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以
テ之ヲ定ム

第十七條 前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行
政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十八條 非役壯丁稅ハ年額ヲ二分シ左ノ納期ニ於
テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第十九條 納稅義務者家族ナル場合ニ於テハ戸主ハ
非役壯丁稅ノ納付ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ス

第二十條 非役壯丁稅ハ納稅義務者ノ住所ノ地ヲ以
テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所ノ地ヲ以テ納稅地トス
但シ住所ノ地以外ニ在ル納稅義務者ハ申告シテ居所
地ニ於テ納稅スルコトヲ得本法施行地内ニ住所又ハ
居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナ
キトキハ本籍地ヲ以テ納稅地トス

第二十一條 納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ非
役壯丁稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅代理人
ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第二十二條 陸海軍ノ將校、同相當官、特務士官、豫
備員、准士官、候補生、見習官、下士及兵籍ニ編入セ
ラレタル學生、生徒ニハ其ノ在籍中本法ヲ適用セス但
シ第七條ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 徵兵事務ヲ掌ル官廳ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ非役壯丁ニ關スル事項ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

第二十四條 第十二條第二十一條ノ申告ヲ爲サス又
ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第二十五條 非役壯丁稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫
金額三倍ノ科料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行ノ年以後徵兵適齡トナリタル壯丁及本法
施行ノ年ニ於テ現ニ徵集ヲ延期セラレタル者ヨリ之ヲ適
用ス

本法ハ徵兵令ヲ施行セサル地方ニハ之ヲ施行セス但シ
本法施行地内ニ本籍ヲ有スル者ハ本法施行地外ニアル
モ仍本法ヲ適用ス

〔荒川五郎君登壇、拍手起ル〕

○荒川五郎君 非役壯丁稅提案ノ理由ヲ少シク申述ベ
テ、滿場諸君ノ御贊同ヲ請ヒマス、我が帝國憲法ハ、納稅ト
共ニ兵役ノ義務ヲ國民ノ大義務、國民ノ名譽アル必任ノ
大義務ト致シテ、茲ニ國民皆兵ノ精神ヲ明カニ致シテ居ル
ノデアリマス、然ルニ年々ノ壯丁約五十餘萬人、其中デ年々
兵役ニ服スル者ハ十二三萬人ニ過ギナイデアリマス、其餘
ノ四十萬内外ノ壯丁ハ、疾病其他ノ故障ニ依ッテ、兵役ニ合
格シナイ者モアリマス、又軍ノ編制上其必要ノ人員ニ制限
ガアリマス故ニ、抽籤ヲ以テ採用スル人數ヲ制限セラル、ノ

デアリマス、隨テ五十餘萬壯丁中殆年々四十萬人ハ、國民皆兵ノ制度ノ下ニ此國防ノ任務ニ與カラナイ者ガアルノアリマス、齊シク此重大ナル義務ヲ擔フ所ノ壯丁ニシテ、身體檢査ニ合格シ、抽籤ニ當リ採用セラレタル者ハ、二箇年以上其間學業ニ從事スル者ハ修學ノ妨ヲ受ケ、職務ニ從テ居ル者ハ職務ヲ廢シ、若クハ中斷シナレバナラヌ、ミナラズ其兵營ヲ退イテ、後モ種々ノ負擔束縛ヲ受ケ在郷軍人ト致シマシテモソレノ役目ヲ持チマシテ、旅行等ニモ制限ヲ受ケ、或年月ノ間ハ身體ノ自由ノ働モ出來ナイ程ノ種々束縛、種々ノ制限ヲ受ケテ居ルデアリマス、而モ一旦緩急アレバ身ヲ挺シテ、我々ヲ捨テ、妻子ヲ捨テ、國難ニ赴カケレバナラヌ重大ナル任務ヲ負ウテ居リマス、此兵役ニ服スル所ノ壯丁ニ較ベテ服役シナイ壯丁ガ抽籤ニ免レ、或ハ其他ノ事情ニ依テ何等義務ノ負擔ガ無イト云フコトハ、如何ニモ大ナル不權衡デアリ、如何ニモ大ナル不公平ヲ認メルデアリマス、殊ニ兵役ノ義務ニ服スル者ハ、從來之ヲ血稅ト稱ヘテ、身ヲ以テ國防ノ重任ニ當リ、吾我ガ一身ノ身體ニ專屬スル勤務ノ重イノミナラズ、今日ノ現在ノ給與ハ甚ダ薄クアリマスカラ、身體ノ貢獻ノミナラズ、經濟上ニモ多大ノ負擔ガ伴フデアリマス、身體上、精神上、財產上、有ユル上ニ重キ負擔ヲセネバナラヌデアリマス、中ニ一家計ノ主ナル人デアアル、其壯丁ガ現役ニ從事スルガ爲ニ、一家ハ悲慘ニ其日ヲ送ラナレバナラヌト云フ、同情スベキ氣ノ毒ナル留守家族モ少ナクナイデアリマス、斯様ナ大ナル不權衡大ナル差異ガ我カ國法ノ一視同仁デアリ、國民皆兵ノ原則ニ打立テラレタル我微兵制度ノ下ニアリト云フコトハ、甚ダ遺憾ト致ス所デアリマス、此服役スル壯丁ニ對シテ、服役シナイ壯丁、彼等服役ナイ壯丁モ、重大ナル責任ノ觀念ヨリ、其レ等ノ者ノ義務心ヲ満足セシムル途ヲ開クモノノ方法ト心得マス、隨テ茲ニ壯丁稅ナルモノヲ作りマシテ、資產アル者ニハ無資產ニ相當スル課稅ヲ致シ、其收入ヲ以テ軍人ノ給與手當ヲ厚ク致シ、又一面ニハ留守家族ニモ補助ヲ與ヘ遺族養兵等ヲモ優遇シ、サウシテ彼等ヲシテ安シジテ此名譽アル義務ヲ全ウセシムル途ヲ開クト云フコトハ、實ニ其等服役壯丁ノ爲メニ大ナル利益恩典デアアルミナラズ、服役シナイ壯丁ト致シマシテモ、國民ノ責任ノ觀念ノ上ニ、大ニ義務心ヲ満足シ得ルコトと思ヒマス、隨テ其大ナル懸隔ヲ、此稅ニ依テ幾ラカ近寄セヤウト云フコトハ、亦以テ國法公平ノ精神ニ副フ所以ト思フデアリマス、勿論今日我カ日本國民ハ、皆ナ義勇奉公ノ精神ニ富ンデ居リマス、敢テ不平ヲ言フ譯デアアリマセウケレドモ、不平ヲ言ハナイカラト云テ、吾我ガ之ヲ其儘ニ看過スベキモデアアルマイト思ヒマス、殊ニ今日ノ實際ハ四十萬ニ近イ非役ノ壯丁ヲ出シ

マスルガ、其服役シナイ壯丁ノ多クハ上流富豪ノ者デアリマシテ、兵ニ徵セラレテ服役致ス者ハ、多クハ下層ノ勞働者デアリマス、同じ地方農村デモ、其富豪ノ者ハ免レテ、下層ノ者ガ兵ニ出ルト云フコトガ多イデアリマス、其實際ノ有様カラ考ヘテ見マシテモ、之ヲ相當ニ平均シ得ル途ハ、實ニ此非役壯丁稅ニ止マラズシテ、國家トシテハ甚ニ多大ノ研究スベキ必要アリト思フデアリマス、凡ソ人間ハ感情ノ動物デアリマス、中ニハ感情ニ走ラス者モアリマセウケレドモ、時ニ感情ノ前ニハ打算モ無ク、生命モ危險ヲ顧ミナイト云フコトモ生ズルデアリマス、烈日鐵ヲ熔カスノ時ニ、コレガ馴レナイ規律ノ嚴重ナル中ニ、一方ニハ我ガ友人等ハ安逸ニ樂ンデ居ルコト等ヲ思ヒ、或ハ又己レノ家庭ノ困難等ヲ思フ時、或ル感情ノ發スルノモ已ムヲ得ヌ次第ト思フデアリマス、然ルニ此大差異ノ事柄ヲ抽籤ニ依テ決定スルコトハ、運命ト云ヘバ運命ナガラ、私共ノ考デハ、此抽籤ト云フコトモ改メタイデアリマス、此射倖的兒戲ニ類スル遣方即チ抽籤ヲ以テ、國民ノ重大ナル必任義務ヲ決スルト云フコト甚ダ當ヲ得ヌ事ト思フデアリマス、仍茲ニ非役ノ壯丁稅ヲ課シ一方安シジテ國防ノ重任ニ當ル途ヲ開イテ、國民ハ吾レ競ウテ身體ノ強健ヲ圖リ、合格服役スルコトヲ男兒ノ名譽ト致スヤウニ、而シテ其等ガ殆ド悉ク志願ヲ致シテ、此要員ヲ充スニ至ルヤウニシテタラバ、今日徵兵ヲ忌避スルト云フヤウナ者モ減少ニナレバ、兵役ヲ免レバト云フヤウナ考ノ者ガ生ジテ、國民ガ漸次優柔懦弱人間ニナルト云フコトガアリマシタラバ、國家ノ前途ノ爲メニ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、全國ノ青年ヲシテ競ウテ身心ノ強健ヲ圖リ、皆ナ悉ク此必任義務ノ名譽ヲ擔ヒ得ルコトヲ希望スルニ至ラナラバ、國民一般其身體其精神ノ上ニ、ドレダケノ昂上發達ヲ見ルコトデアリマセウカ、其等國民ヲシテ悉ク義勇奉公ニ、勇壯快活ニ、勇敢ナル精神ヲ養ハシメ、サウシテ國民ヲシテ強健有爲ナル國民トナラシムベク導ク上ニ於テモ、是等ノ制度ヲ打立テルコトガ最も必要ト思フデアリマス、軍人ノ士氣士風ノ獎勵ノ上ニモ、國民皆兵ノ精神ヲ貫ク上ニモ、今日最も必要ト思フデアリマス、陸海軍ハ從來世間カラ頑冥不靈、秘密主義ノ巢窟デアルト言ハレテ居タデアリマス、然ルニ其陸海軍ガ今議會ニ提出シテ、只今委員會ニ係リテ居リマス、海陸軍ノ軍法會議法ノ如キハ、殆ト普通ノ裁判法ヨリモ優タメケノ文化社會化致シテ居リマシテ、秘密主義ヲ破リテ辯護人ヲ附シ、秘密ノ審判ヲ改メテ公開シ、一審テ終結スル法ヲ變シテ再審ノ途ヲ開クト云フヤウナ、進歩ノ改正案ヲ提出シテ、軍當局者トシテハ實ニ珍シキ進歩ヲ見ルデアリマス、時代ハ日ニ進化スルノ

時、人心ハ日夜ニ變化スルノ時、斯ル時代思想ニ應ジテ、陸軍當局モ海軍當局モ時代ニ順應シ來タト云フコトハ、吾我ノ最も歡ブ所デアリマス、本案ニ就テハ、政府當局ノ中ニハ從來ヨリ反對ノ人モアル、其反對ハ稅ヲ出シ、兵役ノ爲メニ稅ヲ出スト云フコトハ、此名譽ト義務ノ觀念ノ上ニ、打立テラレタル必任ノ大事ナ國防ノ責任ヲ、稅ヲ以テ免レルト云フ觀念ヲ生ゼシムルト云フコトハ、國民精神ノ上ニハ於テ非常ニ恐ルベキ事デアルト言フデアリマセウケレドモ、是ハ金ヲ出シテ兵役ヲ免レシメヤウト云フ、元ト外國ニモアタ代償稅若クハ免役稅トハ其性質ヲ全ク異ニテ居テ、金ヲ出シテ兵役ヲ免レルニ非ズシテ、兵役ヲ免レル者ニ相當ノ課稅ヲシヤウト云フデアリマス、即チ原因ト結果ガ全ク異ルデアリマス、若シ此誤解ヲ根據トシテ、其誤解ノ上ニ打立テラレタル思想ヲ根據トシテ反對セラレルト云フコトハ洵ニ、私共ノ心外ト致ス所デアリマス、竊ニ閣陸軍大臣ノ如キハ此案ニ贊成デアタノデアリマス、今ノ田中陸軍大臣ハ、隨分思切シテ時流ヲ要求ニ順フ政策ヲ執ラレルトモアリマス、既ニ一昨年退營ノ軍人ニ軍服ヲ給與セラレタイ、軍人ハ紀律ヲ主トスルノ、軍服デナクテハ其紀律節制ノ上ニ甚ダ不便デアリ、仍テ在郷軍人ニ被服ヲ給セラレタイ、併シ是ハ國家經濟ノ上ニ多大ノ負擔ヲ要スルト云フデアリマシタ、併シ私ノ考デハ相當ノ保存期限ヲ付ケテ、退營ノ時ニ一著宛ヲ渡シ、軍務ニ服スル期間ハ此一著ヲ濟マサヤウニト云フコトニシタラバ、決シテ國家ノ損ニナラナイ、軍隊ニ置クニシテモ、豫備ヲ置カケレバナラヌ、豫備ヲ置ケバソレハ保管スベキ倉庫ヲ要スル、保管スベキ人ヲ要スル、其他保管ノ費用ヲ要スル、然ルニ之ヲ各自ニ渡シ與ヘ置クトキハ、他日召集ニ際シテモ、各自ノ身體ニ合セテ與フルナドノ面倒モ省ケマス、全國ノ在郷軍人ガ一大保管倉庫デアアル保管番人デアアル、隨テ費用ガ一時ハ幾ラカ要ルカモ知リマセウガ、永久ノ上ニハ保管倉庫ヲ要シナイト、保管番人ヲ要シナイ、保管諸費ヲ要シナイ、却テ利益ニナルデハナイカト云フコトヲ、此議場ニ於テ田中陸軍大臣ニ說イタ、所ガ田中陸軍大臣ハ即決英斷ニ、此日本ノ全國ノ在郷軍人ヲ一大保管倉庫トシテ、被服ノ保管、被服ノ使用ヲ彼等ニ託スルト云フコトハ甚ダ名案ト思フ、是非採用シタイト云フコトヲ直チニ田中大臣ハ答辯セラレタ、其結果ガ既ニ本年ヨリハソレガ實施セラレルニ至ラノデアリマス、隨分良イ事ト見レバ英斷ヲモセラレル田中陸軍大臣ノ如キハ、此案ニハ眞先キニ贊成セラレテ然ルベキコト、思フデアリマス、殊ニ陸軍當局ガ最も力ヲ入レテ反對致シ、今マデ贊成セラレナイ所ハ、金ヲ出シテ兵役ヲ免レルト云フ、誤解ノ感ジテ國民ニ持タスト云フデアリマス、是ハ前段辯明ヲ申上テ々々通りニ、決シテ左様ナ譯デ

ナイノミナラズ、今日ノ我ガ制度ノ上デハ、却テ金ヲ出シテ兵役ヲ免レテ居ル部分モアルデアリマス、ソレハ何デアルカト云ヘバ部分的デアリマスガ、彼ノ一年志願兵ノ制度ハ即チソレデアリマス、同ジク一年志願兵ニナリ得ル資格ノ有ル者ニシテ、僅カ百五圓ノ金ガ有ル者ハ一年志願兵ニナルコトガ出來ルガ、同ジ資格ガ有リナガラ、百五圓ノ金ヲ出シ得ナイ者ハ、三箇年ノ普通現役ニ服サナケレバナラズ、僅ニ百五圓、ソレガ爲メニ其服役ノ上ニ重大ナル差異ガアルノミナラス、一年志願兵ハソレヲ卒ヘタ後ニハ、豫備將校トナリ、在郷軍人ノ幹部トナリ、各方面ニ多大ノ名譽ヲ荷ヒ得ルニモ拘ラズ、僅ニ百五圓ガ無イ爲メニ現役ニ入りタル者ハ、全ク斯ル名譽ヲ與ヘラレナイデアリマス、是レ結果カラ嚴密ニ申セバ、金ヲ出シテ兵役ノ一部ヲ免レルモノト申シテモ宜イデアリマス、況ヤ本法案ハ斯ル意味合ノモノデアナイト云フコトハ、賢明ナル滿堂諸君ノ既ニ御諒知下サルコト、思フデアリマス、全體普通軍人下士卒ト將校トハ、同ジク國家ノ爲メニ必要デアアルデアリマス、下士卒ガ國防ノ第一線ニ立テ活動シナケレバ、如何ナル智慧ノアル將校モ、其目的ヲ達スルコトガ出來ナイデアリマス、況ヤ將校以上ハ是ハ謂ハバ職業の軍人デアアル、月給ヲ貰ヒ、一家ヲシテ成シテ行ク所ノ職業の軍人デアアル、ソレニ較ベテ下士卒——此必任義務ノ上ニ召集セラレタル兵士ハ、斯ル給與ノ無イノミナラズ、其結果ニ於テ如何デアリマスガ、將校將帥ハ或ハソレガ爲メニ華族トナリ、子爵男爵ニ進ミ、終生長ク生キテ國家ノ榮典ニ浴スルニモ拘ラズ、下級下士卒——其等ノ軍人ハ、國難ノ眞先ニ我身ヲ犠牲ト致シテ、サウシテ其等ノ遺族ヤ癡兵等ハ、今日ヲ過ススヲ出來ナイ位ノ憫レテ有様ノ者モアルデアリマス、斯ノ如キハ我ガ帝國國防ノ全般ニ顧ミテ、決シテ看過スヘカザラザル事ト思フデアリマス（拍手）近來多クノ問題ガ免角黨派のニ取扱ハレマスガ、元封建時代ニハ國ト國トガ敵デアアル、村ト村トモ敵デアツテ、隣村ノ鎮守ノ祭ヤ村芝居ニハ、若連中ガ喧嘩ヲスルノガ——ノ行事デアツタデアリマス、然ルニ憲政施カレ全國一統ノ今日ノ世ノ中ニ當テ、村ガ違フカラト云テ他ノ村ノ者ガ排斥セラレルト云フヤウナ事ガアツテハ、此大正治下ノ爲メニ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、政友村モ、國民黨村モ、庚申俱樂部ノ御方モ、ドウソ村ノ違ヲ以テ此國家問題ヲ二三ニセラル、コトナク、公平ニ採用アランコトヲ切ニ希望致スデアリマス（拍手）

○議長（奥繁三郎君） 松岡俊三君ヨリ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス

○松岡俊三君 松岡俊三君登壇、拍手起ル

○松岡俊三君 松岡俊三君登壇、拍手起ル

案ニ就テ、提案者二三ノ御尋ヲ致シタイト思フデアリマス、本案ハ全國三百萬ニ近イ所ノ在郷軍人諸君ノ懷イテ居リマス、徵兵觀念上ノ根本ヲ變革セントスル所ノ疑ノアル重大ナル法案デアリマス、此法案ニ就テ、幸ニモ奉天戰爭ノ占領記念日デアアル當三月十日ヲ以テ私ガ質問ヲスルト云フコトハ、地下ノ戰友ガ我ヲシテ言ハシムルモノデハナカラウカト思フデアリマス、同時ニ全國ニ滿ル所ノ三百萬ノ在郷軍人諸君ガ、私ヲシテ此所ニ立タシメタモノト思フデアリマス、私ハ當テ兵卒トシテ、十七年四箇月ノ兵役ヲ完全ニ勤メタ者デアリマス、故ニ本案ニ對シテハ重大ナル意味ヲ持テ居リマスカラ、委員會ニ於テ質問スベキデアリマス、其大體ノ根本ニ對シテハ、ドウシテモ明カニシテ置カナケレバナラヌコトガアルデアリマス、荒川君ハ徵兵ト云フモノニ對シテ非常ナル御同情ヲ以テマシテ、只今縷々御話ニナリ、本案ヲ提出セラレタヤウニ承リマシタデアリマス、クレドモ、未ダ惜ムラクハ徵兵ノ心理狀態ヲ能ク御理解ニナツテ居ラヌ憾ガアルデアリマス、私ノ質問ハ此點ヨリ主トシテ起ルデアリマス、元來現役兵卒乃至服役者、私ハ荒川君ノ言ヲ借リマシテ言ヒマス、血稅ヲ納メタル者ト假リニ申上ゲテ置キマス、此血稅ヲ納メタル者ノ心理狀態如何ト云フコトヲ我身ニ照シテ、過去ノ經驗ニ徵シテ之ヲ申上ゲテ、サウシテ質問ヲ申上ゲネバナラヌト思フデアリマス、彼等ハ常ニ以テ爲ラク、自分コンハ國家ノ干城デアアル、我アルガ爲メニ國家ハ安泰デアアル、國民亦枕ヲ高ウスルノハ我アルガ故ニト云フ所ノ考ヲ以テ、此非常ナル自負心ヲ以テ服役シツ、アルデアリマス、故ニ少尉ヨリ大將ニ至ルマデノ者ヲ見マシテモ、只今荒川君ガ仰セラレタル通りニ、彼等將校ハ抑、ノ出發點ガ、職業トシテ自己ノ榮達ノ爲メニ、各種ノ職業中ヨリ各選擇シテ、將校ト云フ所ノ官吏ノ志願ニ依テ、職ヲ抛チ、一身ヲ度外ニシテ、以テ神聖ナル所ノ此血稅ヲ拂フ所ノ者デアアル、我等徵兵ノミガ眞ニ其名譽ヲ擔フベキモノデアアルト云フヤウナ工合ニ、或ハ他ノ方面カラ申サレルナラバ、多少ノ自惚ト云フヤウナコトモアリマセウケレドモ、實ニ此信念ノ下ニ立ツテ、此自負心ノ下ニ立ツテ、此名譽心ヲ以テ服役シテ居ルデアリマス、（古イヨ古イヨト呼フ者アリ）、古イヨ言フガ、新ラヂアリマス、（アンマア斷ヤルナ）泣言ヲ出サナクテモ宜イト呼フ者アリ、此點ニ就テ本案ノ提出ニ依ツテ此徵兵ノ自負心名譽心ト云フモノガ、果シテ傷ケラレレドモ、ノカドウカト云フコトニ就テ、御意見ヲ伺ヒタイデアアル、又本案提出ノ主タル目的ハ物質の方面ニ在ルカ、サリトモ精神の方面ニ在ルカ、即チ自己ノ生産ヲ抛チ、己ノ家ヲ捨テ、

服役シ、而モ荒川君ノ仰セラレタル通り、非常ニ薄キ手當ヲ以テ満足セナケレバナラヌ、故ニ家郷ヨリ送金ヲ待タナケレバナラヌ、又貧困ナル所ノ家郷ハ、其入替ノ爲メニ被ル所ノ打撃ハ非常ナモデアアル、是等ノ各種ノ物質的の方面ニ於ケル所ノ彼等ノ苦痛ヲ慰メンガ爲メニ、本稅ニ依テ彼等ニ與フベキモノト云フ御考デアリマス、此結果トシテ——此結果トシテ茲ニ荒川君ガ仰セラレタル工合ニ、徵兵ニ出ナイ所ノ所謂非役壯丁者ノ國家奉公ノ義務心ト云フモノハ、其結果トシテ得ラル、モノデアアルカドウカト云フコトヲ承リタイデアアル、此非役壯丁者ノ義務心ノ満足、即チ國民皆兵ト云フ精神の方面ガ主ナルモノデアアルカ、或ハ精神的、或ハ物質方面此就レヲ主トシ、孰レヲ從トスルコトナクシテ、兩者ヲ打テ一丸トシタルモノガ、果シテ此目的デアアルカドウカト云フコトヲ明瞭ニ承リタイデアアル、斯ノ如ク此徵兵ト云フモノハ、決シテ金買ハレルモノデアナイト云フコトハ、荒川君ガ仰セラレマシタ、勿論日本帝國ノ臣民トシテ、決シテ此徵兵ニナルコトガ厭ヤナ爲メニ、金ヲ以テ代ヘルト云フヤウナ代償的ノモノデアナイト云フコトハ、確ニ承知致シタデアリマス、併ナガラ此立法ノ精神ガ此ニ在リマシテモ、其結果ニ於テ如何デアアルカト云フコトヲ承リタイデアアル、即チ血稅ヲ納付シタルモノ、其他ノ家族ノ救護ノ爲メニスルモノデアアルト云フヤウナコトデアリマシタナラバ、在郷兵ノ此徵兵ニ對スル義務心——觀念ト云フモノ、是ガ非常ニ此點ヨリ出發シテ大ナル差ヲ生ジテ來ルデアリマス、如何トナレバ今日兵營ニ在リマスル者ハ、一箇年四十三圓二十錢ト云フ給料ヲ受ケテ居ルデアアル、一日僅ニ十二錢、煙草一ツニ葉書一枚ニ足ラス所ノ十二錢ヲ受ケテ居ルデアアル、故ニ若シ是ガ荒川君ガ仰セラレタル通り、本稅ニ依テ得タル所ノ金ヲ以テ彼等ニ與ヘルト云フコトデアツタナラバ、ドレダケ與ヘレバ宜シイデアアルカト云フコトヲ承リタイデアアル、此ドレダケ與ヘルカト云フ一事ニ依ツテ、我ガ日本帝國ノ徵兵主義ト云フモノハ、或ハ舊兵主義ニ陥ルト云フ所ノ最モ重大ナル所ノ理由ガアルモノデアアル、（君ガ備兵ダト呼フ者アリ）即チ今日大正十年度ノ豫算面ヲ見マスルト云フト、僅ニ一日十二錢ノ給料デアリマス、クレドモ、座モ積レバ山トナルノ喻ノ如ク、兵卒ノ給料總額ハ一千百萬圓ニ達シテ居ル、又軍人救護法ニ依ル所ノモノハ百萬圓許リアル、癡兵院ニ要スル所ノモノハ七百萬圓アル、是等ノモノニ若シ假リニ此機會ニ於テ荒川君ノ言フ所ノ、非役壯丁稅ノ増額ヲ得タル所ノ金ヲ以テ三割増額、即チ一日三錢六厘ノ増額ヲ得タル所ノ金ヲ以テ實ニ三百七十萬圓ニ近イ所ノ金ガ要ルデアリマス、諸君、斯ノ如ク今日ハ物價騰貴ノ世デアアル、物價騰貴ノ今日ノ場合ニ於テ、一日彼等ニ三錢六厘ノ金ヲ與ヘテ以テ満足

ヲ買ハントスルコト云フヤウナ事ハ、如何ニ氣ハ心ト申シマシ
テモ、満足ヲ與ヘ得ルデアリマセウカ、殊ニデス、是ガ普ク國
民一般ヨリ、溢ル、ガ如キ熱烈ナル同情ニ依テ増額セラル
ルト云フコトデアタナラバ、三割或ハ一割乃至五分デモ、彼
等ハ精神的ニ満足スルノデアル、併ナガラ只今申上ゲマシタ
通り、荒川君ノ此提出ナサル所ノ、非役壯丁稅ニ依テ得タ
ル所ノ、金ヲ以テ彼等ニ満足ヲ與ヘルトシマスレバ、又半面ニ
ハ——此半面ニハ此僅カナ金ヲ以テ彼等ハ兵隊ニナラヌケ
レドモガ、其金ヲ納メテ居ルノ故ヲ以テ、其義務心ヲ満足ス
ルト云フヤウナコトガアルノデアリマシテ、是ガ徵兵ニ取テ果
シテ苦痛トナラナイノデアリマセウカ、是モ承リタイノデア
ル、又次ニハ此血稅納付者ガ——徵兵トナリタル者ガ現ニ受テ
ツ、アル所ノ各種ノ優待法、並ニ優待法ト云フモノハ、此非役
壯丁稅ヲ納メタル者ハ恐ク受ケルモノデアリマセウカ、即チ
徵兵ト同様ニ、何事モ特權並ニ優待法ト云フモノヲ受ケル
モノデアルカ、否カト云フコトヲ承リタイノデアル、若シ此非
役壯丁稅者ガ徵兵ト同様ニ、各種ノ特權優待法ト云フヤ
ウナモノヲ受ケルモノヲ受ケルコトガ出來ナイト云フコトデア
ルナラバ、此立法ノ精神ハ兵隊ニ出ナイ者ガ奉公ノ義務心
ヲ満足スルコト云フコトハ、自家撞者ニナルコトガナカドウカ
ト云フコトモ亦承リタイノデアル、從來血稅ヲ納メタル者ハ、
郷里ニ歸シタナラバ一團トナリ、而シテ彼等ハ其己ノ自負心
己レノ名譽心ニ依テ節制自重ヲ爲シ、其己ノ郷土ニ於テ、
總テノ改革等ニ盡サントシテ居ル所ノモノデアル、所ガ此
非役壯丁稅ヲ納メタルノ故ヲ以テマシテ、假令立法ノ精神
ハソコニ無イト云フコトハ、荒川君ノ御説明ノ通りデアリ
マスケレドモ、其結果トシテ非役壯丁稅ヲ納メタル者ハ徵
兵ト同様ノ義務、所謂憲法ニ於ケル所ノ徵兵ノ義務ヲ満足
スルト云フコトデアリマシタナラバ、此兩者ノ間ニ於ケル所ノ
徵兵上ノ觀念ト云フモノハ自ラ異ナルガ故ニ、兩者ノ間ノ
其扞格ト云フモノハ非常ナモノデアル、意思ノ疎通ト云フモ
ノニ一大溝渠ヲ造リマシテ、決シテ是ガ圓滿ニ行クト云フコ
トハナカラウト思フノデアリマスガ、此點ニ就テモ承リタイノ
デアル、(南無阿彌陀佛)ト呼フ者アリ、過去ニ於テモ單ニ
兵隊ニ出タ者ノミガ特別ニ國家ニ盡シタル者デアハナイ、吾
等ハ亦兵隊ト同様ニ國家ニ盡シタル者デアハナイ、吾
能ク吾ミガ間イタノデアリマス、併ナガラ兵隊ニ出タルノ
故ヲ以テ、彼等ハ他ノ一般國民ノ納メテ居ル所ノ納稅ノ義
務ヲ免除セラレテハ居リマセヌデアル、己ノ生産ヲ抛テ、一
家一身ヲ度外ニシテ、眞劍ニ徵兵トナタルノ故ヲ以テ其義
務ヲ盡サントスル、所謂二重三重ノ奉公ノ義務ヲ盡シテ居
ルト云フコトデアル、之ニ反シテ徵兵トナラナイ者ハ勿論、強

テ間接的ニ國家ノ爲メト云フコトハ申シ得ラルデアリマセ
ウガ、大部分ト云フモノハ、自己ノ生産ノ爲メニ努力ヲ爲シ
居ルト云フコトハ申スマデモナカラウト思フ、斯ノ如ク理路
自ラ判明シテ居ルモノ拘ラズ、尙且ツ兩者ノ間ニ、斯様ナル
場合ニ同一ナル所ノ憲法上ノ義務ヲ完ウスルト云フコトニ
ナタナラバドウシテモ此疏通ト云フモノヲ圖ルコトハ出來
ナカラウト思フ、斯ノ如クニツハ血ニ依リマシテ——美シイ
所ノ血ニ依リマシテ、一ハ税金ニ依リマシテ、各其徵兵ノ
義務ヲ盡ス結果トナルト云フコトヲ見ルトキハ、徵兵ト云フ
モノノ根本ノ觀念上意見ノ大疏隔ヲ生ジマシテ、一村一地
方ニ於ケル所ノ中堅の在郷兵ト其他ノ者トノ間ニ於テ、實
ニ事毎ニ相反目スルコト云フコトニナタナラバ、實ニ我國軍ノ
基礎ヲ危ウスルコトハ、先程荒川君ノ申サレテ居ル通りデア
ラウト思フ、(ノウ)「頭ガ古イ」ト呼フ者アリ、荒川君ハ
國民思想ノ惡化ト云フコトニ、常ニ注意御心配ナサレテ居
ル御方デアルト承テ居ルノデアリマス、斯ノ如ク物ハ心
ニ變リ、金ハ血ニ變リ、富力ハ生命ヲモ支配スルト云フヤウ
ナコトニナリマシタナラバ如何デアリマセウカ、世ヲ舉ゲテ所
謂唯物主義ニ陥ラントスル所ノ虞ガアルト私ハ思フノデア
リマス、荒川君ハ如何ニ御考ニナサレテ居ルカ、又絕對ニ
兩者ノ間ニ於テ衝突ガ無イト思召シテ居ルノデアリマセウ
カ、荒川君ノ申サレタル通り、戰闘ト云フモノ——戰ト云フ
モノハ、如何ニ將校ガ立派ナ者ガアリマシテモ、又如何ニ
機械ガ立派デアリマシテモ、最後ノ止メヲ刺スモノハ此愛
國ノ精神ノ横溢シタル所ノ兵卒ノ肉彈ニ在ルト云フコトハ
御説ノ通りデアル此兵卒、此徵兵、此眞ノ徵兵ノ心理狀態
ト云フモノハ、身親シク徵兵トナタル者並ニ其家族ニ於テ
始メテ之ヲ諒解スルコトガ至當デアラウト思フノデアル、然
レニモ拘ラズ豫備將校トナラントスルヤウナ、荒川君ノ申サレ
ル通り一年志願兵ヤ、又職業的ノ將校杯ハ、到底憶測ガ出
來ナカラウト思フノデアル、斯ノ如ク實ニ高潔ナル所ノ血稅
ヲ拂フ者ト云フモノハ、非役壯丁稅ニ依テ悉ク破壊セラ
ルト云フヤウナ虞ガアルカナイカト云フコトヲ、簡明ニ御返
答ヲ願ヒタイノデアリマス、況ヤ動トモスルト功利主義、唯
物主義ニ走ラントスル所ノ一部ノ政治家、或ハ片々タル所
ノ當世流ノ將校杯ハ、此兵卒ノ心理狀態ヲ到底諒解スル
コトガ出來ヌダラウト思フノデアリマス、故ニ本案ヲ荒川君
ハ頻リニ縷々述ベラレマシタケレドモ、殘念ナラガ、現役將
校ヲ特別ニ除外ナサレタト云フコトハ、國民皆兵ト云フ所ノ
立法ノ精神上ヨリシテ、自家撞者ニ陥ル結果ト云フコトハ、
是即チ兵卒ノ心理狀態ヲ能ク御承知ナサレテ居ラナイ所ノ結
果ノ、矛盾ト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、是等ノ點ニ
就テ明答ヲ煩シタイト思フノデアリマス(拍手起ル)

○荒川五郎君 議長
○議長(與繁三郎君) 荒川君、答辯シマスカ
○荒川五郎君 答辯致シマス
○荒川五郎君 登壇、拍手起ル
○荒川五郎君 只今松岡君ノ御質問ニ對シテ一言御答
ヲ致シマス、松岡君ハ十何年ノ間軍隊生活ヲセラレテ、名譽
アル軍人デアリマス、隨テ斯ノ如キノ案ニ向テ心配セラル
ト云フコトハ、至當ト心得マス、併シ私ノ述ベタル所ノ
私ノ辯ノ足ラヌ所ハ已ムヲ得マセスケレドモ、斯ル疑ヲ起ス
人ガアルカラ、已ムヲ得少シ長クナリマシタケレドモ、其理由
ヲ説明致シテデアリマス、此非役壯丁稅ヲ取ルガ爲メニ、
備兵ト云フ精神ヲ起シハシナイカト言ハレタキハ、最モ私
ノ力ヲ用テ左様デナイト云フコトヲ明カニシタ積リデアリ
マス、(備兵デモ宜イデアハナイカ)ト呼フ者アリ、今日ハ我
國防ノ上ニハ巨億巨万ノ大國費ヲ投ジテ國防ニ充テテ居
リマスケレドモ、將來ノ我が國防戰爭ハ、決シテ物質的總動
員ニノミ、依ルコトハ出來マセヌ、形而上無形的ノ總動員ヲ
必要ト致シマスカラ、其等ノ精神ノ上ヨリ致シテモ、國民皆
兵ノ精神ヲ貫徹スルニ近カラシメタイト云フノガ、此案ノ精
神デアリマシテ、此非役壯丁稅ニ元ト是ハ或ハ兵役稅ト唱ヘ
或ハ壯丁稅ト申シタノデアリマス、ソレデアハ兵役稅ニ稅ヲ出
シテ免ルル途ヲ開クヤウナ感ジラ與ヘルト云フ非難デアリマ
シタカラ、壯丁ノ中ノ服役シナイ、即チ非役ノ者ニ此稅ヲ課
セヤウト云フノデアリマシテ、其等ノ非役者ガソレ——其資
産ニ應ジテ幾分國家ニ盡スト云フコトハ、ソレガ爲メニ我國
民皆兵ノ主義、並ニ軍人ノ崇高ナル尊敬スベキ精神ニ、何
等ノ障害ヲ來サナイノミナラズ、益、此精神ヲ貫徹スル所以
デアルト思フノデアリマス、松岡君ハ既ニ長キ軍隊ノ經驗ア
リ、又松岡君ノミナラズ、是迄日清日露ノ其戰爭ニ携ハタ
人ハ、能ク言フノデス、一錢五厘ノ葉書ヲ以テ軍隊ハ直チ
ニ補充ガ出來ル、我が國軍ハ良好ダト言ヒマスケレドモ、時
勢ハ遷リ、人心ハ變リマス、能ク時勢ト人心ヲ察シテ各、
其満足スベキ方ニ向テハ、有ユル努力ヲ要スルト思フノデ
アリマス、歐洲戰亂ニ於テ、伊太利ノ一人ノ中隊長ガ我が
部下ニ激勵叱咤シテ、吾ミハ「シーザー」ノ後繼者デア、然
ルニ今埃地利ノ軍隊ニ、半バ計リノ兵ニ向テ、二年計リモ
無爲ニシテ過ギタト云フコトハ、吾ミハ「シーザー」ニ對シテ洵
ニ慚愧ニ堪ヘヌ次第デア、今ヤ吾レ行ク、諸君モ進メ、吾レ
ハ死アルノミト、中隊長ハ勇躍シ、猛烈トシテ濠ヲ越エテ進
ンダ時、多クノ部下ノ兵隊ハ共ニ拍手致シテ唯々萬歲々々
ト唱フルノミ、聲ノ聲援ハ與ヘマスケレドモ、一人モ之ニ
從テ進ム者ハ無カ、彼レ中隊長ハ後ヲ振返テ、ア、「シー
ザー」ノ血ハ無イカト、茲ニ彼ハ悲壯ナル最期ヲ遂ゲタノデ

如ク決シマシタ。日程第十九辯護士法改正法律案ノ
第一讀會ヲ開キマス、鵜澤總明君

第十九 辯護士法改正法律案(鵜澤總明)

君外九名提出)

第一讀會

辯護士法改正法律案

第一章 辯護士ノ資格及職務

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ相當官廳
ノ命令ニ基キ法律事務ヲ行フモノトス

第二條 辯護士タラント欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フル
コトヲ要ス

一 帝國臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル男子タル
コト

二 辯護士試験規則又ハ判事檢事登用試験規則
ニ依リ試験ニ及第シ一年六箇月以上辯護士ニ付
實務修習ヲ爲シタルコト

第三條 辯護士試験實務修習ニ關スル規則ハ司法大
臣ヲ定ム但シ試験委員ハ司法省高等官判事檢事
辯護士中ヨリ之ヲ詮衡ス

第四條 法律學ヲ修メタル法學博士判事檢事タル資
格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其ノ請求ニ因リ登録
ヲ取消シタル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ
得

第五條 左ニ掲ケタル者ハ辯護士タルコトヲ得ス
一 無期若ハ六年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタ
ル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在
ラス

二 刑法第二編第一章乃至第三章第五章第七章
乃至第十一章第三百三十四條第十六章乃至第二
十三章第二十五章第二十六章第三十五章乃至
第四十章ノ規定ニ依リ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セ
ラレタル者

三 破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
懲戒ノ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタル者又
ハ本法ニ依リ除名セラレタル者

第二章 辯護士名簿
第六條 辯護士ハ辯護士名簿ニ登録セラルルコトヲ要
ス

第七條 各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備フ辯護士ハ
其ノ登録セラレタル地方裁判所ノ所屬トス

第八條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其ノ所屬地方
裁判所ノ裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

裁判所ノ檢事局ヲ經由シテ司法大臣ニ請求書ヲ差
出スヘシ此ノ請求書ニハ第一章ノ事項ニ關スル證明
書ヲ添付スヘシ

第九條 司法大臣ハ左ノ場合ニ於テハ理由ヲ付シ登 録請求ヲ却下スヘシ

一 第一章ノ辯護士タル資格ナキ者ト認メタルトキ
二 登録請求ノ日ヨリ遡リ三箇年內ニ辯護士除名
ニ相當スヘキ行為アリト認メタルトキ

三 身體若ハ精神ノ衰弱ニ依リ辯護士ノ職務ヲ執
ルニ堪ヘサル者ト認メタルトキ

第十條 司法大臣ハ左ノ場合ニ於テハ所屬辯護士會
ノ意見ヲ聞キ辯護士名簿ノ取消ヲ命ス

一 登録セラレタル辯護士ニシテ辯護士タル資格ナ
キ者ナルコトヲ發見シタルトキ

二 辯護士身體若ハ精神ノ衰弱ニ依リ職務ヲ執ル
コト能ハサルニ至リタルトキ

第十一條 登録請求却下及登録取消命令ニ對シテハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ出訴ノ爲登録取
消ノ命令ハ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第十二條 司法大臣カ登録取消事件ノ行政訴訟ニ敗
訴シタルトキハ勝訴者タル辯護士ハ何等ノ手續費用
ヲ要セスシテ從前ノ地位ヲ回復ス

第十三條 登録手数料及登録ニ關スル規則ハ司法大
臣ヲ定ム

第三章 辯護士ノ權利義務
第十三條 辯護士ハ法廷ニ於テ職務上陳述シタル言
語ニ付其ノ責ヲ負フコトナシ但シ法廷ノ秩序維持ニ
關スル裁判所構成法民事訴訟法及刑事訴訟法ノ規
定並本法ニ依リ懲戒規定ノ適用ヲ妨ケス

第十五條 辯護士ハ正當ノ理由アルニ非サレハ相當官
廳ノ命令シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス

第十六條 辯護士ハ左ニ掲ケタル事件ニ付其ノ職務ヲ行
フコトヲ得ス

一 職務上相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委
任ヲ受ケタル事件

二 官吏公吏職務中取扱ヒタル事件

三 仲裁手續ニ依リ仲裁人トナリテ取扱ヒタル事件

第十七條 辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス
但シ帝國議會ノ議員トナリ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラ
レタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス但シ辯護士會ノ許可
ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第十九條 辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十條 辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十一條 辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第四章 辯護士會

第十九條 各地方裁判所管轄區域毎ニ辯護士會ヲ開

司法大臣ハ土地ノ狀況ニ依リ數個ノ地方裁判所區
域ヲ合シテ一ノ辯護士會ヲ設ケシムルコトヲ得

第二十條 辯護士會ハ法人トシ司法大臣ノ監督ヲ受
ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ左ノ事項ヲ處理スルヲ以
テ目的トス

一 法規ノ維持及發達ヲ圖ルニ必要ナル事項
二 法律事務ノ完備改善ヲ圖ルニ必要ナル事項

三 辯護士ノ利害ニ關スル事項

第二十一條 辯護士會ハ會則ノ定ムル所ニ據リ會費
ヲ徵收スルコトヲ得

第二十二條 辯護士會ニ理事若干名ヲ置キ會務ヲ處
理セシム

會務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
辯護士會ハ理事中ヨリ特ニ其ノ會ヲ代表スヘキ理事
ヲ互選セシムルコトヲ得

第二十三條 辯護士會ニ常議員若干名ヲ置キ會則ノ
定ムルトコロニ依リ重要ナル事件ヲ議決セシム

第二十四條 辯護士會ノ役員ハ總テ其ノ會員タル辯
護士中ヨリ選舉スルモノトス

第二十五條 辯護士ハ辯護士會ニ加入シテ其ノ會員
名簿ニ登錄ヲ受ケタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ
得ス

第二十六條 辯護士會ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ
以テ會則ヲ作り左ニ掲クル事項ヲ定メ司法大臣ノ認
可ヲ受ケヘシ

一 名稱、地域及所在地
二 役員ノ種類、員數、職務代表權限及其ノ選舉方
法ニ關スル規定

三 入會、退會及登錄ニ關スル規定
四 總會又ハ役員會ノ議事ニ關スル規定

五 辯護士ノ風紀及懲戒ニ關スル規定
六 報酬ニ關スル規定

七 辯護士會會費ノ取立及未納者ニ對スル制裁ニ
關スル規定

八 財産ノ管理及出納其ノ他會務ノ處理ニ必要ナ
ル規定

第二十七條 辯護士ハ其ノ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵
守スヘシ

所屬辯護士會以外ノ地ニ事務所ヲ設ケル辯護士ハ
其ノ地辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘシ

第二十八條 役員選舉ノ結果總會開會ノ日時場所議
題並總會及役員會ノ結果ハ辯護士會ヨリ檢事正ヲ
經由シテ司法大臣ニ届出シヘシ

第二十九條 司法大臣ハ檢事長又ハ檢事正ヲシテ辯
護士會ノ會場ニ臨席セシムルコトヲ得

第三十條 辯護士會ノ會議ニシテ法律命令若ハ會
則ニ違フモノアルトキハ司法大臣ハ其ノ決議ヲ無効ト
シ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得

第五章 懲戒及罰則

第三十一條 辯護士ニシテ法律命令又ハ辯護士會會
則ニ違反ノ所爲アルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會
ノ決議ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲司法大臣ニ申告スヘシ

第三十二條 辯護士ニ對シ懲戒事犯アリト認ムル者ハ
何人ト雖辯護士會ニ申告スルコトヲ得

第三十三條 懲戒處分ニ就テハ判事懲戒法ノ規定ヲ
準用ス

第三十四條 懲戒罰ハ左ノ四種トス

一 譴責
二 千圓以下ノ過料

三 五年以下ノ停職
四 除名

第三十五條 辯護士ニ非スシテ法律事務ヲ取扱フコト
ヲ業トスル者ハ一年以下ノ懲戒又ハ千圓以下ノ罰金
ニ處ス

第六章 附則

第三十六條 本法ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施
行ス

第三十七條 本法施行ノ際現ニ辯護士タル者ハ本法
ニ依リ辯護士ト看做ス

第三十八條 現在ノ各辯護士會ハ本法ニ依リ辯護士
會ト看做ス

第三十九條 現在ノ各辯護士會ノ會則ハ本法ニ依リ
會則ト看做ス但シ本法施行ノ日ヨリ六箇月内ニ本
法ニ遵據シテ之ヲ修正スヘシ

第四十條 本法施行ノ際現ニ辯護士會ニ加入セル
辯護士ハ本法ニ依リ其ノ辯護士會ニ加入シ登錄セラ
レタルモノト看做ス

第四十一條 本法施行ノ際在任セル辯護士會役員ハ
本法ニ依リ役員ノ選任ニ至ル迄本法ニ依リ役員ト看
做ス

第四十二條 本法施行ノ際開始セラレタル警戒手續

ハ明治二十六年法律第七號ニ依ル

第四十三條 本法施行ニ必要ナル事項ハ司法大臣之
ヲ定ム

第四十四條 明治二十六年法律第七號ハ本法施行
ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

○辯護士會登記、拍手起ル

テ居リマス、國民黨ノ諸君モ御署名ニナシテ居リマスカラ、是ハ純然タル黨派ノ争ニ非ザルコトハ明白デゴザイマス、而シテ此案ノ内容ニ就キマシテハ、吾々ガ多年考ヘテ居リマシヘ事ヲ用井ラレテ居ル點モゴザイマスルガ、併ナガラ尙ホ不十分ナリト信ズル點モゴザイマスケレドモ、私ノ只今提出者ニ問ハントスル所ハ、其等ノ内容ニ關スル事デハナイノデアリマス、内容ニ關シマシテハ他日ノ機會ニ譲リマスルガ、辯護士以外ノ諸君ハ御承知ノ無イコト、存ジマスルガ、近年司法省ニ於テ法律案ノ改正ヲ致シマスル場合、例ヘバ民法ノ一部トク、若クハ商法、民事訴訟法、破産法是等ノ法律ノ改正ヲ企テラレマスル場合ニハ、必ズヤ全國ノ裁判所ノ側ト辯護士ト此兩方面ノ所謂在野ニ諮問致シマシテ、況ク是等ノ意見ヲ總メテ起案ヲスルト云フコトノ慣例ニナッテ居リマス、是ハ全國在野ノ法曹ハ、法ノ運用ニ携ッテ居リマシテ、法律上ノ專門ノ知識ヲ有スルノ外、經驗ノ上ヨリ致シマシテ種々ナル意見ヲ持ッテ居リマスルカラ、是等ノ意見ヲ求ムルト云フコトハ、立法ノ完全ヲ期スル上ニ於キマシテハ、極メテ深切ナル造方デアルト私ハ考ヘテ居リマス、斯ノ如ク一般法律デサヘモ、司法省ハ在野ノ法曹ノ意見ヲ求メルノデゴザイマスカラ、若シ本案ノ如キ一般國民ヲ支配スル場合ニ於キマシテ、殊ニ此改正ハ全體ニ涉ル改正デアッテ、所謂根本的ノ改正デゴザイマス、斯ノ如キ改正ヲ企ツルニ方ツテハ、必ズヤ先ヅ第一ニ全國ノ辯護士會ニ諮問ヲ致スト云フコトハ、當然爲スベキ事デアルト云フコトハ確信シテ宜シノデアル、然ルニ本案ノ司法省ノ提案ニ非ズシテ、所謂法曹代議士ノ名ニ於テ提出セラレタルニ拘ラズ、常ニ多數ノ輿論ヲ尊重シ、全國ノ辯護士會ニ諮ラズシテ突如トシテ御提出ニナッタル云フコトハ、私ハ少クモ所謂法曹代議士ガ、全國ノ辯護士會ヲ無視シタモデアッテ(ノウウ)全國ノ辯護士ハ、侮辱ヲ受ケタルモノナリト云フコトノ感ジヲ持ッテ居ルト信ジマス、現ニ私共ハ數月前神戸若クハ大阪ノ辯護士ニ會ヒマシタガ、何等ノ相談ガナクシテ、全國ノ辯護士ニ發言ノ機會ヲ與ヘズシテ、突如トシテ提出シタル云フコトニ就テハ、非常ニ憤慨ヲ致シテ居リマス、此數日ノ中ニ辯護士會ヲ開クト云フコトモ申シテ居ルノデアル、地方ノ辯護士デアリナガラ、自分ノ資格ヲ認メズシテ之ニ反對ノ批評ヲ加ヘルガ如キハ、自ラ侮辱ノデアルト私ハ信ズル、或ハ本案ハ辯護士協會ニ於テ、起案ヲセラレタモノデアルト云フコトモ聞キマシタ、若シシテナラバ辯護士協會ハ、須ラク全國ノ辯護士會ニ向テ諮問ヲ致スベキ等デアル、勿論改正ハ一年デモ早クシテ、完全ナル法律ニシタイト云フコトハ勿論

デゴザイマスルケレドモ、併ナガラ本案ハソレ程ニ急ヲ要スル法案デハナイノデアル、故ニ若シ全國ノ辯護士會ヲ無視シタ、侮辱シタル云フヤウナ意味合デナクシテ、ソユマデハ氣ガ付カナカタト云フコトヲ御趣意デアッタナラバ、須ラク今回ハ御見合ニナッテ次ノ議會マデニ全國ノ辯護士ノ意見ヲ總メ、サウシテ御提出ニナレバ、所謂辯護士ヲ支配スル所ノ法律ヲ、全國多數ノ辯護士ノ輿論ノ上ニ作リ上ゲルト云フコトニナレバ、院外ニ於ケル辯護士諸君モ、恐クハ御信用ニナッテ御賛成ニナルコト、私ハ信ジマス、ソレ故ニ私ガ提出者ニ問ハントスル所ハ、今申ス如クマサカ全國ノ辯護士會ヲ無視スルト云フヤウナ御意見デハナカタト信ジマスルガ故ニ、是ハ手續上ノ誤デアッテ、全國ノ辯護士ヲ輕ンジタル云フコトハ免レマスマイケレドモ、惡意ノアッタモノデナイト信ジマスカラ、ソレナラバ今回ハ見合シテ、更ニ全國ノ辯護士ニ協議ヲ致シタルデ、御提出ニナルト云フ御意思ハゴザイマセヌガ、勿論議員ノ提案權ハ憲法ノ認ムル所デアルカラ、左様ナリ當ヲ申スノデハゴザイマセヌカ、司法省デスラモ執ルベキ手續ヲ、辯護士ノ側ノ人ガ執ラズシテ出スト云フノハ、私ハ不穩當デアルト信ズルノデアリマス、故ニ其處ニ就テ提案者ノ御意見ヲ伺ッテ置キマス

○鶴澤總明君 簡單デアリマスカラ、此席カラ御答致シタルウゴザイマス

○議長(與繁三郎君) 提案者ハ撤回ヲ爲サル意思ガ有ルカ、無イカト云フ御意デアリマス

○鶴澤總明君 承知致シマシタ——只今野田君ノ御質問デアリマスガ、提案者ハ之ヲ撤回スル意思ハゴザイマセヌ、ソレカラ司法省若クハ政府ノ持ヘマスル法律案ハ、之ヲ汎ク民間ニ諮リマセヌケレバ民情ヲ盡スコトガ出來ナイ處ガアリマスカラ、是等ノ官署若クハ官吏等ノ作ル案ニ就テハ、是ハ汎ク民間ニ諮ルコトガ相當デアラウト考ヘル次第デアリマス、併ナガラ私共ノ此提案ヲ致シマシタルハ、辯護士多數ノ輿論ヲ容レタル案ト信ジ、即チ辯護士諸君ハ此案ニ當然共鳴スベキモノデアルト云フコトヲ確信致シテ、提案シタル次第デアリマス、之ヲ特別ノ法律ノ機關タル辯護士會ニ諮ラナカタト云フ事柄ハ、官僚式ヲ避ケテ、民間ニ在ル所ノ吾々ノ意思ヲ直チニ議院ニ訴ヘテ、茲ニ良好ナル成案ヲ得タイト云フ意思ニ外ナラヌノデアリマス、隨デ此法律規定ニ基ジキマスル辯護士會ニ對シテハ、非常ナル尊敬ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ、茲ニ言明ヲ致シテ置キマス(詔辯)ト呼フ者アリ

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、特ニ二十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

(賛成ト呼フ者アリ)

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ勸議ニ御異議ハ無イト認メマス、仍テ勸議ノ如ク決シマシタ——日程第二十所得稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——提出者岩本平藏君

第二十 所得稅法中改正法律案(岩本平藏君外九名提出) 第一讀會

所得稅法中改正法律案

第十四條第一項第三號中「山林ノ所得」ヲ「山林伐採ノ所得」ニ改ム

(岩本平藏君登壇、拍手起ル)

○岩本平藏君 諸君、只今日程ニ上リマシタル、所得稅法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ述ベヤウト思ヒマス、所得稅法中第十四條、山林所得、此所ニ極ク簡單ナル修正ガアルノデアリマス、即チ現行法ノ第十四條第一項、第三號ニ「山林所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ヲ得ルノヤ、山林ノ所得ハ「山林伐採ニ依ル」即チ此七字ヲ加ヘルノデアリマス、ソレニ就キマシテ此理由ヲ簡單ニ述ベヤウト思フノデアリマス、現行所得稅法ノ山林ニ關スル所得ハ、前ノ所得稅法ニハ明カニ山林伐採ノ所得ト書イテアッタノヲ、今回ハ其「伐採」ノ二字ヲ除イタルデアリマシテ、即チ山林ニ生存シテ居ル立竹木ハ、土地ト共ニ之ヲ移轉スルモノニ對シテモ所得稅ヲ取ルコトニ相成ッテ居リマス、是ハ大藏當局ニ於テハ、或ハ此林業ノ根本ヲ能ク御理解ニナラナイ結果ニ依ッテ、斯ノ如クニナッタルデアルマイカト考ヘルノデアリマス、此造林ノ事ニ就キマシテモ、森林經營ハ決シテ劃一的ノモノデアリマセヌ、即チ造林ノ目的ト致シマシテモ、喬林作業、矮林作業、天然林作業、此三通リニ分レルノデアリマシテ、此造林ノ目的ト致シマシテハ、主木收利ト間伐收利、尙ホ其以外ニ副產物ヲ目的トスルノ方法モアルノデアリマス、此方法此目的、ソレハ矢張需要地ノ如何、或ハ土地ノ地積ノ關係、或ハ運搬ノ便否、斯ウ云フコトニ依ッテ決定致スノデアリマス、ソレデアリマスカラ山林ハ當ニ立竹木ノ儘ヲ以テ移轉シタル所デ、決シテ其所得ナルモノハ入ルモノデアリナイノデアリマス、只今申シタル間伐收利ヲ以テ目的ト致スモノニ就テハ、最モ近キ例ヲ申シマセバ、竹林ノヤウナモノ、林業ニ於テハ一番收益ノ多イモノハ竹林デアリマス、併ナガラ竹林ハ御存ジノ如ク、決シテ皆伐スルモノデアリナイ、四分ノ一トク、若クハ五分ノ一、此位ノモノヲ間伐ヲ致シテ行クノデアリマスカラ、全體ノ賣買ヲ致シマシテモ、跡ニ四分ノ三、若クハ五分ノ四位ハ追々ニ殘ッテ行クノデアリマス、其殘ッテ行キマスモノハ、是ハ移タモノヲ其

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第二十一、明治三
十四年法律第三十號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマ
ス、齋藤鷺太郎君

(吳山縣志) 志終前二卷之末

之ニ通學スル兒童ニ於キマシテハ、直グ隣リ同士ノ兒童

デアリナガラ、甲ハ非常ナル立派ナル學校ニ於テ教育ヲ受ケ、乙ハ貧弱ナル二部教授ニ通學ヲシナケレバナラヌト云フヤウナ次第アルノデアリマス、故ニ私ハ此地方學事通則ノ改正ヲシテ、斯ル弊害ヲ除去シタイ、尙且ツ其市町村當局ニ於キマシテ、教員ヲ配給スル上ニ於キマシテモ、非常ノ弊害ガアルノデアリマス、ソレハ貧弱ナル區ニ對シマシテハ、代用教員等ノ如キ月給ノ廉キ教員ヨリ配給スルコトガ出來ズシテ、富豪ノ多クアリマス學區ニ於キマシテハ、良キ教員ヲ配給スルコトニナテ居リマス、中流以上ノ家庭ニ於キマシテハ、兒童ハ少ナウゴザイマスガ、中流以下ノ家庭ニ於キマシテハ、兒童ノ數ハ實ニ澤山アルノデアリマス、故ニ富豪ノ區ニ於キマシテハ、學事費ノ費用ハ少ナクアリマシテ、貧弱ナル學區ニ於キマシテハ、富豪ノ區ノ三倍五倍、或ハ十倍ノ負擔ヲ致シテ居ルノデアリマスガ故ニ、各學區ニ於キマスル費用ノ均等、及其教員ノ配給ヲ圓滑ナラシメ、而シテ國民教育ヲ完全ニ行ヒタイト信ジマス次第デアリマス、ドウゾ諸君、可憐ナル所ノ多數ノ兒童ノ爲メニ、本案ノ通過ニ賛成アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ガ無イト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十三、沒祿者給與法案ノ第一讀會ヲ開キマス熊谷直太君

第二十三 沒祿者給與法案(熊谷直太君 外八名提出) 第一讀會

沒祿者給與法案

沒祿者給與法案

第一條 明治元年一月ヨリ明治三年九月十日藩制施行マテノ間ニ於テ國事ニ關スル犯罪ノ爲ニ家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル者及其ノ家名承繼人ニ限リ其ノ當時ノ祿高ニ基キ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法並明治三十二年法律第八十四號家祿賞典祿處分法施行法ヲ準用シ祿高整理ノ爲發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與ス

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經テ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十四 營業稅法中改正法律案(荒川五郎君提出) 第一讀會

營業稅法中改正法律案

營業稅法中改正法律案

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ岩崎君ノ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十四、營業稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提案者荒川五郎君

〔贊成〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ岩崎君ノ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十四、營業稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提案者荒川五郎君

○荒川五郎君 極メテ簡單ニ說明申シマス、御承知ノ通りニ小麥カラ麥粉ヲ取リマシタ粕ノ數、其數ハ主タル效用ヲ爲シタル其副産ノ粕デ、副産物廢物デアリマス、殆ド價ノ

無イモノデアリマス、然ルニ此數ト云フ規定ガ營業稅法ニ無イガ爲メニ、非常ナ重稅ヲ課セラレテ居ルノデアリマス、其次第ハ營業稅法ノ第十二條ニ於テ、物品販賣業ヲ規定シテアリマス、其物品販賣業ハ、賣上ニ付テ課稅ヲ致シマス、ニ卸賣ト小賣トヲ分ケテ、卸賣ハ萬分ノ八ト萬分ノ十一ト甲乙ニ分ケテアリマス、又小賣ハ萬分ノ二十ト萬分ノ三十ト、是モ甲乙ニ分ケテアリマス、而シテ多クノ物品ノ中デ、米、麥、豆、肥料、鹽、薪炭ト云フヤウナモノハ、卸賣小賣トモ廉イ方ノ甲ノ課稅ヲ爲シ又絹、麻、真田、砂糖、燐寸ト云フヤウナモノハ、卸賣デハ甲ノ廉イ稅ヲ課スルノガ、小賣デハ乙ノ高イ稅ヲ課スルコトナテ居ル、而シテ其以外ノ品ハ十二條ニ掲ゲタル「其ノ他ノ物品」ハ、總テ小賣モ卸賣モ高イ分ノ乙ノ稅ヲ課スルコトナテ居マス、其箇條中ニ「穀」ト云フ文句ガ無イガ爲メニ、其ノ他ノ物品」ト云フ中ニ入テ居ルモノトシテ解釋シ、法律ヲ適用セラレテ、米、麥、糠、出タ其主タルモノノ從デアル、廢物デアル、副産物デ、殆ド無價値ナ物デアル數ニ高稅ヲ課シ、アルガ、其數其物ハ今日如何ニ使ハレテ居リマスカト云ヘバ、元ト是レハ殆ド肥料ノ外ニハ使ハレナカタデアリマス、近年ニナリマシテソレガ牛馬並ニ鶏ナド家畜ノ飼料ニ使ハレマス、家畜ノ飼料ト云フモノソレガ主ニ使ハレルノデアリマセヌデ、補助的ノ飼料ニ使ハレテ居ル至テ價ノ乏シイ殆ド、無價値ナ物デアリマス、其無價値ナ數ニ對シテ、主物デアル麥米ナドヨリモ高イ、絹、砂糖、ナドヨリモ尙ホ高イ、卸賣小賣共ニ乙ノ重稅ヲ課セラレト云フコトハ如何ニモ不公平デアアル、如何ニモ不權衡デアルト云フノデ、此案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、全體營業稅法ハ法律自體其己ノガ世間ニ歡迎セラレナイデ、惡稅ト唱ヘラレテ居リマス、實際ノ公平ヲ缺キ、國稅タル性質ハ甚ダ乏シイデアリマス、實際ノ公平ヲ缺キ、國稅タル性質ハ甚ダ乏シイ性質ニハ適シナイモノデアルト云フコトニ、天下ノ輿論ハナテ居ルノデアリマス、隨テ其法律案ニ向テ彼此手ヲ加ヘヤウト云フコトハ、私モ今其勇氣ガ乏シイノデアリマス、ケレドモ、苟モ一日デモ是ガ行ハレテ居ル以上ハ、成ベク之ヲ公平ニ平等ニ扱フノガ必要デアラウト思フノデアリマス、私ガ此問題ニ氣ガ著キマシタノハ、昨年 明治天皇鎮座祭ニ參列スベク、上京ニ際シ汽車ノ三等室ニ於テ、未面識ノ一人カラ承タノデアリマス、仍テ其後法律ヲ調べ見ルト果シテ其通りデアアル、之ヲ收稅官吏ニ聞イテ見ルト、洵ニアレハ氣ノ毒デアアルガ、其ノ他ノ物品」ト云フコトニ解釋スルノ外ナイト云フ、ソレデハ甚ダ不都合ト心得マシテ、茲ニ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、事柄ハ簡單デアリ、小サナモノデアリマシテ、主稅局ニ聞イテ見マシレバ、數ノ稅額ハドノ位カ判ラヌ位ノモノデアアル、殆ド眼中ニ無イ位ノ僅サ

ナモノデアリマス、其稅ヲ裁ラカ廉クルト云フコトハ、國庫ノ收入ニハ何等關係ノ無イ問題デアリマス、而シテ法律ノ上カラハ公平ヲ期シ、權衡ヲ向フ其精神ノ上ニハ、最も看過スベカラザル事ト考ヘマス、諸君ノ御賛成ヲ祈リマス（拍手起ル）

○岩崎勳君 本案ハ巖ノ岩本平藏君外九名提出、所得稅法中改正法律案外二件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君） 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第二十五、民法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者奧村安太郎君

第二十五 民法中改正法律案（奧村安太郎君提出） 第一讀會

民法中改正法律案

民法中左ノ通改正ス

第九百七十五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但法定ノ推定家督相續人カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ト共ニ裁判所ニ申立テ爲シ其許可ヲ得テ廢除ヲ爲スコトヲ得

〔奧村安太郎君登壇、拍手起ル〕

○奧村安太郎君 諸君、民法改正ハ容易ナラヌ事デアリマス、併ナガラ茲ニ簡單ニ提案ノ理由ヲ説明致シタイト思ヒマスガ、其民法ノ一部ニ一ツ容易ナラヌ問題ガアルノデゴザイマス、我國ノ制度ニ依リマスレバ、家ヲ重ンズルト云フ習慣カラ起リマシテ、日本ハ其戸主權ノ喪失ノ所ニ、家督相續ニ依リ戸主トナリタル者ハ、其家ヲ廢スルコトガ出來ナイノデアリマス、所ガ茲ニ一ツノ例外ノ規定ヲ設ケマシテ、婚姻ニ依テ他家ニ入ラント欲スルトキハ、裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スコトガ出來ルノデアリマス、是ハ法律ガ粹ヲ利カシタルモノデアリマス、最も重イ所ノ戸主權ノ喪失デスラ、裁判所ノ決定ニ依テ之ヲ行フコトガ出來ルノデアリマス、併シナガラ法定ノ推定家督相續人ノ場合ニ於テノミ、裁判ヲ起サナケレバ他家ニ入ルコトガ出來ナイ規定ニナラテ居リマス、法定ノ推定家督相續人ガ他家ニ入ラント欲スルトキニハ、被相續人ト相續人トノ間ニ、裁判ヲ起サナケレバナラヌノデアリマス、此裁判ハ一箇年ニ我國ニ於キマシテハ何千アルカ判ラヌノデゴザイマス、殆ド滿場ノ諸君ハ此關係ニ依テ、屢、此事ニ遭遇セラレテ、不自由不便ヲ感ジラレテ居ルコトデアラウト思フノデアリマス、是ハ親子ノ間ニ裁判ヲ起スノデス、

外國ニ於テハ親子ノ間ニ裁判ヲ起スコトハ屢、アリマスガ、我國ニ於テハ容易ナラヌ事デアリマス、而モ是ハ本當ノ裁判デハナイノデ、所謂八百長ノ裁判デアリマス、親ガ子供ヲ外ニ出サナケレバナラヌ爲メニ、子供ヲ被告人トシテ訴ヘナケレバナラヌノデアリマス、サウシテ一方ニハ勝訴ヲ與ヘ、一方ニハ敗訴ヲ與ヘナケレバナラヌト云フヤウナ都合ナ規定デゴザイマス、隨テ訴訟費用ハ被告ノ負擔トスト云フヤウナ妙ナ關係ガ出來テ來ルノデアリマス、此場合ニ於テモ、戸主權ノ喪失ノ場合ト同ジヤウニ、單ナル決定ニ依テ、即チ非訟事件手續法ノ規定ニ從テ、判決ニ依ラズシテ決定ニ依テ之ヲ行フコトガ出來ル所ノ、所謂法律ガ粹ヲ利カシタ所ノ規定ヲ茲ニ設ケタイト思フノデアリマス、故ニ民法九百七十五條ノ二項ニ、今申シタヤウナ簡單ナル規定一項ヲ加ヘテ贊成アラント云フノガ、本案提出ノ趣意デゴザイマス、宜シク御セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成々々ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君） 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ。日程第二十六、地租條例中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、下田勳次君

第二十六 地租條例中改正法律案（下田勳次君外二名提出） 第一讀會

地租條例中改正法律案

地租條例中左ノ通改正ス

第二十條及第二十三條中「十五年以内」ヲ「二十五年以内」ニ改ム

第二十四條中「二十年以内」ヲ「二十五年以内」ニ改ム

〔下田勳次君登壇、拍手〕

○下田勳次君 極メテ簡單ニ提出ノ理由ヲ申上ゲマス本案ハ至ッテ簡單ナ事柄デアリマシテ、即チ地租條例第二十條中、水害其他ノ天災ニ依リマシテ、土地ヲ變形ヲ來シマシタ、其荒地ニ對スル免稅年限ヲ延長スルコト云フノ案デアリマス、諸君、我が瑞穂ノ國ノ國策ハ何ト云ヒマシテモ食糧問題、即チ米ノ問題ガ第一デアリマス、此問題ニ就キマシテハ、上下舉テ徹底的ニ其ノ進行ヲ期セナケレバナラヌノデアリマス、隨テ歴代ノ政府ニ於テモ、或ハ法令ヲ改正シ或ハ單獨ノ法令ヲ設ケバシテ、施設甚ダカメテ居ラレドデアリマスガ、本員尙ホ之ガ徹底ノ點ガアリマシテ、本改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、改正ヲ要スベキ第一ノ理由ト致シマシテハ、此地租條例ノ第二十條ノ荒地ノ免稅年限ヲ定メテアル簡條ハ、其實行上ニ於キマシテ、極メテ今日不

公平ノ結果ヲ來シテ居ルノデアリマス、不時ノ天災ニ依リマシテ、美ハシキ田地畑宅地等ガ一朝ニ致シマシテ、二尺或ハ三尺土砂ガ堆積致シ、或ハ缺落ナリ致シマシタ場合ニ於キマシテ、今日稅務官吏ガ其荒地ノ檢査ニ依リマシテ、此免稅年限ヲ與ヘマストキニハ如何ナル事ヤデ居ルカ、今日ノ實情カラ申シマスレバ、堆積シタ土砂ノ二尺乃至二尺五寸ノ所ニ對シテハ、最極限ノ十五年ト云フ年限ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、又ソレト同様ニ、同様な程度ノ缺落ニ對シテモ、十五年ノ免稅年限ヲ附與致シテ居リマス、是ハ尤ナ事デアアル之ガ復舊ニ要スル費用、其他ノ事ヲ打算致シマスレバ十五年ヲ與ヘテモマダ足りナイ位デアアル、併ナガラ此堆積シタル土砂ガ二尺五寸ノ程度ヲ超エ、或ハ三尺ニナリ、四尺五尺ニナリ、六尺ニナルトカ、或ハ缺ケ方ガ二尺三尺ノ程度ヲ超エテ、深ク缺落ナルト云フヤウナ場合ニ至リマシテモ矢張此條例ノ規定ニ依テ、十五年シカ免稅年限ヲ與ヘルコトハ出來ナイノデアリマス、是ガ即チ大ナル不公平、立法ノ不深切デアリマス、第二ノ改正ノ理由ト致シマシテハ、荒地ト云フモノト開墾ト云フ事ノ關係デアリマス、今日一朝不時ノ天災ニ罹リマシテ、一面ノ砂河原トナル其荒地、或ハ一面ノ湖沼ト化スル所ノ其荒地、其荒地ヲ復舊致シマシテ、元ノ美田、元ノ畑、宅地ニ復舊スル所ノ仕事、今日ノ荒廢地ヲ或ハ田面、或ハ畑宅地ニ致シマス事柄ト、其事柄ノ實體ニ於テ何等ノ差異ガアリマセウカ、然ルニ法ノ取扱フコトハ之ヲ區別致シテ居ル、即チ開墾ニ對シテハ、地租條例ノ第十六條ニ於キマシテ「開墾地ハ著手ノ年ヨリ二十一年目ニ其ノ成功ノ部分ニ對シテ地價ヲ修正ス」十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ニハ、缺下年期四十年ヲ附セラル、尙ホ耕地整理法第十四條ニ就キマシテ「開墾シタル土地ニ付テハ工業著手ノ年ヨリ四十年以内ノ地價据置年限ヲ附ス」若シ工事完了セザルトキハ十年以内ノ年期延長ヲ爲ス、斯ノ如ク開墾ニ對シテハ、缺下年期八十年ヲ附セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ荒地ノ復舊ニ對シテ、地租條例ノ第二十條ニ依テ十五年ガ最極年限デアアル、而モソレガ被害狀況ニ依テ、十五年以内ノ別々ニ與ヘラレル免稅年限デアリマス、先刻申上ゲマシタ理由ニ依テ、開墾ノ荒地ノ復舊ト云フモノハ同ジ性質デアアルカラシテ、此開墾ニ對スル缺下年期ト云フモノハ、即チ荒地ニ對シテハ、免稅年限ト同ジ性質ノモノデアリマス、然ルニ同ジ土地ノ利用ヲ完クル上ニ於キマシテ、開墾法ニ依ルノ荒地復舊シ依ルノ間ニ、斯ノ如キ懸隔ガアルト云フコトハ、到底食糧政策ノ満足ヲ期スル上ニ就テ忍ブベカラザル事ト考ヘルノデアリマス、尤モ廣大ナル荒地ヲ復舊致シマスニ就テハ、開墾助成法ノ一部ノ適用デ、或ハ助成ヲ得ルコトモ出來ル、或ハ又耕地整理法ニ

依ルコトモ出來ルガ、併ナカラ荒地ノ復舊ト云フモノガ、原則トシテ何トシテモ十五年以上ノ免租年限ハ與ヘラレナイコトニナリ、居ルノデアリマス、斯ノ如キ理由ヲ以テマシテ、法ノ權衡ヲ得ル爲メニ、食糧政策ノ徹底ヲ圖ル爲メニ、本改正ヲ必要トスル所以デアリマスカラ、ドウカ諸君ニ於カセラレマシテモ、御賛同アラシコトヲ希望シマス(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ岩本平藏君外九名提出ノ所得稅法中改正案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十七、刑事略式手續法廢止法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、佐野正雄君

第二十七 刑事略式手續法廢止法律案

(永屋茂君外四名提出) 第一讀會

刑事略式手續法廢止法律案

刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

〔佐野正雄君登壇、拍手起ル〕

○佐野正雄君 刑事略式手續法廢止法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ述ベマス、裁判ノ威信ト云フモノハ、極メテ之ヲ保持シ努メナケレバナラヌデアリマス、譯テ、刑事裁判ハ其尤ナモノト思フデアアル、然ルニ刑事略式手續法ハ、其施行日淺シト雖モ、御承知ノ通り公判審理ヲ略スル所ノ裁判方法デゴザイマスガ爲メニ、其今日ニ至ル迄ノ經過ハ、極メテ議論百出致シマシテ、裁判ノ威信ト云フモノハ地ニ墜チ、刑罰ノ威力ト云フモノモ隨テ零ト相成テ居ルデアリマス、今日人権擁護ノ聲ノ叫ノ際ニ方リマシテ、斯ノ如キ威信ノ無キ裁判方法ハ、甚ダ宜シキヲ得ナシモノト思フデアリマシテ、即チ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウカ滿場諸君ノ御賛同ヲ願フ次第デアリマス(拍手起ル)

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十八、埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、長谷川宗治君

第二十八 埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案

律案(粕谷義三君外七名提出) 第一讀會

埼玉縣下郡界變更ニ關スル法律案

埼玉縣秩父郡名栗村、吾野村ヲ同縣入間郡ニ編入ス

附則

本法ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔長谷川宗治君登壇、拍手起ル〕

○長谷川宗治君 埼玉縣下ノ郡界變更ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、本案ハ埼玉縣秩父郡名栗村、吾野村ノ二箇村ヲ、同縣入間郡ニ編入替フ致セントスルモノデアリマス、其理由ト致シマシテハ、此兩村ハ往昔入間郡ニ屬シテ居リマシタノデゴザイマス、何時ノ頃ヨリカ明カデハゴザイマセケレドモ、現在ノ秩父郡ニ編入ニナリマシタノデアリマス、併ナカラ天然ノ地形ハ、此兩村ノ秩父郡トノ間ニ、何レモ峻阻ナル峠ガアリマシテ、之ヲ隔テ、居リマスガ故ニ、此兩村ハ俗ニ外秩父ト申シマス、此兩村ノ秩父郡ニ屬シテ居リマスコトハ、實ニ不自然ノ甚シキモノデアルト思ヒマス、地形斯ノ如キ次第デアリマスルカ故ニ、自然道路ノ如キハ總ニ形バカリデゴザイマシテ、其交通ノ不便ナルコトハ想像ノ外デアリマス、殊ニ冬期ニ至リマシテハ全ク交通ハ杜絶スルノデアリマシテ、兩村ノ人民ハ非常ナ不便ト不利ヲ感ジツ、アルノデアリマス、之ヲ以テ其人情風俗、總テ入間郡トハ同一デアリマス、秩父郡トハ全ク異テ居ル次第デアリマス、社交上ノ事、或ハ營業其他ノ取引等モ、秩父郡トハ全ク没交渉デアリマス、之ニ反シマシテ、入間郡トハ密接ノ間接ヲ有シテ居リマス、次第デアアル、現ニ裁判所ノ如キ警察署ノ如キ郵便電信ノ如キ、悉ク皆ナ入間郡ニアル所ノ官衙ニ屬シテ居リマスノデアリマス、之ヲ見マシテモ、郡界ヲ變更スルノ必要ナルコトヲ知ルコトガ出來ヤウト思フデアリマス、或ハ秩父郡ヨリ此兩村ヲ除キマシタナラバ、秩父郡ガ自治團體トシテ存在シ得ベキヤ否ヤ、懸念セラレル御方モアリマセウケレドモ、秩父郡ハ相當ナル大キナ郡デアリマシテ、地形上カラ申シマスレバ、埼玉縣ノ三分一ヲ占メテ居ル次第デアリマス、其埼玉縣ニ於キマシテハ、比金郡トカ、若クハ北足立郡トカ、兒玉郡トカ云フ各郡ヨリモ、其人口、戶數、實力ニ於テモ、遙ニ優位ニ居ル次第デアリマス、殊ニ本年度マデハ同郡ニ於キマシテハ、郡費ニ於キマシテ一大苦痛ヲ感ジツ、アリマシタ所ノ郡立農學校ガアリマシタケレドモ、大正十年ヨリハ是ガ縣立ニナリマシテ、隨テ郡費負擔上ニ大輕減ヲ見タノデアリマス、最早今日トナリマシテハ、此兩村ヲ入間郡ニ編入替フ致シマシテ、秩父郡ノ自治上ニハ何等ノ影響ヲ及ボス虞ハナキモノト確信ヲ致シマス、以上ノ理由ニ依リマシテ、一日モ早ク兩村ノ舊來ノ縁故ニ依リマシテ、入間郡ニ復舊致シマシテ、兩村民ガ地勢上カラ被リツ、アル不便不利ヲ除キ去ランコトヲ熱望シテ

已マザル次第デアリマス、尙ホ詳細ノ事ハ委員會ニ於テ申述ベマスガ、何卒御審議ノ上御賛成アラシコトヲ希望シマス(拍手起ル)

○岩崎勳君 本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニハ御賛成ト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、只今議場若席ノ方ガ百名ニ達セヌ勢デアリマスカラ、暫時休憩致シマス

午後四時五十五分休憩

午後五時六分開議

○議長(奥繁三郎君) 定員ニ達シタヤウデスカラ、休憩前ニ引續キマシテ會議ヲ開キマス

○岩崎勳君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府提出供託法中改正法律案、及政府提出職業紹介法案ヲ各別ニ議題トシテ、逐次其第一讀會ノ續キヲ開キ、次ニ大正八年度豫備金支出ノ件、大正八年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正八年度特別會計豫備金支出ノ件、大正八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正八年度臨時事件豫備費支出ノ件、大正八年度臨時事件豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正八年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件、大正八年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、以上八件ノ承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト爲シ、各其委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラレムコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ヨリ提出ノ日程變更ノ動議ハ御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更サレマシタ、第一供託法中改正法律案ヲ議題ト致シマス、其第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長西村正則君

供託法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

報告書

一供託法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

供託法中改正法律案委員長

西村 正則

衆議院議長奥繁三郎殿

〔西村正則君登壇、拍手起ル〕

○西村正則君 只今議題ニナリマシタ供託法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ會計法改正ニ伴ヒマシテ、金庫制度ガ廢止セラレタムデアリマシテ、ソレガ爲メニ、從來金庫ニ於テ取扱ヒ來タ所ノ供託事務ヲ、別ニ供託局ナル一ノ官廳ヲ設ケマシテ、サウシテ此事務ノ取扱ヲ爲サシメルト云フデアリマス、御承知ノ如ク此供託ノ事務ナルモノハ、民事訴訟法又ハ民法ナドニ密接ナル關係ヲ持テ居ルモノデアリマス、故ニ、司法行政ノ監督ノ下ニ、其供託局ナルモノハ各裁判所内ニ設置スルデアリマス、其地方裁判所ニハ供託局ノ本局ヲ置キマシテ、サウシテ各區裁判所ヲシテ其出張所トシテ、サウシテ供託及供託品ノ保管事務ノ取扱ヲ爲サシメヤウト云フ法案デアリマス、委員會ニ於キマシテハ慎重審議ノ上、本院ニ於テ本案ハ可決スベキモノト決定致シマシタ、此段此報告申シ上ゲマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勲君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

供託法中改正法律案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ委員長ノ報告通り可決確定致シマシタ、次ハ職業紹介法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長安原仁兵衛君

職業紹介法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一職業紹介法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

職業紹介法案委員長 安原仁兵衛

衆議院議長與繁三郎殿

〔安原仁兵衛君登壇、拍手起ル〕

○安原仁兵衛君 報告ヲ致シマス、勞働問題ノ聲漸ク熾ナルノ時ニ方リマシテ、失業救済ニ關スル所ノ社會政策立法ノ一トシテ提出セラレタノガ、即チ此職業紹介法案デアリマス、本案ハ組織的劃一ノ下ニ系統ヲ追ツテ、市町村公共團體ヲシテ之ヲ經營セシムルト云フコトガ、本則ト相成テ居ル次第デアリマス、尤モ斯ノ如キ事業ハ、國家ノ當ニ經營スベキコトハ勿論デアリマス、一面ニ於キマシテ市町村公共團體ニ於キマシテモ、此公共團體ノ中ニ於ケル所ノ失業救済スル所ノ責任ノアルコトハ勿論デアリマス、故ニ法文ニ示スガ如ク、經費ノ上ニ於キマシテモ、市町村ガ之ヲ負擔スルヲ以テ原則トシ、國家ハ其二分ノ一以內ヲ補助スルコトニ相成テ居ル次第デアリマス、而シテ現在我國ニ存スル所ノ此種ノ經營ヲ爲ス人ニ對シテマシテハ、營利ノ目ヲ以テ經營シテ居ル者ニ對シテハ、他ノ法令ヲ以テ之ヲ取締ルコトニ相成テ居リマス、又公益的慈善的ニ之ヲ經營シテ居ル者ニ對シテハ、一定ノ期間内ニ監督官廳ノ許可ヲ受ケシメテ、而シテ其經營ヲ爲サシメルト云フコトニ相成テ居リマス、而シテ本案ハ、國際聯盟ニ依ル所ノ勞働條約ハ關係ハ無イデアリマス、他日國際聯盟ガ批准セラレマシテ勞働條約ガ實施サル、場合ニハ、之ニ當嵌マルコトニ相成テ居ルサウデアリマス、委員會ニ於キマシテハ失業問題ニ關聯致シマシテ、失業保險ノ問題デアルトカ、或ハストライキノ起タ場合ニ於ケル所ノ職業紹介法案トノ關係デアルトカ、或ハ失業救済ノ問題ニ關聯致シマシテ要スル所ノ簡易食堂、或ハ無料宿泊所ノ如キ問題ヨリ、就職者ノ賃率問題等ニ就キマシテ、精細ナル所ノ質問ガアッタデアリマス、斯ノ如キコトハ速記録ニ於テ御承知ヲ願フコト、致シマシテ、茲ニ報告ヲ省略致シマス、而シテ其委員會ノ結果ト致シマシテハ、委員諸君ノ中ニ於テハ、條件付ニ於テ之ヲ賛成スルト云フ諸君モアリマシタ、要スル所現代社會ノ要求ニ應ズル所ノ適切ナル法案ナリトシテ、滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シタ次第デアリマス、此段御報告致シマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 本案第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマス

○岩崎勲君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

省略シテ、委員長報告通り可決確定セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成々々ノ聲起ル〕

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ只今ノ動議前ニ、第二讀會ニ於テ賛成ノ通告ガアリマス、直チニ第二讀會ヲ開キ之ヲ許スコトニ致シマス

職業紹介法案

第二讀會

○岩崎勲君 ソレデハ動議ノ後段ヲ取消シマス

○議長(與繁三郎君) 太田信治郎君

○太田信治郎君 登壇、拍手起ル

○太田信治郎君 昨ハ本案ニ賛成ヲ表シマス、共ニ、聊カ希望ヲ述べ、本案ニ賛成ノ趣旨ヲ明カニ致シタト思ヒマス(簡單ト呼フ者アリ)本員ハ本案ヲ以テ完全無缺ノモノトハ認メマセヌガ、宛ニ角我國ニ於キマシテ、一番此不備ナル所ノ勞働立法ニ本案ノ如キモノノ提出ヲ見マシタト云フコトハ、先ヅ以テ必要ニ應ズル緊急已ムベカラザルモノデアリマシテ、故ニ多少ノ不備ナル點ハ、或ハ之ヲ施行スルニ於テ、之ガ運用上ニ於テ、此不備ヲ補フコトガ出來得ルカト信ジマシテ、本案ニ賛成ヲスルデアリマス、要スルニ本案ノ提出ガ、正ニ此國際聯盟ニ於ケル勞働會議ノ結果、之レガ勸告案トシテ採擇セラレタ所ノ國際聯盟ノ所謂勞働紹介ハ勸告案ニ基ツイテ、我國ニ於テモ之ニ見ル所アッテ提出ヲ促サレタモノデアリマシタ、云フ風ニ吾々ハ感激マス、併シ政府當局ニ於キマシテ、爾クハナト云フ説明デアリマス、要スルニ此國際聯盟ノ勞働會議ニ於ケル協約ト、離レベカラザル關係ヲ持ツベキモノデアルト信ジマス、而シテ本法ノ如キ此事業ハデス、今マデ社會の所謂救済事業ノ一トシテ見ラレテ居、タノデアリマス、ソレハ全然誤リデアルト云フコトヲ最近ニ至テ之ヲ發見セラレマシテ、而シテ本法ハ國家的、生産的發達ノ向上ヲ圖ル上ニ於テ、當然國家ガ施設シナケレバナラス事業ノ一デアルト云フコトヲ、世界各國ニ於テ、之ヲ認メラレ尤モ此法案ニ於テハ、英國ガ一番發達シテ居ルヤウニ思ハレマス、兎角歐米各國ニ於テハ、既ニ一世紀前ヨリ之ガ研究ヲセラレテ、獨逸ノ如キハ一千八百八十年以前ニ於テ、此職業法ト云フモノニ就テ既ニ研究ヲシ、或ハ實施ヲセラレタルコトガアル位デアリマス、然ルニ我國ガ漸ク今ニ至テ此案ノ提出ヲ見タト云フコトハ、非常ニ遅レテ居ルコトデアリマス、併シ無キニ優レ譯デアリマス、去ナガラ此國家の生産的の事業ト致シマシテ、國家ガ爲サナケレバナラヌ必然ノ事業トスル以上ハ、之ヲ町村ニ委託シテ、町村ノ事業トシテ之ヲ行フト云フコトハ、甚ダ其當ヲ得ザルモノデアリマス、町村ノ經費ハ年々増加致シテ參リマシテ、町村ニ於

ス、仍テ直チニ第三讀會ヲ開キマス

職案紹介法案

第三讀會

〔異議ナシニ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス仍テ本案ハ二讀會ノ決議通り可決確定致シマシタ(拍手起ル)——次ハ大正八年度豫備金支出ノ外七件ヲ議題ニ致シマス委員長ノ報告ヲ求メマス 委員長熊谷直太君

大正八年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

報告書 (委員長 報告)

一大正八年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

大正八年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)委員長 熊谷 直太

衆議院議長奥繁三郎殿

大正八年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

報告書 (委員長 報告)

一大正八年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

大正八年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)委員長 熊谷 直太

衆議院議長奥繁三郎殿

大正八年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

報告書 (委員長 報告)

一大正八年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

大正八年度特別會計豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)委員長 熊谷 直太

衆議院議長奥繁三郎殿

第二讀會

員長ノ報告ヲ求メマス、委員長熊谷直太君

報告書
大正八年豫備金支出ノ件（承諾ヲ求ムル件）

大正八年度豫備金支出ノ
件(承諾ヲ求ムル件)委員長

[illegible]

報告書

大正十年三月十日
大正八年豫備金外二拾元豫算超過及

年度特別會計豫備金支出ノ半（承

大正八年度特別會計豫備金支出ノ件（承諾ヲ求ム）報告書

大正十年三月十日
大正八年度特別會計豫備金支

© 2000 Blackwell Science Ltd *Journal of Internal Medicine* 247: 161–168

大正八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

(委員長報告)

報告書

一大正八年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

衆議院議長奥繁三郎殿

熊谷 直太

大正八年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

(委員長報告)

報告書

一大正八年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

衆議院議長奥繁三郎殿

熊谷 直太

大正八年度大正三年臨時事件豫備費外ニ於テ豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

(委員長報告)

報告書

一大正八年度大正三年臨時事件豫備費外ニ於テ豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

衆議院議長奥繁三郎殿

熊谷 直太

大正八年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

(委員長報告)

報告書
一大正八年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十年三月十日
衆議院議長奥繁三郎殿
熊谷 直太

大正八年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

(委員長報告)

報告書

一大正八年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年三月十日

衆議院議長奥繁三郎殿
熊谷 直太

熊谷直太君登壇、拍手起ル

○熊谷直太君 只今議題ニ上テ居リマス、大正八年度豫備金支出ニ關シ承諾ヲ與フル件外七件ニ關シマシテ、委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シタイト存ジマス、本案ハ御承知ノ如ク大正八年度ニ於キマス所ノ豫算超過及豫算外ノ支出ノ案件デアリマス、案自體ニ於テ既ニ重要ナル所ノ法案デアリマス、コトハ申上ゲルマデモアリマセ、即チ帝國憲法第六十四條第二項ニ依テ、承諾ヲ求メラル、所ノ案件デアリマス、ミナラズ、此ハ件ニ於テ承諾ヲ求メラレル所ノ金額ト云フモノハ、實ニ莫大ノ金額デアリマス、即チ一般會計大正三年臨時事件費ヲ併セマスルト云フト、實ニ三億五千四百三十九萬九千餘圓ノ多額ニ上ル所ノ承諾會計ノ額ハ一億四千八百餘圓ノ多額ニ上ル所ノ承諾案デアリマス、故ニ委員會ニ於キマシテハ、數回之ヲ開會シ或ハ午後ニ互テ審議ヲ經シマシテ、慎重審議ヲシタセマアリマス、委員會ノ經過ハ詳シク申上ゲルコトヲ要シマセ、ガ、憲政會ノ諸君ヨリ、米穀管理並ニ講和會議ノ費用ニ就キマシテハ、最も詳細ナル所ノ御質問ガアタリデアリマス、殊ニ米穀管理ニ就キマシテ外米管理ノ一買入ノ時期ニ關

シマシテハ、多少ノ御意見モ御漏シニナクヤデアリマス、併ナガラ委員會ハ此八案ニ對シマシテ、承諾ヲ與フヘキモノデアルト云フコトヲ、殆下大多數ヲ以テ決定致シタノデアリマス、右御報告ニ及ブ次第デアリマス(拍手)
○岩崎勲君 本案ハ委員長報告ノ通り承諾ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス
〔贊成ト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告通り承諾ヲ與ヘルコトニ決シマシタ(拍手)
○議長(奥繁三郎君) 次ハ日程第二十九佐賀監獄移轉ニ關スル建議案ヲ議題ニ供シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、日野辰次君

第二十九 佐賀監獄移轉ニ關スル建議案(川原茂輔君外三名提出)
報告書
一佐賀監獄移轉ニ關スル建議案(川原茂輔君外三名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十年二月十日
佐賀監獄移轉ニ關スル建議案委員長
日野 辰次

衆議院議長奥繁三郎殿
○日野辰次君 本案ノ委員會ニ就テ報告致シマス、此佐賀監獄移轉ニ關スル建議案ノ主張ハ、其位置ガ元ノ佐賀城内ノ監獄ニノ九ノ跡ニ在ル、而シテ各種ノ學校ヲ以テ圍マレテ居ルノデアアル、之ガ爲メニ、風教上又ハ思想上ニ惡影響ヲ及ボシテ居ルノデアアル、殊ニ又佐賀市ノ發展ノ方向ガ此佐賀監獄所在地方面ニ向テ居ルノデアアル、此監獄アルガ爲メニ、佐賀市ノ發展ガ阻害セラレテ居ルト云フ理由ニ在ルノデアリマス、之ニ對シマシテ政府委員ヨリハ、本案ノ主張ニ對シテハ固ヨリ事實ナリト認メテ同意ヲ表スルノデアアル、尙ホ佐賀監獄ハ行政――監獄行政ノ上カ見テモ、甚ダ宜シカラヌノデアアルト云フノハ、此監獄ハ明治十六年地方稅ヲ以テ出來タノデアアル、極メテ不完全ナル建物デアアル、ガ爲メニ執務ノ便否上、非常ニ都合ヲ感ジテ居ルノデアアル、此點カラ見テモ、之ガ監獄ノ移轉改築ハ必要ト認メテ居ルノデアアルデアアル、此全體全國ノ監獄ノ狀態ヲ看テ見ルト、佐賀監獄ト同様ノ狀態ニ在ルモノガ非常ニ澤山アルノデアアル

仍テ政府ハソレト願フ追ウテ、移轉改築ノ計畫ヲ立テ、居ルノアルケレドモ、唯タ如何セシ財政ガ之ヲ許サナイガ爲メニ、實行スルコトガ出来ズシテ、今日ニ及ンデ居ルノアルカラ、佐賀監獄ノ如キモ何時カラ著手ヲスルト云フコトハ、玆ニ明言スルコトハ出来ナイガ、勿論此建議案ノ趣旨ニハ同意ヲ客マヌノデアルト云フノガ、政府委員ノ御意見デアラノデアリマス、委員會ハ別段議論モアリマセヌノデ、全會一致本案ヲ可決致シタ次第デアリマス、ドウゾ本院ニ於テモ御賛同アラソコトヲ希望致シマス(拍手)

○岩崎勳君 本案ハ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ勳議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ勳議ノ如ク委員長報告通り可決致シマシタ、日程第三十、川内川改修ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、陣軍吉君

第三十 川内川改修ニ關スル建議案(萩亮君外五名提出)

報告書

(委員長報告)

一川内川改修ニ關スル建議案(萩亮君外五名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年二月十六日

川内川改修ニ關スル建議案委員長

陣軍吉君登壇、拍手

衆議院議長奥繁三郎殿

○陣軍吉君 川内川改修建議案ニ關スル委員會ニ於テル經過並ニ結果ヲ報告シマス、本川ハ鹿兒島宮崎兩縣ニ跨リテ居ル九州三大川ノ一ニ加ヘテ居ル、延長長イ川デアラノデアリマス、此水源ハ宮崎縣ノ方ニ屬シテ居リマス、而モ近來此水源ニ在ル所ノ山林約六千町歩ヲ伐採シテ居ルノデアリマス、向ホ今後八千町歩モ伐採シヤウト云フコトニナリテ居ルノデアリマス爲メニ、非常ニ洪水ノ際ハ水源ニ於キマシテモ、約十五尺以上ノ洪水ヲ爲シ、殊ニ鹿兒島縣三屬スル所ノ川内町附近約三四里ノ間ニ於テハ、洪水ノ際ハ二十尺以上モ洪水ガアルノデ、其被害ハ海ニ莫大ナモノデゴザイマス、本川ノ下流ト上流ト合セマスレバ、洪水毎ニ少クモ約二百萬圓近クノ大損害ヲ生スルノデアルノ

デゴザイマス、又此改修ニ就テ政府委員ノ意嚮ヲ聽キマスルノニ、無論相當ノ改修ヲ加フベキモノト認ムルト、斯ウ云フコトデアラノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、別ニ議論モ無ク、本案通り滿場一致ヲ以テ可決致シタノデアリマス、此段報告ニ及ビマス(拍手スル)

○岩崎勳君 本案ハ委員長報告通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ勳議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君) 御異議無シト認メマス、仍テ本案ハ委員長ノ報告通り可決致シマシタ(拍手)

第三十一 航空事業ノ擴張及其ノ行政機關ノ統一ニ關スル建議案(三善清之君外五名提出)

報告書

(委員長報告)

一航空事業ノ擴張及其ノ行政機關ノ統一ニ關スル建議案(三善清之君外五名提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十年二月二十四日

航空事業ノ擴張及其ノ行政機關ノ統一ニ關スル建議案委員長

菅原傳

衆議院議長奥繁三郎殿

航空事業ノ擴張ハ焦眉ノ急務ナリト認ム依テ政府ハ速ニ之カ行政機關ヲ統一シテ内閣直屬ノ一院ヲ設置シ陸海軍ニ屬スル編成、訓練、指揮等ノ件ヲ除クノ外一般機材ノ製造、民間斯道ノ獎勵指導、航空路ニ關スル諸般ノ設備、燃料ノ貯藏等ハ其ノ院ニ於テ管理シ以テ斯業ノ擴張進步ヲ企畫セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○菅原傳君 委員會ヲ數回開キマシテ、提案者ノ説明ハ固ヨリ、政府當局者ノ説明意見モ聽取リマシタ、尙ホ書類等ノ提出モ求メタノデアリマス、詳細ノ事ハ速記ヲ御覽ヲ願

ヒタイノデアリマスガ、此建議案ガ修正サレタノデアリマスルカラ、概略簡單ニ申述ベヤウト思フノデアリマス、此航空事業ニ關シマシテ、各國行政上ノ組織ナリ、又事業自身ニ就テモ、各異動ガアリ、優秀モアルノデアリマス、聞キマス所ニ依リマスレバ、英國ノ如キハ海軍モ陸軍モ民間ノ方モ全ク統一シテ、空軍省ノ下ニ管轄シテアルノデアリマス、斯ウ云フコトニナリテハ、大戰ノ場合ニ急速ニ此航空事業ノ擴張ヲ圖クノデ、海軍ハ海軍、陸軍ハ陸軍、民間ハ民間ト云フヤウニ、互ニ競争ノ氣味ガアタノデアリマス、其結果トシテ人ノ奪合、工場ノ奪合、機械ノ奪合ト云フヤウナ弊モア、タ爲メニ、委員會ヲ組織シタガ、ソレデモ尙ホ協調ヲ保ソコトガ出来ナイノデ、空軍省ト云フ一省ノ下ニ統轄スルコトニナリマス、佛蘭西ノ方ハ今日ハ工務省ト云フ所デ、或程度マデ統一サレテアルサウデアリマス、御承知ノ通り大戰ノ場合ニハ、佛蘭西ニ於キマシテハ陸軍ガ主ニ働イテ、陸軍内ニ工務次官局ト云フモノヲ置キマシタ、此航空事業ノ事ヲヤツサウデアリマスガ、一體此製作其他ノ事ニ就テモ、佛蘭西デハ民間ノ方ガ發達シテアタノデ、今日ニ於テモ海軍ナリ陸軍ナリ使フ所ノ一使用スル所ノ飛行機其他ノモノハ、他ノ方面カラ供給スル、工務省カラ供給スルコト云フコトニナリサウデアリマス、斯ウ云フ鹽梅デアリマスカラ、海軍ト陸軍トハ軍事上ノ事ハ免モ角モ、機械其他ノ事ハ工務省カラ供給サレ、工務省ガ豫算其他ノ事ニ就テモ責任ヲ負ウヤタルト云フヤウナ組織ニナリテ居ルサウデアリマス、亞米利加ノ如キハドウデアアル、英國ノヤウニ矢張全部統一シヤウト云フヤウナ議論モアツサウデアリマスガ、今日ハ海軍ハ海軍、陸軍ハ陸軍、遞信ハ遞信ト云フヤウニ、大體分レテアルコトニ承リマシタ、其他獨逸ナリ、或ハ伊太利ナリ、皆テ各、國情一其狀況ニ依リテ、此行政上ノ取扱モ違テ居ルサウデアリマスガ、倍テ帝國ノ行政ハドウデアアル、是ハ御承知ノ通り航空局ガアテ民間ノ事ヲ取扱ヒ、其上航空路ノ事ナドニ就テモ調査中デアアルサウデアリマスガ、至テ微々タルモノヲ、豫算カラ申シマシテモ微々タルモノデ、初歩デアアルノデアリマス、陸軍ハドウデアアルカ、是モ此方面ニ於テ研究モシ、擴張ノ事ヲ圖クテ居ル、海軍モ同様デアアルノミナラズ、海陸協調シテ會モ作テ、協調ニ爲シ得ベキ事ハ協調シ、或ハ其受持區域等ニ就テハ今尙ホ研究シテ、統一等ノ事ニ就テモ調査中デアアルサウデアリマスガ、要スルニ今調査中デアラ、行政上ノ事モモウ一步進メテ、玆ニ確定的の方針ヲ立テナレバナラヌト云フヤウナ狀態ニ今日在ルト云フコトデアル、是ハ行政上ノ概略デアリマスガ、實際事業自身ニ就テノ有様ハドウデアアルカ、各國ト比較シテ、帝國ノ事業ノ不振ナルコトハ嘆ハシイ

ノデアリマス、量ニ於テモ、實質ニ於テモ、兵器ノ如キモ、亞米利加ナリ、英國ナリ、佛蘭西ノ如キ何億ト云フノデアアル、機械ノ如キモ何千臺ト云フノデアアル、軍隊ノ如キモ或ハ百中除、或ハ一師團トカ云フヤウニ、殆ト日本トハ桁が違フテ居ル、經營ノ點ニ於テモ勿論少ナイミナラズ、中除ノ如キモ、日本ニハ十中除ソコト云フ話デアリマス、機械ノ如キモ三十機位デアリマス、至テモ桁がマルデ違フテ居ルト云フヤウナ狀態デアリマス、所デ今少シ細カク此日本ノ飛行機ノ操縦、飛行機ノ製造、飛行機ノ原料、此三ツニ分ケテ各國ト比較シタラドウデアアルカ、日本ノ有様ハドウデアアル、極ク短カク申シマスレバ此操縦ノ方法ニ於テモ、他ノ亞米利加ナリ、英國ナリ、佛蘭西ニハ及バヌデアリマス、併ナガラ優良ナル飛行機ヲ供給シタナラバ、必ズ彼ニ及バヌコトハナイト云フヤウナ狀態ニ在リマスデアリマス、尤モ此日本ノ飛行家ハ、或ハ墜落シ、死傷等モアルノデ、何カ餘程日本人ハ下手デハナカラウカト云フヤウナ考ヲ持ッテ居ル人モアルデアリマスガ、決シテ統計上ハサウデナイサウデアリマス、今迄此統計ヲ見マスレバ、總計凡ソ一千八百時間ニ一飛行時間ニ一人死亡シタ譯ニ日本デハナッテ居ルサウデアアル、歐羅巴ノ方デハ優良ナ機械デ、二千時間ニ一人死ンデ居ルト云フヤウナ鹽梅、亞米利加ノ如キハ一千六百時間ニ一人死亡ト云フヤウナ大凡ノ統計デアリサウデアリマスガ、此統計カラ見マシテモ、十分益ニ勉強サヘスレバ、優良ナル機械ヲ供給セバ、日本人ガ白人ニ劣ルト云フヤウナコトハ事實上ナイデアアル、必ズ十分ニ對峙スルコトハ得ルト云フヤウナ狀態デアリサウデアリマス、(拍手起ル)然ラバ此製作上ニ就テハドウデアアルカ、飛行機ノ製作、或ハ發動機ノ造方ハドウデアアルカ、是ハ餘程劣テ居ルト云フ狀態サウデアリマス、英國ナリ、佛蘭西ナリ、大戰ノ場合何故アナンニ急速ニ發達シタカト云フニ元々彼ノ國ニ於テハ、工業ノ基礎ガ進ンデ居ル、學問モ技術モ進ンデ居ルカラ、金ヲ掛ケテ一生懸命ニナッタカラ、直チニ發達シタト云フヤウナ譯合デアアル、我が帝國デハ殘念ナガラ此工業上ノ事ナリ、學術上ノ事ハ、未ダサウ云フ程度マデ進ンデ居ラヌノデ、中ノ研究シテ新案ヲ造ルト云フコトニ就テハ容易デナイ、或新案ヲ造ラウトシテモ、二年程掛ツト云フヤウナ譯デ、又外國ノ發動機ヲ持ッテ來デ、其儘眞似シテ造デ見テモ、四年モ掛ツト云フヤウナ鹽梅デ、此點ハ實ニ嘆ハシイデアリマスガ、是モ努力如何ニ依ッテ、此節ハ餘程此邊ノ大體ノ研究モ付キ既ニ外國人ナドニ習ッテ、今日デハ必ズシモ悲觀スルト云フコトナク、此點モ必ズ彼ニ對抗スルコトヲ得ベシト云フヤウナコトヲ、當局者ハ信ジテ居ルヤウナ次第デアアル、然ラバ此原料

ニ就テハドウデアアル、是ガ問題デアリマス、原料ト申シマシテモ飛行機ノ原料ハ澤山アリマスガ、其中ニ鋼鐵ト云フ特殊ノ物ノ如キ餘程困タサウデアリマス、我國ニ於テ特殊ノ鋼鐵ト云フ物ハ中ニ出來ヌデアリマスガ、是モ民間等ニ獎勵シテ、今日ハソレモ出來ルコトニナツト云フコトハ慶ブベキ事デアリマス、サリナガラ輕イ金トカ「アルミニウム」ナデアリマセウ、輕イ金トカ、或ハ細イ張金ナント云フ、此飛行機ニ使フ原料ガ、マダ旨ク造レヌト云フデアリマス併シ是モ必ズ近キ將來ニ於テ、何トカ造ルコトヲ得ベシト云フヤウナ自信ヲ以テ、當局者ガ自信ヲ以テ當局者ガ聲明シテ居ルデアリマス、尤モ是ハ日本ノミナラズ、或ハ佛蘭西ノヤリ得ルモノヲ獨逸デアレスト云フヤウナ事ガアッテ、各國長短ガアルデアアルカラ、日本ガ決シテ悲觀スベキ必要モ無い、絶望スベキ必要モ無いデアリマスガ、總體ニ此飛行事業ナルモノニ就テハ、非常ナ努力ヲ致シマセヌケレバ、各國ト對抗スルコトガ出來ヌト云フヤウナ今日ノ狀態デゴザイマス、(拍手起ル)斯ク概括のニ申シタナラバ、行政ノ方ノ事ヲドウシテモ一步ヲ進メテ、安ニ確定の三方針ヲ立テナケレバナラヌ、此事業ヲ擴張スル意味ニ於テシナケレバナラヌシ、事業自身モ今申ス通り低イデアアルカラ、大努力ヲ要スルコトハ申スマデモアリマセヌ、今日ノ海陸軍ニ就テモ、御同様經費ヲ協賛シテヤッテ居リマスガ、イザト云フ國防ノ場合ニ國防上ノ見地カラシテ、今日ノヤウナ貧弱ナル飛行事業デハ、國防ノ眞意義ヲ發揮スルコトガ出來ヌト思フデアリマス、(拍手起ル)又平時ニ於テモ運輸交通ノ點カラ見マシテ、今ノ通信省ノミデハ、此通信ノ眞意義ヲ發揮スルコトガ出來ヌト思フデアリマス、(ヒヤ)「ドウシテモ此所ハ行政上ノ組織ヲ一定シ、サウシテ此飛行事業ノ大擴張、大發達ヲ圖ラナケレバナラヌト思フデアリマス、(拍手起ル)是等ノ意味カラ致シマシテ修正案ガ出來タデアリマスガ、今讀上デマス、此修正案ナルモノハ、元々其趣意ニ於テハ此壇上ニ於テ提案者ノ一人三善君ガ詳細ニ御述ニナッタデアリマスガ、其趣意トハ大體ニ於テ變リガナイデアリマス、唯ダ内容ヲ明確ニシ、文字ヲ修正シテ、此修正案ガ成タデアリマスガ、今讀上デマス、航空事業ノ擴張ハ焦眉ノ急務ナリト認ム依テ政府ハ速ニ之カ行政機關ヲ統一シテ内閣直屬ノ一院ヲ設置シ陸海軍ニ屬スル編成訓練指揮等ノ件ヲ除クノ外一般機械ノ製造民間道路ノ獎勵指導航空路ニ關スル諸般ノ設備燃料ノ貯藏等ハ其ノ院ニ於テ管理シ以テ斯業ノ擴張進歩ヲ企畫セラレムコトヲ望ムト云フデアリマス、大要ハ陸海軍軍事上特殊ノ編成ナリ、訓練ナリ、指揮ノ事

業ハ陸海軍デアルガ、其他ノ事ハ内閣直屬ノ一院ヲ設ケテ、航空事業ノ發達ヲ圖ラタカ宜カラウト云フ趣意ニ因ルデアリマス、此修正案ニ就キマシテハ、政府當局ニ於テモ大體ノ趣意ニハ賛成シ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決確定致シタデアリマスカラ、諸君ニ於テモ是非御賛成ヲ願ヒタイ次第デアリマス(拍手起ル)

○岩崎勲君 本案ハ委員長報告ノ通り、即チ委員會ニ於テ修正議決ノ通り可決確定セラレシコトヲ望ミマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、依テ只今委員長ノ報告ニナツタ通り、委員會ニ於テ修正サレタル案ノ如ク可決致シマシタ(拍手起ル)日程第三十二ハ延期ニナリマシタ

○岩崎勲君 殘餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出致シマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、本日ハ是ニテ散會

午後五時五十五分散會